神奈川県精神科病院協会
創立六十周年記念誌

一般社団法人 神奈川県精神科病院協会

令和４年度定期総会（令和５年５月30日　於　横浜ベイホテル東急）

目　次

挨　拶

一般社団法人 神奈川県精神科病院協会会長 …… 山口哲顕 …… 1
神奈川県精神科病院協会役員一覧（役務分担） …… 2
神奈川県精神科病院協会歴代役員系譜（平成26年4月～） …… 3

祝　辞

神奈川県知事 …… 黒岩祐治 …… 6
横浜市長 …… 山中竹春 …… 7
川崎市長 …… 福田紀彦 …… 8
相模原市長 …… 本村賢太郎 …… 9
公益社団法人 神奈川県医師会 会長 …… 菊岡正和 …… 10
公益社団法人 神奈川県病院協会 会長 …… 吉田勝明 …… 11
一般社団法人 神奈川県精神神経科診療所協会 会長 …… 斎藤庸男 …… 12
公益社団法人 日本精神科病院協会 会長 …… 山崎學 …… 13
北里大学病院精神神経科 科長・北里大学医学部精神科学 教授 …… 稲田健 …… 14
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室 主任教授 …… 古茶大樹 …… 15
東海大学医学部総合診療学系精神科学 領域主任教授 …… 山本賢司 …… 16
横浜市立大学附属病院 精神科診療部長補佐 …… 浅見剛 …… 17
昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター長・教授 …… 稲本淳子 …… 18
帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科 科長・教授 …… 齋藤正範 …… 19

神精協の思い出

神奈川県精神科病院協会と私 …… 畑俊治 …… 22
神精協の思い出 …… 小池ひかる …… 24
一般社団法人 神奈川県精神科病院協会創立60周年に寄せて …… 植松俊夫 …… 26
発刊に寄せて …… 中庭良枝 …… 27

研修会報告

神奈川県精神科病院協会精神科看護職員研修会 精神科新人看護職員・中堅看護職員
認知行動療法研修 実施報告書 …… 大　矢　瑞　穂 …… 35

創立60周年記念式典・講演会・祝賀会

創立60周年記念式典 …… 46
創立60周年記念講演会 …… 47
創立60周年記念祝賀会 …… 48

会員病院紹介

会員病院紹介 …… 53

資　料

神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市等関係各種委員会委員年次別一覧 …… 118
会員病院（正会員）の変遷 …… 121
日本精神科病院協会神奈川県関連　役員および委員会名簿 …… 123
褒章等受章者年度別一覧 …… 127
神奈川県精神科病院協会　会報総目次 …… 133
神奈川県精神科病院協会　年表 …… 138

あとがき …… 大　滝　紀　宏 …… 164

神奈川県精神科病院協会 創立60周年を迎えるに当たって

一般社団法人 神奈川県精神科病院協会会長
山口 哲顕

神奈川県精神科病院協会は昭和38年11月15日に28病院を会員として任意団体としてスタートし、令和5年11月で創立60周年を迎えることができました。これも行政、医師会、病院協会等の関係各位のご支援、ご指導、並びに会員病院のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

初代会長の塩崎淑男先生（常盤台病院）から石井　清先生（藤沢病院）、石川準子先生（曽我病院）、栗田正文先生（栗田病院）、竹内知夫先生（愛光病院）へと受け継がれ、本年5月30日より私が第6代会長を仰せつかりました。歴代の会長が神奈川県の精神医療の発展に尽力されたそのご功績は多大でありますが、特に栗田先生には34年、竹内先生には19年、それぞれ会長として協会をけん引して戴きました。

60年の年月を経て、現在は神奈川県下52の民間精神科病院と北里大学病院、東海大学付属病院、聖マリアンナ医科大学病院、昭和大学横浜市北部病院の計56病院を正会員として、横浜市立大学附属病院、神奈川県立精神医療センター、国立病院機構久里浜医療センター、川崎市立川崎病院、恩賜財団済生会横浜市東部病院、横浜市立みなと赤十字病院の6病院を賛助会員として活動するまでに至っています。

協会設立の目的は、精神科病院その他精神疾患を有する者に対する医療施設の向上を図るとともに精神保健福祉に関する調査研究及びその思想の普及啓発に関する事業を行い、社会福祉の増進及び精神医学の発展に寄与することにあります。そして、その目的を達成するために、会員病院に勤務する医師、薬剤課職員、看護職員、栄養課職員、事務職員、ケースワーカー等のコメディカル職員に対する教育研修を行い、更に神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市と協力して精神科救急医療体制の充実や、災害時医療体制の確保等に努めてきました。

また、行政や医師会、病院協会等の要請に応じて各種会議に委員を派遣する等して関係機関との連携にも力を入れ、更にコロナ禍においては精神疾患を有する患者様が新型コロナウィルスに感染された時の医療体制を神奈川県と協力して整備する等しました。

創立50周年記念事業以降の10年間、世間的には令和への年号変更、東京オリンピックの開催、ロシアのウクライナ侵攻、地震や集中豪雨といった自然災害の多発、新型コロナウィルスの蔓延等があり、精神科領域では精神保健福祉法の改正、診療報酬の改定、精神保健指定医の不正取得問題、ストレスチェック制度の策定、多剤薬物療法に対する規制強化、相模原市障害者支援入所施設の事件、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築等の動きがありました。協会としてはコロナ禍の中、令和3年に日本精神科病院協会 第10回日本精神科医学会学術大会を開催することが出来ました。

3年を越えるコロナ禍により、会員病院は疲弊したと感じております。クラスターが発生した病院はもちろんのこと、発生しなかった病院でも入院の制限を行う等したため、病床稼働率の低下等といったこれまでなかった問題も発生してきています。また、医師の働き方改革、物価の急騰等にも対処が必要です。

この他にも課題は多々ありますが、関係各位、会員病院のご協力を戴き、善処していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

終わりに本記念誌にご祝辞を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

神奈川県精神科病院協会役員一覧

（役務分担）

会長	山口哲顕	総務（経理・厚生含む）渉外（県・市、県医師会、県病院協会、県診療所協会、日精協、他関係団体）医療問題（医療連携・横浜市・川崎市）精神科救急医療体制調整委員会（統括）
副会長	大野史郎	総務（経理・厚生含む）渉外（県・市、県医師会、県病院協会、県診療所協会、日精協）会議（統括）学術・研修・教育（統括）医療問題（統括、医療連携・相模原市）精神科救急医療体制調整委員会（統括）
副会長	大滝紀宏	総務（経理・厚生含む）渉外（県・市、県医師会、県病院協会、県診療所協会、日精協、他関係団体）会議（統括）学術・研修・教育（統括）会報（統括）医療問題（統括、医療事故対策、医療連携・県域）精神科救急医療体制調整委員会（統括）
理事	畑　俊治	学術・研修・教育（看護職員研修、栄養課職員研修、コ・メディカル研修会）精神科救急医療体制調整委員会（第1・2ブロック代表）
〃	黒岩　隆	会議（事務長会議、看護部長会議、薬剤部長会議）精神科救急医療体制調整委員会（第3ブロック代表）
〃	武田龍太郎	総務（経理）渉外（日精協）会報、医療問題（医療連携・川崎市）精神科救急医療体制調整委員会（第1・2ブロック代表）
〃	長谷川　剛	渉外（県病院協会、日精協）学術・研修・教育（講演会）医療問題（医療連携・県域）精神科救急医療体制調整委員会（第4ブロック代表）
〃	坂井喜郎	渉外（日精協）学術・研修・教育（講演会）医療問題（医療事故対策、医療連携・県域）精神科救急医療体制調整委員会（第4ブロック代表）
〃	増田直樹	会議（代表者・院長会議）精神科救急医療体制調整委員会（第3ブロック代表）
〃	馬場淳臣	会議（代表者・院長会議）学術・研修・教育（栄養課職員研修）会報、災害時対策委員会
〃	佐伯隆史	医療問題（医療事故対策、医療連携・横浜市）精神科救急医療体制調整委員会（第1・2ブロック代表）
〃	山田　聡敦	会議（看護部長会議）精神科救急医療体制調整委員会（第4ブロック代表）
〃	笠原　友幸	会議（事務長会議）学術・研修・教育（看護職員研修）
〃	藤渡辰馬	会議（薬剤部長会議）学術・研修・教育（栄養課職員研修）会報、医療問題（医療連携・横浜市）
監事	長谷川吉生	渉外（日精協）会議（看護部長会議）学術・研修・教育（講演会）会報、災害時対策委員会
〃	澤山　透	会議（薬剤部長会議）学術・研修・教育（コ・メディカル研修会）医療問題（医療連携・相模原市）精神科救急医療体制調整委員会（第3ブロック代表）災害時対策委員会

神奈川県精神科病院協会歴代役員系譜

（平成26年４月～）

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
山口哲顕	理事			副会長						会長
竹内知夫	会長									名誉会長
大野史郎	理事	副会長								
大滝紀宏	理事									副会長
荒井政明	副会長			理事				顧問		名誉会員
熊田隆夫	副会長									
畑　俊治	理事									
佐伯　彰	理事									
石井一彦	理事									
黒岩　隆	理事									
川口陽太郎	理事									
武田龍太郎	理事									
長谷川　剛	理事									
坂井喜郎	理事									
増田直樹		理事								
天保英明		理事			～30.9.30					
熊田貴之		理事	～28.7.14							
馬場淳臣				理事						
佐伯隆史						理事				
山田聡敦						理事				
笠原友幸								理事		
藤渡辰馬										理事
西井華子	監事							顧問		
堤　康彦		監事								
長谷川吉生				監事						
澤山　透								監事		
古谷和久									顧問	

祝　辞

創立60周年に際しての祝辞

神奈川県知事　黒岩 祐治

このたび、一般社団法人神奈川県精神科病院協会が創立60周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、昭和38年の創立以来、医療を取り巻く環境やニーズの変化に的確に対応し、一貫して本県の精神保健医療の向上に多大な貢献をしてこられました。

また日頃から、本県の精神科救急医療体制など、県民への良質な医療の提供をはじめとして、県政全般にわたり、ひとかたならぬ御協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

これもひとえに、歴代の会長、そして会員の皆様の御熱意とたゆまぬ御努力のたまものと深く敬意を表します。

さて、県では、令和５年４月に「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を施行いたしました。今後、条例に基づく基本計画を策定し、障がい者も含めた県民、事業者、県等が互いに連携し、誰もが安心していきいきと暮らすことのできる地域共生社会の実現を目指して取組を進めてまいりますので、貴会におかれましても、御理解、御協力を賜りますようお願いいたします。

また、精神保健医療に関しては、令和４年に精神保健福祉法が改正され、入院患者への訪問支援や精神科病院における虐待防止措置等が新たに規定されました。今回の法改正は、当事者の意思を尊重し、人権擁護をより進めるとともに、支援の充実を図るものであり、県が進める「当事者目線の障がい福祉」と軌を一にするものと考えています。県では、法改正に的確に対応するとともに、貴会とも連携しながら、「患者目線」の精神保健医療の実現に全力で取り組んでまいりますので、引き続きの御協力をお願いいたします。

結びになりますが、これまで皆様が培ってこられた豊かな経験や実績を生かし、より良質な精神保健医療の提供に御尽力いただきますとともに、県政への一層の御協力を賜りますようお願い申し上げ、私の祝辞といたします。

神奈川県精神科病院協会 創立60周年を祝して

横浜市長　山中 竹春

神奈川県精神科病院協会が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

山口会長をはじめ、貴協会の皆様には、精神科医療の提供や精神科救急医療体制の確保により、日々、地域の医療提供体制をお支えいただいています。皆様のご尽力に、深く感謝申し上げます。

昨今、不安定な社会情勢や経済的な困窮、孤独・孤立等、様々な理由により多くの方が不安を抱えており、精神科医療を必要とされる方も年々増加しています。こうした中、令和４年12月には「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」が改正され、精神障害を抱える方が地域で安心して暮らし続けられるよう、当事者の権利擁護や地域生活の支援の強化等を図り、それぞれの希望やニーズに応じることができる支援体制を整備することとされています。このような情勢の変化の中、貴協会には、地域の精神科医療において、長年にわたり大変重要な役割を担っていただいており、改めて御礼申し上げます。

本市では、「第４期横浜市障害者プラン」のもと、精神障害のある方も地域で安心して暮らせるよう、引き続き、医療・保健・福祉の連携に向けた取組を進めていきます。さらに、保健医療分野における本市の中期的な指針である「よこはま保健医療プラン2024」においては、こころの健康を維持する人の増加に向けた取組を進めるほか、精神科救急体制を充実させていくこととしています。

精神障害のある方もない方も、誰もが住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる社会を構築していくためには、様々な施策を着実に進めるとともに、精神科医療に携わる皆様をはじめとする、医療・保健・福祉分野の皆様、事業者の皆様、地域の皆様、そして行政が一体となって取り組んでいく必要があります。引き続き、皆様の変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

むすびに、神奈川県精神科病院協会の更なるご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

創立60周年を祝して

川崎市長　福田 紀彦

この度の一般社団法人神奈川県精神科病院協会の創立60周年につきまして、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より本市における精神保健福祉施策につきまして、深いご理解と多大なるご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昭和38年11月の創立以来、半世紀以上に渡ってご活躍を続けてこられました背景には、精神疾患のある方やそのご家族が地域で安心して豊かに暮らすことができるよう、安心・安全な通院、入院医療の提供とともに、精神科救急医療体制整備の着実な推進等、神奈川県精神科病院協会会員皆様のご努力の賜物によるものであり、良質な精神科医療提供体制の確保を実施されてきたことに敬意と感謝の意を表したいと思います。

近年は、新型コロナウィルス感染症の流行など、精神科医療提供体制に多大な影響があったかと存じます。そのような中におきましても途切れることのない精神科医療提供体制を維持していただいたことに重ねて感謝申し上げます。

本市では、「全ての地域住民」を対象とした「地域包括ケアシステム」の構築を推進しております。誰もが、住み慣れた地域や自らが望む場で暮らし続けることができるような地域の実現という基本理念の推進と併せて、精神障害のある方が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう、医療機関の皆様や地域の相談支援事業所、福祉サービス事業所等の地域支援事業者などとの連携により、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進めるなど、精神障害のある方への更なる支援に取組んでまいりたいと考えております。精神保健福祉法の改正や新型コロナ５類移行後の対応等、刻々と変化する社会情勢ではございますが、引き続き会長をはじめ会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも地域とともに歩み、開かれた精神科医療の拠点としてますます発展されますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立60周年をお祝いして

相模原市長　本 村　賢太郎

一般社団法人神奈川県精神科病院協会が設立60周年を迎えられましたことをお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和38年の設立以来、県内の精神科病院及び精神障害者に対する医療施設の向上に取り組まれるとともに、医師や医療従事者への研修を積極的に開催されるなど、人材育成、教育に力を尽くされ、精神科医療の充実に多大なる成果をあげておられます。貴協会の皆様の、長きにわたる精神医療の発展と社会福祉の増進への御貢献に、深く敬意を表しますとともに厚く御礼を申し上げます。

また、神奈川県、横浜市、川崎市並びに本市の4県市で運営する精神科救急医療対策事業におきましては、当番病院や応援指定医派遣の調整など、事業の根幹となる役割を担っていただくとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大に際しましては、感染が疑われる精神科患者を受け入れる精神科重点医療機関の設置にひとかたならぬお力添えをいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

精神科医療につきましては、令和4年12月に、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律などの一括改正法が成立し、「障害者や難病患者等が地域や職場で生きがい・役割を持ち、医療、福祉、雇用等の各分野の支援を受けながら、その人らしく安心して暮らすことができる体制づくりを目指す」ことが求められており、貴協会の担う役割は益々大きくなるものと期待申し上げます。

本市では、「共にささえあい 生きる社会」を合言葉に掲げ、障害への理解の促進や重度の障害のある方が地域で自分らしく生活するための様々な施策を実施するとともに、すべての人がかけがえのない個人として尊重され、お互いの人権を認め合う社会の実現のため、「（仮称）相模原市人権尊重のまちづくり条例」の制定に取り組んでおります。今後も皆様方との対話を大切にしながら、誰ひとり取り残さない共生社会の実現を目指してまいりますので、引き続き、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、このたびの60周年を契機とした神奈川県精神科病院協会の益々の御発展と、会員の皆様方の御活躍と御健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

神奈川県精神科病院協会 60周年記念誌発刊を祝って

公益社団法人 神奈川県医師会 会長
菊岡 正和

神奈川県精神科病院協会におかれましては創立60周年を迎えられ、その輝かしい御功績に衷心よりお祝い申し上げます。

このたび、創立当時から今日までの歴史を回顧し、後世に伝え残していく記念誌の発刊に際し、お祝いを述べさせていただきますことを、光栄に存じます。

貴会は、昭和38年に創設されて以来、60年もの永きに渡り、大きく変動する社会環境の中で、常に時代の医療ニーズに即応した諸事業の展開、地域に根ざした医療の実践を推進してこられました。

高齢多死社会の到来を目前に控え、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるよう、地域の実情に即した地域包括ケアシステムの構築が急務となっている我が国において、精神疾患をはじめとする心の問題に対しては、より専門的な治療の必要性が指摘されております。特に、医師の働き方改革が施行される令和６年４月以降は、精神疾患を伴う救急患者の搬送受入れ問題や災害時対応といった課題に的確に対応していくことが求められる中で、これまで地域に根ざした組織として、精神科病院及び医療施設の向上等に寄与されてきた貴会の果たす役割は極めて大きいと考えます。

さて、昨今の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、医療を取り巻く環境は大きく変化いたしました。医療界においては、令和６年度に診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定が控えている他、2024年度からは第８次医療計画が開始となります。依然として厳しい状況は続きますが、神奈川県医師会として、かかりつけ医機能を中心に、地域の医療提供体制のあり方を模索すると共に、持続可能な社会保障制度の確立に向け、これまで以上に日本医師会、郡市医師会、行政と連携を図り、執行部一丸となって会務に取り組んで参る所存です。

最後になりますが、今般の創立60周年を契機として、神奈川県精神科病院協会のますますのご発展をお祈り申し上げ、発刊に寄せる言葉といたします。

創立60周年を祝して

公益社団法人 神奈川県病院協会 会長
吉田 勝明

神奈川県精神科病院協会が創立60周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴会は昭和38年の設立以来、永きに渡り、精神医学の発展に大きく貢献され、医療の充実・向上に積極的に取り組まれてまいりました。

歴代の役員の先生方をはじめ、貴会関係者の皆さまのご尽力の賜と深く敬意を表します。

さて、この60年の間、私たちは幾多の試練を課せられました。医療制度の改革、慢性的な医師・看護師の不足、加えて消費税増税や物価高騰による経営圧迫など、医療を取巻く環境は大変厳しい状況であります。

このように多くの課題が山積する中、COVID-19に世界中が大きく動かされています。2020年1月、神奈川県で我が国初めての新型コロナウイルス感染症の患者が判明し、さらにダイヤモンド・プリンセス号を契機に、神奈川DMATによる救急搬送と受入れ病院の先生方の奮闘が始まりました。

その後、市中感染が広がり出口が見えない中、こうした局面を乗り越えようと、貴会をはじめ、かながわDPATなど多くの医療関係者がご苦労されました。

このような状況において心を病む人は著しく増加し、外来患者数は約420万人を数えております。

今後も患者の増加が見込まれる精神科の領域において、患者・家族を地域社会全体で支えること、患者・家族の安全で安心な暮らしを確保すること、多様化する地域のニーズへの対応など、県民が貴会に寄せる期待はますます大きくなるとともに、果たす役割は重要になるものと考えております。

貴会におかれましては、精神医療の確保と不安をなくす良質な医療について、より一層のご活躍をご期待申し上げます。

神奈川県病院協会は、これまで以上に、貴会と連携・協力して、安全で質の高い医療の提供と充実に努めて参りますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、神奈川県精神科病院協会と、会員の皆さまのご発展を、心より祈念いたしまして、60周年のお祝いの言葉といたします。

協会創立60周年
おめでとうございます

一般社団法人 神奈川県精神神経科診療所協会 会長
斎藤 庸男

一般社団法人 神奈川県精神科病院協会が創立60周年を迎えるにあたり、こころよりお祝い申し上げます。昭和38年の創立から今日に至るまで山口哲顕会長、竹内知夫前会長を始め歴代の会長、役員のみなさま、会員病院のみなさまのご尽力により神奈川県の精神科医療の充実、各病院の発展に多大な貢献をされたことは周知の事実であり、深甚なる敬意を表するものであります。

この10数年間で精神科病院の入院事情は大きく変わりました。短期間の入院が当たり前となり概ね数か月で多くの患者さんは退院されます。慢性的な満床状態が解消され病状が深刻でなければ受入病院を探すことが容易となりました。それでもある一定数いらっしゃる興奮状態患者の入院先を求めることには難渋し、1日がかりだったこともあったと記憶しています。そこで、平成26年（2014）9月、神奈川県精神神経科診療所協会は貴協会会員病院の協力により、「精神科病院隔離室空床情報」の発信を始めました。これは当概日の隔離室の空床状況を各病院から発信してもらい、隔離室を要する患者さんの入院先を探す時間を節約できる利点があります。この事業により精神科入院事情が格段に改善し、平日はもちろん土曜日でも入院をお願いできる環境となりました。入院先の確保に苦労が無くなればぎりぎりまで診れる患者も増え、また病状改善が不十分でも支えられるようになっています。この事業には32カ所の貴協会病院が登録され、10数ヶ所の病院が情報を活発に更新してくれています。貴協会の先生方が精神科診療所を忘れずにいてくれることが本当にこころづよく、ありがたく思っているところです。

また、近年進行する少子化の波はおそらく精神科病院の将来を変える可能性があります。病床が余り、従事されるスタッフが在宅患者へ向かう時期が近づいています。精神科病院が新たに精神科診療所を作る動きも活発化するでしょう。多くの精神科診療所はコメディカルを雇用していないため深刻な病状の患者を地域で支える力は乏しく、その点において精神科病院は多くのコメディカルに恵まれ病状不安定な患者をワンストップで看れる体制があるといえます。入院医療はもちろん地域へも積極的に出かけましょう。地域包括ケアではありませんが「ときどき入院、ほぼ在宅」を目指しましょう。

最後に、今後の貴協会のみなさまのますますのご健勝と貴協会の弥栄を祈念しお祝いの言葉といたします。

神奈川県精神科病院協会 創立60周年記念にむけて

公益社団法人 日本精神科病院協会 会長
山 崎　　學

一般社団法人　神奈川県精神科病院協会が創立六十周年を迎えられるにあたり、日本精神科病院協会を代表して、心からお祝い申し上げます。

一口に60年と申しましても、今日の神奈川県精神科病院協会のご発展は、会員の皆様をはじめ諸先輩先生方の永年にわたる数多くのご苦労が成し得たものと推察いたします。関係の皆様方のご奮闘とご努力に心より敬意を表する次第です。現会長　山口哲顕先生はじめ役員・関係者の皆様、本当におめでとうございます。

顧みますと神奈川県精神科病院協会は、昭和38年に設立され、現在では52の民間精神科病院に加え、北里大学病院、聖マリアンナ医科大学病院等の正会員病院、また国立病院機構久里浜医療センター、川崎市立川崎病院等６つの賛助会員を加え、計62病院において東京都に次ぐ900万人を超える全国２番目の人口数の神奈川県における精神保健医療福祉の推進、向上に寄与されています。

また、病院に勤務する医師、看護職員、薬剤師等の教育研修を行うとともに、神奈川県及び横浜市、川崎市等政令指定都市と協力し災害時医療体制にも努められています。

このように、神奈川県精神科病院協会は、日精協と共に今日の我が国の精神保健医療福祉の基礎を築かれてこられました。

今新型コロナウイルス感染症との戦いも４年を超え、感染症分類も５類となり、ようやく以前の社会生活に戻りつつありますが、おそらく今後も共存していくこととなります。しかしながらコロナによる経済への打撃はとても大きく、物価高、原油・光熱費等の高騰など、病院を取り巻く状況は依然として厳しいです。令和６年には医療、介護、障害福祉の３報酬改定が予定されておりますがおそらく厳しい状況が考えられ、このような様々な諸問題に対応していかなければなりません。

その実現のためには、今まで以上に神奈川県精神科病院協会の先生方のご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、神奈川県精神科病院協会が今後ともその役割を発揮され益々ご発展されますよう、そして諸先生方のご健勝を祈念し祝辞とさせていただきます。

神奈川県精神科病院協会 創立60周年記念祝辞

北里大学病院精神神経科 科長
北里大学医学部精神科学 教授
稲田　健

神奈川県精神科病院協会の皆様、関係者の皆様へ、創立60周年を迎えるにあたり、心からのお祝いと感謝の気持ちをお伝え申し上げます。

昭和38年11月15日の創立以来、皆様は60年という長い年月にわたり、神奈川県の精神医療の進展に大いなる貢献をなさってきました。精神医療は、心を病む方々とその家族を支え、社会全体の健康と幸福を支える重要な使命を担っており、その責任の重さを痛感しております。皆様がその使命に向けて情熱をもって取り組んでこられたことに、深く敬意と感謝の念を捧げさせていただきます。

私たち北里大学病院精神神経科も、微力ながら貢献してまいりました。昭和46年に北里大学病院が開院し、昭和61年には北里大学東病院が開院しました。東病院では、神奈川県の精神科救急医療体制の一端を担いつつ、精神科リハビリテーションにも尽力いたしました。そして、令和2年4月には東病院を大学病院本院に統合しました。この統合により、精神疾患と身体疾患を併せ持つ方々への診療体制は強化され、診療科を超えた協力体制が一段と強化されております。

大学病院の精神神経科では、高度な先端医療の提供と開発、次世代の人材育成が求められています。このため、私たちは多くの医療系学部学生、大学院生、初期研修医、後期研修医を受け入れ、勉強会を開催し、共に学ぶことを大切にしてまいりました。多くの実習生を受け入れることは、医療の情報公開を進め、各職種の相互理解を深める機会となりました。学生や実習生の学びに加え、教員側の学びも深まりました。そして、このような医療の提供と人材育成においては、関連する医療機関や行政機関との協力·協働が不可欠でした。これまでにご協力いただきましたことに心からの感謝を申し上げます。

神奈川県精神科病院協会は、60周年を節目に更なる飛躍を目指すことと考えております。協会の成長と精神医療の充実により、患者さんとご家族、そして地域社会に健康と幸福がもたらされることを心より願っております。これまでのご指導に感謝申し上げつつ、皆様の一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

神奈川県精神病院協会 発足60周年に寄せて

聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室 主任教授
古茶 大樹

神奈川県精神科病院協会が60周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。会員病院の方々が今日まで地道に質の高い医療を続けてきたことがこの長い道のりを支えてきたものと思います。心からお祝い申し上げます。私たちの大学講座が協会の発展にどのくらい寄与できているのか、甚だ自信がありませんが、私が赴任してから数年の講座の様子をお伝えしたいと思います。

私は2016年1月に聖マリアンナ医科大学に赴任いたしました。その年は前年の精神保健指定医問題で多くのスタッフが指定医資格を取り消され、退職者が続出し、医局はまさに崩壊寸前でした。私のミッションはこの崩壊を食い止めること、そして大学講座としての運営を軌道に乗せることにありました。赴任当時は診療と学生教育も自力では立ち行かない状況でした。協会の先生方には、多くの外来患者の転医、外来初診患者の制限、入院患者の制限などで多大なご迷惑をおかけしたことと思います。それと同時に人的援助やあたたかい励ましの言葉もたくさん頂戴し、医局員一同心の支えとしてこの苦境を乗り越えることができました。ここに心からの感謝の意を表したいと思います。

私の掲げた『純粋精神医学』を旗印に、多くの有能な先生方が集い、医局の復興に尽力してくれました。赴任当時の入局希望者はゼロでしたが、この2-3年は安定して5人以上、来年度は10人近くまで増えてきています。また他の大学や機関からマリアンナで勉強を希望する医師もいて、2016年当初の苦しさを知っている者としては嬉しい限りです。この数年間の大きな変化として児童思春期外来を創設しました。予約は常時いっぱいでこの領域のニーズを改めて実感しております。本年1月からは新病院がオープンしました。8階西の新病棟は個室中心の全31床です。当初は開放エリアと閉鎖エリアを分けて運営してきましたが、地域のニーズは圧倒的に閉鎖が優勢でして、この6月からは全閉鎖病棟として運営しています。ゆったりとした個室は居心地もよく休養目的での入院にも適しています。大学病院としての高度な機能として従来のmECTに加えてrTMS治療を始めました。患者さんへの負担もmECTに比べると軽く、中等度のうつ病治療の有効な選択肢の一つと言えそうです。児童思春期の入院も受け入れています。

今後も神奈川県の精神科医療に少しでも貢献できるように精進して参りたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

神奈川県精神科病院協会 創立60周年に寄せて

東海大学医学部総合診療学系精神科学 領域主任教授
山本 賢司

神奈川県精神科病院協会が創立60周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。そして、今日まで神奈川県の精神医療を担い、精神医療体制を維持、発展させてきた貴協会の業績をたたえ、敬意を表します。

私共の東海大学医学部付属病院は、2006年1月に当時の精神科病棟を閉鎖し、現在は一般病床や救命救急センターにおける精神科リエゾン業務と外来診療（成人、児童）を中心に診療を行っています。また、精神科専門医制度においては神奈川県精神保健福祉センターと近隣10精神科病院、東海大学医学部附属八王子病院に連携施設になっていただき、基幹施設として登録をしております。日常の診療、教育においては、貴協会に所属する精神科病院に大変お世話になっており、この場を借りて御礼を申し上げます。

近年の精神医療は一医療機関で完結するものではなく、地域の医療機関や様々な社会資源との連携が必要になっています。病病連携や病診連携のみならず、児童青年期精神医療では地域の学校や福祉施設との連携、産業精神医学領域では企業やリワークとの連携なども注目されてきています。東海大学としても、関係各所との地域連携体制の構築を積極的に考えており、発達障害児に関しては地域支援者ネットワーク構築を目的とした教育プログラムの開発を行ったり、産業メンタルヘルスに関しては、2021年より「神奈川県央·県西部産業メンタルヘルスの会」を結成し、本学公衆衛生学教室と共に、地域の精神科病院·精神科クリニックに設置されているリワーク施設と、近隣企業の産業医や産業保健スタッフとの顔の見える環境作りを行ってきました。今後も新たな取り組みを考えており、貴協会に加盟する精神科病院の先生方にはお世話になることが多いかと思います。われわれも総合大学の医学部付属病院として診療、教育、研究を真摯に行い、少しでも地域精神医療に貢献できるように尽力していきたいと思っています。貴協会の取り組んでいらっしゃる事業にも可能な限り協力をさせていただきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今後の神奈川県精神病院協会の更なる発展と、関係各位のご健勝を祈念申し上げます。

60周年のお祝いと神奈川県精神科病院協会への期待

横浜市立大学附属病院 精神科診療部長補佐
浅見　剛

神奈川県精神科病院協会の関係者の皆様、設立60周年、おめでとうございます。

貴協会が60年にわたり神奈川県内の精神科医療を担い、精神疾患を持つ患者さんやそのご家族、そして社会に対して大きな貢献をしてくださってきたことは言うまでもございません。これまでのご尽力には心より感謝申し上げます。また、新型コロナ感染症拡大へのご対応も大変であったと思います。この場を借りて御礼申し上げます。

近年は、社会全体がもの凄い速度で変化しております。医療もまた同様であり、IT技術の発展に伴い、遠隔集中治療支援システムやオンライン診療などが行われるようになってきています。我々にとって身近なところでと言えば、コロナ禍におけるオンラインビデオでの入院患者さんと家族の面会や、日本語を話すことができない患者さんの対応のための自動翻訳機などが挙げられます。一人一人がスマートフォンを持っていることが当たり前となってきている時代において、病院内におけるその利用と対応は難しいものになってきていると思います。サービスの向上と同時に人権、それも患者さんのみならず病院職員の人権にも配慮した取り決めをつくってゆかなくてはならないからです。その都度の対応になるかと思いますが、なかなか大変な作業だと思います。

一方で、時代がいくら変わっても変わらないものあります。それは、我々精神科医が抱く、患者さんやご家族が少しでもらくに楽しく生きることができるようになればという思いと、そのための医療の提供です。より良い精神科医を育成してゆくためには精神科病院の役割はとても大きいと考えています。精神科医による医療の提供はもちろんのこと、様々な医療資源の提供や、地域精神科関連施設との連携など全てが備わっているからです。幅広い視野をもち、患者さんの人生にとって何が必要なのかをしっかりと考えることのできる精神科医を育てるためには精神科病院の存在はとても有難く思っております。

さらなる救急医療の活性化が望まれるなか、一方では医師の働き方改革も施行されます。この対応にはなかなか苦慮するかと思います。しかしながら、より質の高い精神科医療の提供を継続するためには、貴協会のご尽力は必須であります。これからも神奈川県精神科病院協会が神奈川県はもちろんのこと、日本の精神科医療をリードし、発展し続けることを祈念いたしております。

神奈川県精神科病院協会 60周年を祝して

昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター長・教授
稲本 淳子

神奈川県精神科病院協会の創立60周年を心からお祝い申しあげます。そして一会員にもかかわらず、このようなご挨拶の機会を与えて頂いたことに感謝申し上げます。

昨今のコロナ感染状況下においても貴協会は患者さんへの支援、感染対策を含め病院職員への指導、行政への積極的な提言など神奈川県の精神医療の充実と発展に多大な貢献をされており、また当院も会員病院であるため貴重な情報やご助言をいただき感謝しております。

さて当院は横浜市の地域中核病院の一つとして2001年4月に開院し、やや遅れて2003年4月に貴協会のメンバーに加えていただきました。当院は開院以来、精神科救急医療の基幹病院として365日措置・救急を受け入れ活動しており、2014年3月からは救急機能強化のため病棟の改築やスタッフの充実を図り精神科救急入院料病棟（スーパー救急病棟）として運営しております。さらに横浜市民ベットの設置、応急入院、合併症の受け入れなど総合病院の精神科部門として地域の要請にお応えする体制を一層整備し、病診連携にも力を注いでおります。特に昨今産婦人科と連携し精神障害合併妊婦の受け入れを積極的に行っております。

ここ数年で医療体制が大きく変化いたしました。2018年より新専攻医制度が開始され、2020年よりコロナ感染が広まり現在も持続しております。また2024年より医師の働き方改革が始まり、現在どの病院でもその対応に追われていると思われます。ただし医師は他の職種と異なり時間が来たから業務は終わりというわけには参りません。今後も質の良い精神医療を行い、また精神科医を育てていくにも、精神科病院と総合病院・大学病院の連携がより重要になると思われます。当院も神奈川県の精神科医療に少しでも貢献できるように精進してまいりたいと思いますのでご指導、ご協力のほど、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

貴協会の益々のご発展を祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝辞

帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科 科長·教授
齋藤 正範

神奈川県精神科病院協会が創立60周年を迎えました。関係者の皆様方に、心から御慶びを申し上げます。

雑誌「精神医学」第5巻第8号（昭和38年8月）に「日本精神病院協会の現況」という記事があり、当時の石橋猛雄会長が「日本の精神病患者の3分の2をわが協会員が取扱い治療しているわけである。ここに協会の公的使命がある。」と記しておられます。同年11月に発足した神奈川県精神病院協会（神奈川県精神科病院協会）も、日精協と軌を一にして公共の福祉の発展に寄与してきたことは言を俟ちません。会員各病院は、各々の医療実践に加えて、病院を基盤とした地域精神保健福祉活動も幅広く行い、更には行政への全面的協力を継続してこられました。神精協の歴史は、まさしく献身の60年間だったと申せましょう。

病状のために著しい行動異常を来している患者諸氏を処遇出来るのは、精神科病院の他にはありません。病棟での診療は、外来診療には無い類の困難を伴う、高度な社会貢献です。にも関わらず、行政への協力を良しとしない偏狭な思想の持ち主達、より具体的に申せば左派系の人達の中には、精神科の入院診療を敵視し、その至らぬ点を殊更に強調し、入院診療が害悪であるかの如き言説を流布するに留まらず、病棟内に立ち入って診療を妨げる者さえ現におります。我々は、それらの下らない輩に対する防備を常に固めながら、前進してゆくより他はございません。特に、法律面での防備につきましては、県外の弁護士会からも優秀な専門家を広く募るのが上策であろうと、個人的に愚考致しております。

当溝口病院精神神経科は昭和56年12月に開設されました。当科には病床がございませんので、開設から今日に至るまで、診療や教育の様々な場面で、神精協会員をはじめとする関係諸機関に御世話になってばかりおります。地域医療において当科が貢献出来るのは、精密脳画像や脳波など検査に関する分野ですので、必要な場合には是非当科を御利用、御用命頂き、ささやかな恩返しをさせて頂ければ幸甚です。

今後とも、神奈川県精神科病院協会の益々の御発展を祈念して止みません。

神精協の思い出

神奈川県精神科病院協会と私

医療法人社団緑水会 横浜丘の上病院 名誉会長
畑　　俊治

私が神奈川県精神科病院協会の役員となったのは、平成2年4月であった。この頃は時代が錯綜しており、日本の精神医療の一大変革期であった。昭和59年3月に宇都宮病院事件が発覚し、厚生省から全国の精神病院に「通信・面会の自由」というガイドラインが出され、「精神障害者の人権と社会復帰」が全面に打ち出され、戦後の精神衛生法が大きく改正されようとしていた。その様な時代的背景の中で、昭和62年3月に日本精神病院協会精神医学会が神奈川県で行われることになり、神精協役員以外の若手医師も参加して、真剣に学会での演題や内容が討論され、熱気の中で医学会が開催された。

昭和63年7月から「精神保健法」が実施され、ようやく、任意入院制度が認められた。それまでは一部の精神病院や大学病院では「自由入院」と称して、一般科への入院と同じ扱いにしていたが精神衛生法上では違法であった。また、同年4月から、神奈川県精神科「緊急医療体制」が発足し、精神病院協会は3県市と協議して緊急医療体制を組むことになった。それ迄は在宅鑑定がかなりあり、私は刑務所に出むいたり、暴力のおそれが強い患者さん宅や、日本刀が何本も飾ってある家に踏み込んだり、防弾チョッキを着せられた事もあった。緊急医療体制が出来てからは、危険な在宅鑑定は無くなり、患者さんは当番の精神病院に移送され、そこで鑑定が行われるようになった。これらは通称「ハード救急」と呼ばれていた。次に、自傷他害の少ない「ソフト救急」については、当初、横浜市から独自の案が提出された。協会としては、まだハード救急が始まったばかりで、マンパワー不足が解決しておらず、「ソフト救急」を始めるのは3県市が足並みを揃えるべきだと言う意見が強く、横浜市長に要望書を提出し、市議会に陳情書を提出し、やっと延期になった。ソフト救急が3県市合同で開始されたのはそれから2年後の事である。

私は、平成元年に発足した「海精会」（海外交流を通して日本の精神医療を考える会）に参加していたが、殆どが民間精神病院の2代目の精神科医で、全国的な組織であった。イタリア視察旅行に参加したり、アメリカの精神医療の実情を聞いて、日本とは逆転している事に驚かされた。私は「病院実務研究会」と「これからの精神科病院のあり方検討会」の幹事を受け持ったが、関西の病院の状況を聞いて大変勉強になった、関東では健康保険が通らないような事が関西では全て通っていたのである。また、ある関西の病院では「入院患者が退院しても外来治療を工夫すれば、収益は入院時と同じくらいになる」という実践を行っており、この話を参考にして、私は、日本の精神

病院は「縮小再生産」の方向で進むべきだと考えるようになった。

平成4年4月、日本精神病院協会は「情報委員会」を公募した。私は新しい委員会が出来たと勘違いをして応募したが、実際には「広報委員会」が名前を変えただけであった。この委員会は極めて忙しく、いつも原稿用紙を前にして考えていなければならなかったが、それが私には大変勉強になった。平成6年に厚労省で精神科病院の機能分化が議論されるようになり、平成7年には精神保健法が「精神保健福祉法（略）」に改められた。ここで、私の「縮小再生産論」は急に具体性を持ち始めた。全体のベッド数を減らし、急性期治療病棟、慢性璽症病棟、社会復帰病棟に分け、精神療養病棟は社会復帰の為に開放処遇として、いずれ社会復帰施設に転換するという方針を出し、自らの病院で実践した。

平成14年11月、私は自らの病院で、医療法人社団「緑水会」を結成し、翌15年には病院名を戸塚山谷病院から横浜丘の上病院に変更した。平成16年4月には神精協の竹内会長にお願いして、日精協の理事に立候補する許可を頂いた。同年、日精協会長に鮫島 健氏が当選し、私はいきなり日精協の常務理事に抜擢された。いくつかの委員会の責任者の役目をおおせつかり、「精神医療を考える国会議員との懇談会」にも参加した。ここで問題となったのは診療報酬がH14、H16、H18、H20と4回連続で合計マイナス7.68％も引き下げられたことである。その為に多くの病院が急激に赤字となり、しかも、H17、7の「障害者自立支援法」の成立により、障害者の通院自己負担が大幅に増加した（東京駅で反対集会が行われたが、日精協から参加したのは、鮫島会長と私だけであった）。私が行政に対して批判的になったのは当たり前のことで、日精協常務理事は2年で辞め、理事も平成20年に辞めることになった。

私はその国の精神科医療は、その国の文化によって大きく左右されると思っている。統合失調症の軽症化は欧米諸国ではかなり進んだが、日本ではまだ十分とはとても言えない。日本は明かに、「精神科医療後進国」である、昭和63年7月から、任意入院制度が出来、任意入院がかなり増えたのに、精神科病院の開放率は低く、開放処遇の原則はあまり実行されていない。この点からまず改革を考える必要がある。また、精神療養病棟の施設への移行であるが、介護度とは別に障害者手帳や障害年金で使われている「能力度」を用いて判定すれば、精神障害者の点数はもっと上がり施設への転換がスムースに行われる筈だと考えている。ただし、現在の日本の医療費は外国の施設の費用とほぼ同額で、日本では施設化すると逆に費用が高くなるので、家族はあまり施設に入ることを望まないというおかしな現象が起きている。日本の国民皆保険制度は立派だが、医療費があまりにも安過ぎるという問題がある。

神精協の思い出

医療法人社団 青木末次郎記念会 相州病院 事務局長
小池　ひかる

一般社団法人神奈川県精神科病院協会が創立60周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。又、この度「創立60周年記念誌」に寄稿させて頂き光栄に思います。

神精協の事務長会に仲間入りさせて頂きましたのは、1974年（昭和49年）1月ですので早50年を経過致しました。当初の私は、精神科医療や経理・事務が全くの無知でしたので、それこそ足し算引き算すらままならない私でした。それを一人前になるまで成長を見守って下さった前々会長の故栗田正文先生や、前会長竹内知夫先生をはじめ各病院の院長先生そして先輩事務長さんの、ご協力とご援助のおかげである事を心より感謝しております。

事務長会があったからこそ病院の発展と将来の展望を描きながら、必要な精神科医療の取組を進めることが出来そして今日の当病院（相州病院）の変革を実現できたと思います。

事務長会活動の一部をご報告させて頂きます。

＊（私の学生時代を経て）

1970年代の安保闘争の中、機動隊に囲まれての受験を経て大学の閉鎖や火炎瓶の飛び交う中での授業を受講そして外部講義でゼミを履修し卒論を書いて卒業しました。

学生生活でたった一つ誇れるものは、明大弁論部での数々の経験をさせて頂いた事です。

事務長になり数年後に活躍のできる役割を頂きました。

昭和62年3月第15回日本精神病院協会精神医学会が横浜で開催され、当時は日精協の会長である栗田正文先生が会長を務め、副会長には神奈川県の支部長である港北病院の院長故山口哲衛先生が務められました。この精神医学会は、神精協の理事の先生方と一緒に事務長会の役員（栗田病院・中村さん、保土ヶ谷病院・比気さん、武田病院・植松さん）も参加し運営に携わりました。

私は前座の司会を任されて第一声を発した時に、栗田会長が目を細めて首をふり頷かれたお姿や、山口副会長の優しい笑顔は今でも脳裏に浮かびます。（又、この会場で初めて愛光病院の院長竹内知夫前会長とお話しさせて頂きましたが、小柄で眼力があり迫力あるお声を記憶して居ります。）

演題の司会は、鶴見西井病院の院長西井華子先生で、夜の懇親会は日吉病院の千葉あきゑ事務長さんが務められました。（国会よりも先に、女性の起用を実現させて頂きました。）

このように当時は、神精協病院長会議にも事務長会の中から代表者が参加しており、各病院の運

営の中でも院長、事務長相互の信頼と協力が唯一の原動力となっていたと思います。

事務長会の年会費は3,000円ですが、栗田会長より特別予算を頂戴し他県での先端医療を取り入れている病院の見学会や勉強会が実施されました。

なかでも山梨県の山角病院や仙台の国見台病院の見学で得たものは非常に大きかったです。山角病院では診療報酬改正の具体例を、神奈川より先に知りえることが出来ました。

事務長にはオープンに、いち早く知らせ病院運営に生かす事を第一と考える先生も存在する事を知り、非常に心強く有難く感じました。

国見台病院からは、その後神奈川に転居される医師の紹介を受け、給与や人柄等の前情報を参考に入職を決定したこともあります。

神精協の事務長会は、栗田会長に続いて竹内会長の時期も女性事務長さん達に、神精協の代表者・院長会や理事会、優良職員の表彰式等々の受付及び接待を務めさせて頂き、各病院の院長先生方や県・市多方面医療関係者の方々と面識が出来、数多くの知識・見識を得る事が出来ました。何よりも多くの病院の事務長との仲間づくりが、出来たことが一番の宝物になりました。

曽我病院の故小林事務長さんには、県と事務長との親睦会に大きなお腹を抱えて参加した私をエスコートして頂きました。小林事務長さんより、院長との信頼、協力体制の大切さを知ることが出来ました。

日吉病院の千葉事務長さんからは、「事務長は信頼されるべきもの」を実践で教えられました。

加えて、一番最初に病院の給与体系・就業規則・決算書等々のすべてを包み隠さずに教えて頂いた、秦野厚生病院の坂井事務長さんには頭があがりません。何故なら、故安藤先々代、坂井洋子事務長、坂井喜郎院長先生と三代に渡り、病院の運営にご協力を頂いております。

後には、後輩である平塚病院の横山さん、大和病院の増淵さん等、多くの友人を得て互いに協力体制がとれました。

又、女性事務長同士で海外旅行も楽しみました。

シンガポール（買い物いっぱいしたなあー）、ベルギー・オランダ（チューリップきれいだったなあー）、オリエント急行（風景を楽しむどころか疲れて熟睡したなあー）、 カナダ（飛行機に乗り遅れて延泊になったなあー）このような楽しい経験も含め、私が事務長を経て現在の事務局長が務まる要因と確信しています。事務長会、女性事務長の仲間達あってこそ、今の私があると思います。

最後となりますが、これからも神精協と事務長会の益々の発展をお祈り致します。

一般社団法人
神奈川県精神科病院協会
創立60周年に寄せて

医療法人社団 慶神会 武田病院 元事務長
植松 俊夫

一般社団法人神奈川県精神科病院協会創立60周年おめでとうございます。

私は貴協会傘下、医療法人社団慶神会武田病院（当時理事長・院長　武田　専先生、現在理事長・院長　武田龍太郎先生）の事務長として、昭和39年より平成11年まで勤務、丁度創設期の貴協会と重なる部分が多く、そのご発展の有様をつぶさに拝見してまいりました。

勿論、私はその39年当時29歳の青年（？）事務長でした。当時の会員病院には、栗田病院の石川事務長・保土ヶ谷病院の比気事務長さんらの大先輩がご健在で、私たち若輩事務長たちの成長を暖かくご指導下さいました。

そんな若輩事務長だった私たちも、ベテランと言われる年代になりますと、事務長会として貴協会（以下「神精協」とさせていただきます）の公式な活動のために微力ですが貢献する機会もありました。何年度の事か、また当時の学会の名称も記憶が定かでありませんが、全国精神病院医学会（現在の日本精神科医学会学術大会）を神精協が担当する事になりました。その当時は現在のような学会運営のサポート会社などもなく、どうしようかという事になり、会員病院の院長先生方には治療成績や学術的な内容の発表、討論の場という本来の学会内部の運営管理に集中して頂き、会場受付等の外側の事務的なことは事務長会が責任を持つことで役割分担させて頂き学会を無事終えることができました。その事も懐かしい思い出の一つとして記憶に残っております。

また、私事で恐縮ですが、私はきわめて稚拙ながら囲碁を趣味にしておりましたのがご縁で、現在の本会会長山口哲顕先生の若かりし頃、当時ご健在でいらっしゃった先生のお父上故山口哲衛先生にお誘い頂き、囲碁の会に自らのレベルを顧みずしばしば参加させて頂きましたのも今は貴重な思い出であります。

そんな青年期から事務長として微力ながら神精協に関わっていた私も今は88歳の高齢者になってしまいました。私ども人間は新陳代謝して行くのが当然ですが、貴法人にはこれからも益々長く歴史を積み上げて行かれることをご期待申し上げます。

また、傘下各病院のご隆盛、ご繁栄を心より祈念申し上げます。

発刊に寄せて

一般社団法人 日本精神科看護協会本部長･業務執行理事
医療法人財団 青山会 福井記念病院 元看護部長
中庭 良枝

一般社団法人神奈川県精神科病院協会が、創立60周年を迎えましたこと心よりお喜び申し上げます。

この度、60周年記念誌への寄稿文のお話をいただき、大変光栄なことと存じます。

私が初めて一般社団法人神奈川県精神科病院協会（以下、神奈川県精神科病院協会）と出会ったのは、私自身が精神科看護師として歩みだした時期と重なります。

2004年に私が一般科から精神科に移り、その後精神科病院の看護部長に就任した時は、まさに精神医療福祉の改革ビジョンが打ち出された時でした。これまでの精神科医療のことも十分に理解できていない中、何を目指せば良いのか具体的に何を行えば良いのか困惑し、不安だったことが昨日のように思い出されます。

そのような中、神奈川県精神科病院協会の看護部長会役員を拝命したことで、神奈川県内の精神科病院の看護部長とのつながりができ、さらに、看護部長会をご担当いただいていた先生方からはお話を聞かせていただく機会を得られたことが大きな助けになったと思います。

当時の看護部長会のご担当の先生は、現会長である港北病院の山口哲顕院長と大和病院の石井一彦院長、平塚病院の大野史郎院長だったと記憶しております。先生方は、看護部長会の研修会で自らご講義くださり、またご挨拶の際も看護職を労っていただく言葉をくださるなど私たち看護部長にとって大きな支えであったと思います。

何より診療でご多忙な中、看護部長会や教育研修に精神科医師がこのように関わってくださることに驚きを覚え、またうれしく思いました。看護部長会や研修会は、県内の精神科医療の管理者である医師や看護師のネットワークの場であり、そこで様々な情報を得ることができ、自分の病院の課題解決のヒントをたくさん得ることができた方も多かったのではないかと考えます。

私は、同時期に一般社団法人日本精神科看護協会（以下、日精看）神奈川県支部の支部長に就任いたしましたが、その際には神奈川県精神科病院協会の式典にお呼びいただき、前竹内知夫会長はじめ多くの先生方にあたたかい声をかけていただき励まされたことを覚えています。精神科看護職の職能団体である日精看の活動は、精神科病院協会のご協力あってのものと考えます。

20年近く精神科看護にたずさわる中、私にとって何よりの力となったのはこういった神奈川県精神科病院を中心とした県内の精神科病院の連携の強さや支援体制であったと考えます。

数年前に私は医療現場を離れ、日精看本部にて全国の精神科看護師の質向上を目的に活動しております。

医療現場を離れても、神奈川県精神科病院からお声かけいただき、研修会の講師などに呼んでいただけることは心から光栄に思います。

次年度は、精神保健福祉法の改正が行われます。ここ数年精神科看護者による患者への虐待事件があとを絶たず、精神科看護職のあり方を社会が注目していることを多くの看護職が認識しています。その解決方法のひとつとして、法改正にともなう虐待防止の強化、体制整備の構築、精神科看護職への教育などがあげられます。

その実現のためには、看護職だけでなく、精神科病院に従事する職員全体が考え、実行できるよう精神科病院協会とのネットワークをさらに強化することが必要と考えます。

神奈川県精神科病院協会の先生方、事務局の方にはほんとうにお世話になり感謝の思いばかりですが、精神科医療の中で何より素晴らしく、強みと感じる多職種連携を大切にし、実践に向けている神奈川県精神科病院協会の今後ますますの発展を祈念いたします。

創立50周年記念式典（平成25年10月18日）

日本精神科医学会学術大会（令和3年9月9日、10日）

令和４年度　理事会（令和４年９月13日）

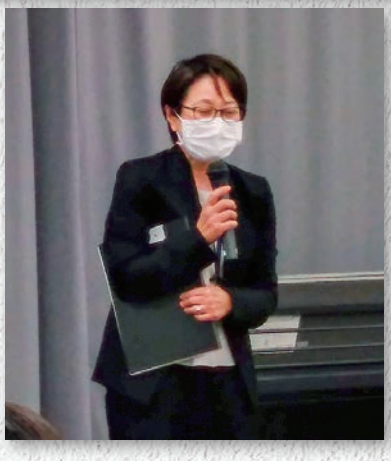
令和４年度　定期総会・優良職員等表彰式（令和５年５月30日）

令和４年度　総会・優良職員表彰式后　記念祝賀会（令和５年５月30日）

令和5年度理事会（令和5年7月11日）

令和5年度代表者・院長会議（令和5年10月10日）

研修会報告



令和４年度　精神科看護職員研修会
（令和４年12月21日）

令和５年度　看護部長会見学会（令和５年８月18日）

令和５年度事務長会　医事研究会（令和５年10月20日）

神奈川県精神科病院協会 精神科看護職員研修会 精神科新人看護職員・中堅看護職員 認知行動療法研修 実施報告書 8年間のまとめ

医療法人 弘徳会 愛光病院
公認心理師・臨床心理士　大 矢　瑞 穂

はじめに

地域医療介護総合確保基金にもとづき、神奈川県から神奈川県精神科病院協会に委託された精神科看護職員研修「認知行動療法」は、2015年度に始まり、昨年度で8年目を迎えた。本報告書では8年間の実施の結果を振り返りたい。

8年間に実施した研修の総回数は、新型コロナウイルスの関連で中止となった回を除き、新人職員対象の研修（以下、「新人研修」）が年に1～3グループ、計17回、中堅職員対象の研修（以下、「中堅研修」）が年に1～2グループ、計12回であった。参加者の総数は、新人研修が計355人、中堅研修が計251人であった。研修開始当初は、新人研修は前半後半を2日に分けて実施していたが、本来業務の負担が大きくなるため1日で実施できないか、という参加病院からの声に応え、2017年度からは午前午後を通して1日で完結する形式に統一した。新人研修も中堅研修も、午前は講義中心で基礎的な内容を伝え、午後は認知行動療法のより詳しい内容や技法などを体験的に学んでもらうために、グループワーク中心に行う、という構成とした。そして、研修前半に、自身が経験した“仕事場面で困った出来事”を題材にしたコラムの作成、改善したい問題点の抽出を行い、その内容を後半のグループワークの中で使用し、実践的に学べるようにした。新人研修の内容は、「ストレスについて」「認知行動療法について」「考え方のクセ」「認知再構成法」「アサーション」「SST」であった。中堅研修も2015年度開始当初は同様の内容で実施したが、アンケートへの感想から中堅職員の状況やニーズに応えきれていなかったことを痛感し、中堅職員に特化した内容を模索してきた。以後、毎年改良を加えながら近年は、「レジリエンスと怒りについて」「認知行動療法について」「考え方のクセ」「認知再構成法」「アサーション」「問題解決技法」といった内容で実施している。また、中堅研修は開始当初、中堅というキャリアを生かしてグループワークを参加者のみで行う形式で実施してきた。しかし、グループによってグループワークの質や満足度にばらつきが生じたため、2021年度からは講師がファシリテーターとして各グループに入り進行を行う形式に統一した。講師は、公認心理師・臨床心理士4名で担当した。

1．効果測定として使用した心理テストの数値の比較

研修の効果を測定するため、研修開始時と研修終了時に心理検査を実施した。新人研修と中堅研修ともに2015年度～2016年度はBDI（ベック抑うつ質問表）を、2017年度はBDIおよびGSES（一

般性セルフ・エフィカシー尺度)、2018年度～2022年度はS-Hレジリエンス検査を実施した。分析の対象者は事前事後のデータが揃っている者とし、新人研修についてはBDIが140人、GSESが36人、S-Hレジリエンス検査が207人であった。中堅研修についてはBDIが89人、GSESが33人、S-Hレジリエンス検査が105人であった。分析における統計処理はSPSS statistics Version21を使用し、対応のあるサンプルのt検定を行った。

S-Hレジリエンス検査は因子A(家族、友人、同僚などの周囲の人たちからの支援や協力などの度合いに対する本人の感じ方)、因子B(問題解決を自分でどの程度できるかなどの度合いについての本人の感じ方)、因子C(他者との付き合いにおける親和性や協調性の度合いなどについての本人の感じ方)の3つの因子で構成されている。新人研修についてはBDI、S-Hレジリエンス検査の全ての項目において統計的な有意差が1%水準で認められた(表1・表3)。GSESについては統計的な有意差が5%水準で認められた(表2)。中堅研修については、BDIは統計的な有意差が認められなかった(表4)。GSESについては統計的な有意差が5%水準で認められた(表5)。S-Hレジリエンス検査については全ての項目で統計的な有意差が1%水準で認められた(表6)。

【表1　研修前後におけるBDIスコアのt検定結果(新人)】

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	差の 95% 信頼区間 上限			
ペア 1	前 - 後	-18.1357	38.4708	3.2514	-24.5643	-11.7072	-5.578	139	.000

【表2　研修前後におけるGSESスコアのt検定結果(新人)】

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	差の 95% 信頼区間 上限			
ペア 1	GSES前 - GSES後	-1.0000	2.3053	.3842	-1.7800	-.2200	-2.603	35	.013

【表3　研修前後におけるレジリエンススコアのt検定結果(新人)】

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	差の 95% 信頼区間 上限			
ペア 1	前1A - 後1A	-1.1256	2.9599	.2057	-1.5312	-.7200	-5.471	206	.000
ペア 2	前1B - 後1B	-1.4300	3.4925	.2427	-1.9085	-.9514	-5.891	206	.000
ペア 3	前1C - 後1C	-.5990	1.8718	.1301	-.8555	-.3425	-4.605	206	.000
ペア 4	前合計 - 前合計	-3.1546	6.3234	.4395	-4.0211	-2.2881	-7.178	206	.000

【表4　研修前後におけるBDIスコアのt検定結果(中堅)】

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率(両側)
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	差の 95% 信頼区間 上限			
ペア 1	前 - 後	.7191	4.6588	.4938	-.2623	1.7005	1.456	88	.149

【表５　研修前後におけるGSESスコアのｔ検定結果（中堅）】

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率（両側）
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	差の 95% 信頼区間 上限			
ペア 1	GSES前 － GSES後	-.9091	2.4541	.4272	-1.7793	-.0389	-2.128	32	.041

【表６　研修前後におけるレジリエンススコアのｔ検定結果（中堅）】

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率（両側）
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	差の 95% 信頼区間 上限			
ペア 1	前1A － 後1A	34.2381	21.8441	2.1318	30.0107	38.4655	16.061	104	.000
ペア 2	前1B － 後1B	22.2476	15.1154	1.4751	19.3224	25.1728	15.082	104	.000
ペア 3	前1C － 後1C	10.3238	6.6845	.6523	9.0302	11.6174	15.826	104	.000
ペア 4	前合計 － 前合計	72.4000	45.6238	4.4524	63.5707	81.2293	16.261	104	.000

２．参加者の看護師歴と精神科への勤務年数について

研修の各回終了時に行っているアンケートにて、2016年度以降、参加者の看護師歴について質問した。その結果、新人看護師の参加者については「看護師としての経験年数」は平均5.5年（SD：6.65）であった。最短は０年、最長は42年であった。「精神科への勤務年数」については平均1.9年（SD：1.52）であった。最短は０年（３ヶ月）、最長は12年であった。看護師としての経験年数は10年～42年の参加者が24人（14.7％）いるが、精神科としてみた場合には最長でも12年であり、１～４年が96.9％を占めていた。“精神科での勤務”という点では全員が新人という同質性の高いグループであることが確認された。

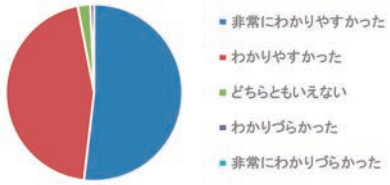
中堅看護師の参加者については、「看護師としての経験年数」は平均13.6年（SD：7.27）であった。最短は３年、最長は35年であった。「精神科への勤務年数」については平均8.4年（SD：6.07）であった。最短は０年、最長は46年であった。なお、看護師としての最長の勤務年数よりも精神科の最長の勤務年数の方が長いのは、アンケートの調査項目が少ない時期があったことによる。

３．研修に関するアンケート結果について

研修に関するアンケートについて、表７・表８に、2015年度～2022年度の研修会で提出されたのべ434人の回答をまとめたものを示した。新人研修・中堅研修ともに、研修の内容のわかりやすさ、グループワークの役立ち感、総合的な満足度、今後の看護業務への役立ち感の全てについて、いずれも93％～97％の参加者が肯定的な回答をしていた。また、自由記述欄への回答の内容をカテゴリーに分け、代表的な例を表にまとめた（表９～表12）。尚、「考察」に関連する内容については赤字下線とした。

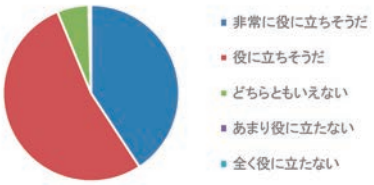
【表７　アンケート結果（新人）】

研修の説明はわかりやすかったか	人	%
非常にわかりやすかった	225	51.8
わかりやすかった	196	45.2
どちらともいえない	10	2.3
わかりづらかった	3	0.7
非常にわかりづらかった	0	0.0
合計	434人	100%



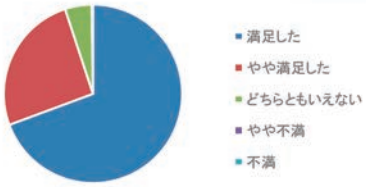
説明の分かりやすさは97%が「わかりやすい」と回答。

グループワークは役立ちそうか	人	%
非常に役に立ちそうだ	176	40.7
役に立ちそうだ	229	53.0
どちらともいえない	25	5.8
あまり役に立たない	1	0.2
全く役に立たない	1	0.2
合計	432人	100%



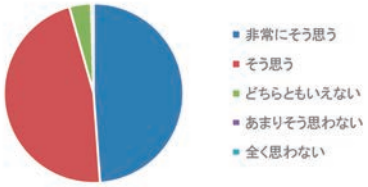
グループワークは94%が「役立つ」と回答。

総合的に満足できたか	人	%
満足した	301	69.4
やや満足した	111	25.6
どちらともいえない	21	4.8
やや不満	1	0.2
不満	0	0.0
合計	434人	100%



総合的な満足は95%が「満足」。

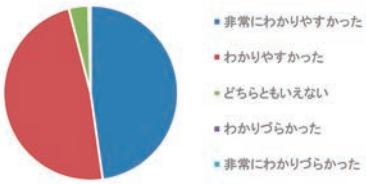
これからの看護業務に役立つか	人	%
非常にそう思う	212	48.8
そう思う	203	46.8
どちらともいえない	17	3.9
あまりそう思わない	2	0.5
全く思わない	0	0.0
合計	434人	100%



看護業務への役立ち感は95.6%が「役立つ」と回答。

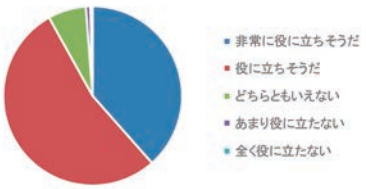
【表８　アンケート結果（中堅）】

研修の説明はわかりやすかったか	人	%
非常にわかりやすかった	118	47.8
わかりやすかった	119	48.2
どちらともいえない	9	3.6
わかりづらかった	1	0.4
非常にわかりづらかった	0	0.0
合計	247人	100%



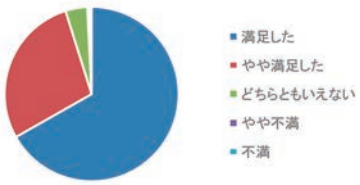
説明の分かりやすさは96%が「わかりやすい」と回答。

グループワークは役立ちそうか	人	%
非常に役に立ちそうだ	95	38.5
役に立ちそうだ	132	53.4
どちらともいえない	17	6.9
あまり役に立たない	2	0.8
全く役に立たない	1	0.4
合計	247人	100%



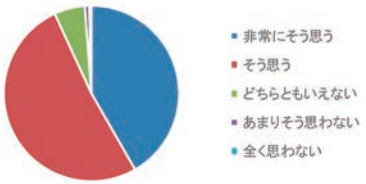
グループワークは93%が「役立つ」と回答。

総合的に満足できたか	人	%
満足した	165	66.8
やや満足した	70	28.3
どちらともいえない	10	4.0
やや不満	1	0.4
不満	1	0.4
合計	247人	100%



総合的な満足は95%が「満足」。

これからの看護業務に役立つか	人	%
非常にそう思う	103	41.7
そう思う	127	51.4
どちらともいえない	14	5.7
あまりそう思わない	2	0.8
全く思わない	1	0.4
合計	247人	100%



看護業務への役立ち感は93%が「役立つ」と回答。

【表9　業務への活用に関する自由記述欄回答（新人）】

「研修の内容は日々の業務の中のどんな場面で役立ちそうですか。よろしければ具体的におしえてください」（アンケート文章はすべて原文のまま掲載）

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
患者対応に役立つ	191	患者さんから攻撃的な発言や行動（無視など）があったときに、今までは1パターンのとらえ方だったが、また別のとらえ方ができる。先輩Ns.の対応でこわいなと感じることもあったが、その捉え方も別の方法もあると発見できた。
		良いコミュニケーションの取り方は、同僚や先輩、患者様と話をする上でとても重要になることだと思いました。認知症の方と話をすると、自分の中で焦りや苛立ちなどが少し湧いてくることがあるので、落ち着いて対応する上で良いとかんじました。
		グループワークでいろいろな病院の人の意見が聞け役に立った。精神科患者の対応について学ぶことができた。
		実際に体験した事例に対する対応策を一緒に考えていただき、グループの皆さんの体験をもとにたくさんの案を提示していただいたのでとても学びになりました。患者さんの特性に合わせた対応をすることでお互いが気持ち良く接することができると思いました。
		患者さんの対応の際、お互いが感情的にならないよう、今日学んだことを思い出して、アサーティブな言葉を使えるようにしていきたいと思いました。
ストレスケアに役立つ	109	ストレスの負荷により、うつ傾向や怒りに対して感情をコントロールすることができそう。患者様や上司に対して、ストレスを感じることが多いが、軽減することができると思う。
		対象となる行動と、その行動に対してどういうように考えたら良いのか一面的ではなく、多面的に考えて、自分で抱え込みすぎないように……という点で、自分自身の気持ちのリフレッシュが出来れば、次の業務へとつながっていくのかな?と思いました。
		落ち込んだ際などで、沈むのではなく、今自分は何が出来るか、出来ているか考え直すようにしたいと思いました。
		困難なことがあった場合、自分の考え方のクセが強く出ないように意識することにより、バーンアウト等にならないと考えます。
同僚・先輩との関わりに役立つ	106	仕事場面でコミュニケーションを多くとる機会がある。患者のみならず、職場のスタッフとそのようなコミュニケーションをとり、よい人間関係を築いていきたい。
		ロールプレイで先輩に理由を言えないとあったが同じ場面もあったので他者の意見をきけてやってみようとおもった。
		自分の考え方をもう少しポジティブにしても良いと感じ先輩などに頼みや相談をしやすくなると思った。
自己理解に役立つ	82	患者やスタッフに対し陰性感情や苛立ちを感じやすいが、自分の考え方の癖として先読みがあり、そのように感じやすいけれど視点や考え方を変えると少し静まって対応ができそうだと思った。
		感情労働をする上でいかに客観的に自分を見つめられるかを学べた。自分のその時々の感情、認知に気づくことで心身ともに安定を図れ、患者対応へ還元できる。
		自分自身の行動パターンを知ること、認知パターンを知ることでストレスにさらされた時に、柔軟に対応でき心身共に健康につながる。それは結果的に患者様に質の良い看護を提供することができると感じた。
チームワーク・人間関係に役立つ	70	患者対応だけでなく、職場での人間関係、また友人間でも意識して行うことで、よりよい関係構築へ役立つと思いました。ありがとうございました。
		患者、NS、医療従事者間の全ての人間関係において役に立ちそうです。

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
日常の振り返り・問題解決に役立つ	46	自身の業務の中で、「あれで良かったのか」「こうしても良かったのか」と振り返って考えることが多いが、そのようなときの自己の振り返りに役立つと思う。
		自分が業務や日常生活の中で一つの考えにとらわれそうな時、別の思考や視点で物事を視るのに役立つと思います。
その他	37	日々看護をする中で困っていたことをグループの皆さんが対処について考えてくださり、次にその場面（暴言・暴力）に出会った時に、今までとは違う対応で看護をしたいと思いました。自分の考え方のクセを知ることができ、他のスタッフに積極的に意見をきこうと思うようになりました。
		精神科の看護師をやめたいといつも思っていたが、自分の対応で、患者の対応にも変化がでるのではないかと思えた。自分の気持ちにも。もう少し続けてみようと思えました。

【表10　感想についての自由記述欄回答（新人）】

「研修の中で印象に残った内容や感想・質問がありましたらお書きください」

（アンケート文章はすべて原文のまま掲載）

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
グループワークの良さ	46	グループワークは緊張するけど、自分では思いつかなかったアイディアや意見が出るので楽しいし、より覚えやすいです。
		グループワークで様々な意見を聞くことができてよかった。（自身の意見も伝えるコトができてよかった。）自身のいる病院以外のスタッフの声がきけて、貴重な経験となった。ありがとうございました！！
		最後のグループワークで、色々なアイデアが出たあとに行った２度目。ロールプレイングで、目標は同じでもアプローチが幅広くなり、より効果的に患者へアプローチを行えており、認知を変えると行動もここまで変わるんだなと驚いた。
		自分が抱えている悩みは他の人も持っているということが分かり、もっとスタッフ間で意見交換したいと思いました。
考え方のクセについて	30	考え方のクセは、その人の中でも調子の良し悪しで出てくるキャラクターの存在感が異なることが印象に残りました。同じくらいの経験年数の人と等身大の自分で話すことができて楽しかったです。
		自分自身の考え方のクセを把握することで、ネガティブな感情になるのを予防することができると思いました。勝手に相手の考えていることを予測して気分を落とすことが多いので、取り入れていきたいです。
		自分の考え方の傾向を知ることにより、Pt.に対応する際、感情的にならず、一呼吸置いてから対応することの大切さを学びました。ありがとうございました。
自己理解	25	自分のことは分かっているようで分かっていない……のは知っていますが、新たな自分をまた発見できました。また、ネガティブ思考をポジティブ思考に変えられるように……と思っていたので、正しい知識がついて良かったです。ありがとうございました。
		業務に追われて、自分と向き合う時間がなく、「自分のせいだ……」や、ただただ落ちこむことも多かったので、今日学んだことを活かして仕事を充実させようと思いました。Ptの話を聞くときも活用できると思った。
ロールプレイを体験できたことの良さ	23	ロールプレイングは恥ずかしかったが、やってみておもしろかったです。
		ロールプレイで自分では気づけない周囲の人の価値観にふれ、とても学びとなった。

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
認知行動療法の理解の深化	23	認知行動療法、以前から学習したい事柄であったのでとても良い学習になりました。講師の方もそれぞれとても分かりやすく教えて頂きました。ありがとうございます。様々な場面で活用させて頂きます。
		認知行動療法については本などでは見て勉強したいこともありましたが実際に講義を聞けて良かったです。
		認知行動療法について理解していたつもりでしたが、今日改めて学習しなおすことができ非常に満足です。これからも精神科Nsとして精進していきたいです。
講師の態度・進行	4	グループワークの時、ついてくださったスタッフさんがうまくまとめてくださったのですごく楽しいグループワークができました。ありがとうございました。
		グループメンバーに恵まれました。有意義なワークとなり明日から実践していきたいこともありました。ファシリテーターの〇〇さんが自分を含め上手にメンバーを誘導して下さり感謝しています。レジリエンス検査が研修前と後で点が上がったので、少しは柔軟に考えることができたと思います。行き詰まることがあれば、今回の研修を思い出し、明日につなげていきます。

【表11　業務への活用に関する自由記述欄回答（中堅）】

「研修の内容は日々の業務の中のどんな場面で役立ちそうですか。よろしければ具体的におしえてください」（アンケート文章はすべて原文のまま掲載）

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
患者対応に役立つ	78	患者の困った行動やスタッフ間との人間関係作りに役に立てると思います。又自分がどんな状況であるかも知り、心理状況をみつめ対策をできるのではないかと思う。
		患者さんに対しても、同僚、ふだんの生活でもコミュニケーションの姿勢、物事のとらえかたで有意義なものにできる、問題解決につながることが体験できて良かったです。実践していきたいです。
同僚との関わり方に役立つ	69	中堅の立場で上司や先輩、後輩に板ばさみにあいますが、対応やかかわりの難しいスタッフ等に対して、視野を広げて関わっていけそうです。
		患者担当はもちろん病棟運営やスタッフ間のコミュニケーションにおいても役立つと思いました。
コミュニケーションのスキルとして役立つ	50	自分の考えのクセを見つけることで、業務上の人的なコミュニケーションエラーを減らすことができそうだと思いました。
		病院の人間関係の場面で、陰性感情をもってしまった時、アサーションによって自分の感情を表現し、相手の気持ちを聞くことができると思う。
日常の振り返り・問題解決に役立つ	32	元々ポジティブ志向であるため、どんな効果があるのかと思って参加した研修であったが、自分の傾向が明確になり、相手に対する言動の自分の行動変化が今後期待できると思った。
		多忙すぎて、日々の振り返りがほぼ無い状態でした。行動の裏の心理の部分にも焦点を当てるとモチベーションが変わると思いました。
		自分自身が業務の中で困った時、自分で考えたり周りのアドバイスをきく時にも、認知のゆがみや「みかんていいな」を思い出して、良い考え方につながるのではないかと思う。
		日常の「もやもや」をコラム化し、対処行動を考えると毎日の仕事がより楽しいと思えるかもしれないと思いました。

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
後輩・新人指導に役立つ	27	自分をまず変えていき、新人相談などの時、活用したい。
		患者に対してのアプローチをイメージしていましたが、後輩指導、学生指導を行う上で非常に有効な手段であるように感じました。
		後輩が自分の失敗でとても気持ちが滅入っていますが、3コラムの考え方で広い視野をもち、気持ちが軽くなるよう支援したいと思いました。
自己理解に役立つ	22	考え方のクセや問題解決技法が役立つと思います。自分の考え方のクセを認識して直していきたいと思います。
		自分の認知パターンを知ることで今後の言動や思考パターンのふり返りができると思う。また、対応にも変化あると思う。
ストレスケアに役立つ	22	患者さんに対応する時の参考になればと思っていたが、自分のストレスにも気付き、対処できる事がわかった。
		自分が大きなストレスを感じた時のふりかえりに活用したい（いつまでもネガティブな感情をひきずってしまうので）。
感想・その他	15	同じ思いをしている方々と話ができて、日々の業務が少しつらくても頑張ろうと思えました。
		自分の考え方のクセが視覚できるようになり、コミュニケーションの傾向を理解することができました。問題解決技法でも、自分だけでは考えられなかった対処法をもらうことができたので、業務に活かしたいと思います。

【表12　感想についての自由記述欄回答（中堅）】

「研修の中で印象に残った内容や感想・質問がありましたらお書きください」

（アンケート文章はすべて原文のまま掲載）

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
グループワークの良さ	40	はじめはめんどうだな…と感じたのだがグループワークはとても共感できるし、自分の振り返りもでき、おもしろいなと思った。昔も同じような研修をうけたが今回は楽しく思えました。日々夜勤や忙しい日々の中でストレスが多いので、スタッフともグループワークの経験を話し合えそうな気がします。
		研修もグループワークも嫌いなので、ふだん研修は参加しませんが、今日はグループワークもたのしかったです。冊子もとてもきれいで、今後も参考にさせていただきます。ありがとうございました。
自己理解	14	グループワークを通して自分にない意見がでてきたので色々と自分にフィルターがあるのだと思った。
		グループワークを通して他者の意見や考えを聞いて、幅が広がったと思う。自分の傾向も知ることができて充実した研修でした。ありがとうございました。
		自分のマイナスな性格がよくわかったが、いろんな人の意見を聞いて、見方を変えて、もう少し自分をみつめなおすきっかけになった。
質問・意見	12	とても中堅看護師の研修内容とは思えない。新人研修の内容ではないですか。がっかりしました。
		充実した内容でしたが、時間が短いと思います。2日間に分けてのコースなどで開催し、より丁寧に説明が聞きたいと思いました。
		本日のスケジュール（1日の流れ）みたいなものがあると、動きやすいと思いました。
		できれば、グループワークの時間をもう少し長くとってほしかった。

記述内容	件数（のべ）	具体的記述（抜粋）
考え方のクセについて	11	自己の傾向を知ることの大切さ、異なる角度から見ていく大切さを学ぶことができた。
		考え方のクセを知れたので、今後、ストレスなど受けた時は多少、ストレスを軽く考えることが出来ると思います。ありがとうございました。
楽しさ・心地よさ	9	滅多なことでは満点はつけないのですが、お世辞抜きに、楽しい研修でした。さすが愛光さん!! ありがとうございました。
認知行動療法に関する理解の深まり	8	考え方を変えるのではなく、考え方の幅を広げるという意識で一緒に変えていく、というイメージでPt、スタッフと関わっていきたいと思いました。
その他（ストレスケア・アサーション・問題解決技法等）	14	アサーションに対する知識を初めて知ることができた。
		問題解決技法。自分がリーダーだったので、いろんな意見がきけて、気持ちが楽になりました。

4. まとめと考察

2015年からスタートした精神科看護職員認知行動療法研修は2022年で8回目の開催となった。

本研修は、毎年研修の前後で心理テストを実施し効果測定を行ってきた。今回は8年間の統計をまとめ、総合的な再評価を行った。その結果、新人研修・中堅研修すべてにおいて、統計的に有意な差が認められ、研修の効果があったことがわかった（表1～表6）。

また本研修は内容がマンネリ化しないよう、毎回終了時に行ったアンケートの結果に基づき内容の改変を繰り返しながら現在に至っている。例えば、中堅看護師コースを導入した年のアンケートにおいて『期待した内容とは違いがっかりした』という率直な意見をいただいた。そこから私たちは中堅看護師がこの研修に求めているものは何なのか、という課題を改めて真剣に議論し直し、中間管理職の厳しい立ち位置にいる職員が抱きやすい「怒り」をテーマとして取り上げ、アンガーマネジメントに関する内容とブレーンストーミングを用いた問題解決技法を次の年から加えた。その結果、研修では中堅職員特有の後輩指導に関する悩みや上司との関係等、職場の人間関係に関する議論が活発に行われるようになり、満足度は年々向上していった。またある年には『午後のアサーションの内容をもう少し丁寧に対応していただきたかったです。早口でした』という感想から、プログラム全体の見直しをはかった。改めて参加者視点に立ち研修全体を考察した結果、午前中と午後に情報量の違いがあることに気づいた。そして翌年から午前と午後のプログラムを一部組み換え全体の時間配分を大幅に変えるという変更を試みた。その結果、研修の理解度の向上が図られ、私たち講師陣も講義をする際気持の余裕が生まれた。

認知行動療法は、得てして講義が中心となり頭で理解するものになりやすい傾向がある。いかに参加者が主体的に参加できるような構造を作るか、そして認知行動療法に取り組んだ結果“認識が変わる・感情が変わる”という体験をしてもらうかを、私たちは重要な目標として試行錯誤してきた。プログラムはまず講義によって自身のストレスや怒りに気づくという導入から始まり、コラム法により体験を書き出すこと、考え方のクセやアサーションという実践を通して、最後には実際

にグループワークで自身の体験を話すというステップを組み立てた。またグループワークで5～7人の小グループに分かれた際には、活発な議論が生まれるようファシリテーターが交流の後押しを各々のグループの性質に合わせて工夫した。初めて出会う他病院の看護師同士が交流できる構造をいかに作れるか、机の配置やメンバーの組み合わせ等にも毎回変わる人数に合わせて細心の注意を払っている。ある年のアンケートの自由記述欄には『精神科の看護師をやめたいといつも思っていたが、自分の対応で、患者の対応にも変化がでるのではないかと思えた。自分の気持ちにも。もう少し続けてみようと思えました。』『行き詰まることがあれば、今回の研修を思い出し、明日につなげていきます。』など、研修が看護師を続けていく意欲につながっていることが読み取れる内容のコメントが書かれていた。これらのメッセージは、私たちが8年間積み重ねてきた努力と無縁ではないだろう。ここに書ききれない自由記述に寄せていただいたメッセージのひとつひとつからは現場の状況をリアルに垣間見ることができ、改めてその大変さを感じ取ることができた。研修をより意味のあるものに成長させてくれたのは他でもない参加された職員の方々によるところが大きく、私たちはこの認知行動療法研修を通して、精神科で働く看護師の方々の置かれている現状や必要なニーズについて、多くを学ぶ機会となった。この精神科看護職員研修は、『精神科医療に従事する専門職として、良質な医療・介護サービスの提供をするための知識や技能の習得を図るとともに、その人材を確保、養成を図る』ことが目的であるが、結果的には看護師自身のメンタルヘルスの向上にも寄与しているものと思われ、職場に戻った職員が現場で認知行動療法研修での学びを実践することで、患者にも良い影響を及ぼすことに繋がっていると考えられる。この部分については、今後私たちの研究の課題としていきたい部分である。

コロナ禍において1年間の開催中止を挟んで5類となった現在も新型コロナの感染者数は微増しているなかで、今後このような顔を合わせて開催する研修の意義について議論されるところであろう。しかし私たちは8年間、研修開始時には緊張した面持ちで閉じていた「個」が終了時には柔らかな表情に変わり、連れだって帰途につく変化を目の当たりにしていると、この研修の意義を確信せざるを得ない。

最後に、神奈川県精神科病院協会の関係スタッフの皆様、精神科看護部長会の皆様には、当日の運営はもちろん準備の段階から8年間研修を支えていただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

60周年記念式典・講演会・祝賀会

創立60周年記念式典（令和5年11月15日）

山口哲顕 会長

首藤健治 神奈川県副知事

平川淳一 日本精神科病院協会副会長

鈴木紳一郎 神奈川県医師会副会長

吉田勝明 神奈川県病院協会会長

武田 翔 神奈川県議会厚生常任委員会委員長

創立60周年記念講演会（令和5年11月15日）

大野史郎 副会長（開会）

竹内知夫 名誉会長

創立60周年記念祝賀会（令和5年11月15日）

松本吉郎 日本医師会会長

坂井喜郎 理事（司会）

斎藤庸男 神奈川県精神神経科診療所協会 会長（乾杯）

一般社団法人 神奈川県精神科病院協会
創立60周年記念祝賀会
笹の川

一般社団法人 神奈川県精神科病院協会
創立60周年記念祝賀会
笹の川

大滝紀宏 副会長（閉会）

会員病院紹介

愛光病院

理事長
竹内 知夫

名　　称：医療法人 弘徳会 愛光病院
所 在 地：厚木市松枝2-7-1
電　　話：046-221-1737
U R L：http://www.aikou-hospital.or.jp/
創立年月：昭和30年8月
敷地面積：11,325.55㎡
総 床 数：359床
診療科目：精神科、心療内科、児童精神科、思春期精神科、歯科
会　　員：竹内 知夫
理 事 長：竹内 知夫
院　　長：竹内 俊介
事 務 長：渡邉 美知太郎
看護局長：石山 清和
薬剤部長：庭木 圭子
※薬剤科長

《沿革》

昭和30年8月97床で開院後、昭和41年精神科病院としては県下初の鉄筋コンクリート2階建て女子病棟新築を皮切りに、昭和54年全館鉄筋コンクリート建てとなる。

平成2年、精神障害者社会復帰施設福祉ホーム「くすのき」及び「心の健康相談室」を設立。平成7年思春期病棟・急性期病棟・静養病棟・デイケアを備えた新病棟が完成。平成24年新本館竣工、外来部門を一新し、病棟も機能分化し8病棟となる。

平成25年1月からリワークプログラムを開始。平成26年3月には病棟再編を行い定床359床、同年6月児童・思春期精神科入院医療管理料の算定を開始（11床ユニット単位）した。平成30年からは医療観察法に基づく通院処遇患者の受入れを行っている。

《特色》

当院では、統合失調症やうつ病を中心とする精神疾患の早期発見・早期治療・早期社会復帰（家庭・職場・社会）を目指し、チーム医療を中心とした治療体系と、デイケアや訪問看護などの支援システムを構築して、精神科医療の確立と実践並びに他施設への医師派遣、家族会等での講演など地域精神科医療の充実にも力を入れている。また、就労に関わる支援にも取り組み、プレワークやリワークなどを介して新規就労や休職者の復職及び再休職防止に於いても実績を重ねている。更に、現在でもまだなかなか受入れ医療機関が不足している児童・思春期患者の受入れも行い、その中でも入院から外来まで様々な年齢や病状に合ったプログラムを複数用意し、多職種連携で手厚いサポートを行っている。

《メッセージ》

精神科も一般科と同列に扱われるべきと考え、その阻害要因の払拭を三つの観点から試みております。

1：多くの実習生を受け入れることで精神疾患の現状を理解し偏見を持たない医療・福祉専門職（医学生・研修医・看護師・作業療法士・精神保健福祉士・心理士・管理栄養士等）の育成
2：これからの精神科医療のあり方を踏まえ、それぞれの疾病に配慮した雰囲気の病棟稼働（うつ病・ストレス疾患対応病棟・思春期病棟等）
3：スタッフ一人ひとりが、各自の専門性を活かし自立（自律）した職員になるための教育体系と能力開発制度による、働きやすい職場づくり

この三項目を継続していくことが、医療情勢がどのように変わろうとも、必要な精神科医療・地域医療を実践できる病院と位置付けております。

あさひの丘病院

院長
福島　端

名　　称：医療法人 誠心会 あさひの丘病院
所 在 地：横浜市旭区川井本町128-1
電　　話：045-951-5600
U R L：http://www.seisinkai.jp/asahi/
創立年月：平成19年4月
敷地面積：11,591.87㎡
総 床 数：240床
診療科目：精神科、神経科、心療内科
会　　員：福島 端
理 事 長：佐伯 隆史
院　　長：福島 端
事 務 長：小川 ひろみ
看護部長：丸屋 めぐみ
薬剤部長：小川 ひろみ

《沿革》

昭和29年４月	横浜市旭区川井本町105番地に誠心会神奈川精神病院98床として開設
昭和30年８月	医療法人誠心会神奈川精神病院として法人格を取得
昭和39年４月	医療法人誠心会神奈川病院と名称変更
平成５年10月	隣接する丘陵に新病院（150床）を開設。新病院を神奈川病院、旧病院を神奈川第二病院（241床）に名称変更
平成19年４月	神奈川第二病院を新築移転し、あさひの丘病院（240床）と名称変更
平成24年８月	スーパー救急病棟（精神科救急病棟Ⅰ）を取得
平成25年５月	修正型電気けいれん療法（m-ECT ）を導入
平成25年５月	CPMS登録
平成25年10月	電子カルテ導入
令和２年７月	精神科コロナ疑い例等対応病院認定

《メッセージ》

当院はスーパー救急病棟（精神科救急入院料１病棟）の認可をいち早く取得し、早期発見・早期治療・早期社会復帰を目指し救急医療に積極的に取り組んで参りました。また精神科救急だけではなく、ストレスケア・認知症リハビリテーション等、多様化する精神科医療のニーズにお応えできるよう努力して参りました。患者様主体のチーム医療を基に、薬物療法に加えて作業療法や心理教育プログラム、カウンセリングを実施し、また薬物療法が困難な方にはm-ECTも導入しております。何よりも精神障がいを抱える方々が地域社会で安定した生活が送れるように、最適な医療を提供するとともに地域と密な連携をとりながら医療・福祉の両面から支援をしていくことが大切と考えております。

令和２年の７月には、新型コロナウイルスの感染拡大初期でウイルス特性がまだ明らかにはなっていない時期でしたが、患者様が行き場を失うことがないように精神科救急体制を死守したいという一心で「疑い例等対応病院」となり、現場のスタッフと協力して体制を整え、感染疑いの患者様を多く受け入れてきました。

当法人がこの地に精神病院を開院して間もなく70年を迎えようとしております。その時代時代に患者様と社会から求められる役割を見極めて、常に最新の知見でそれに対応し、患者様ご家族から信頼され地域に開かれた病院であり続けられるよう一層の努力を重ねて参ります。

厚木佐藤病院

理事長
佐藤 一守

名　　称：医療法人社団 藤和会
　　厚木佐藤病院
所 在 地：厚木市小野 759
電　　話：046-247-1211
U R L：http://www.touwakai.com
創立年月：昭和 58 年 1 月
敷地面積：6, 301 ㎡
総 床 数：184 床
診療科目：内科、血液内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、一般外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、形成外科、精神科、神経内科、整形外科、皮膚科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科
会　　員：佐藤 一守
理 事 長：佐藤 一守
院　　長：佐藤 史朋
事務部長：江里口 貴之
看護部長：ハント 香保
薬剤部長：有木 八千代

《沿革》

昭和58年 1 月　60 床の個人病院として開院
昭和60年 4 月　128 床に増床
平成元年 3 月　医療法人社団 藤和会 設立
平成 2 年 1 月　在宅医療（訪問医療・訪問介護）を開始
平成10年 7 月　新館完成　旧館改修　178 床に増床
平成12年 4 月　居宅介護支援事業所　通所リハビリ 開設
平成15年 4 月　訪問看護ステーション 開設
平成16年 4 月　旧館改修　182 床に増床
平成24年 3 月　介護老人保健施設こまち（100 床）開設
平成27年 5 月　手術室リニューアル
平成28年 7 月　新館改修　184 床に増床
平成29年10月　認知症疾患医療センター（県委託事業）開始
令和 4 年 4 月　MRI 導入（ECHELON Smart Plus）

《特色》

当院の大きな特色は一般病棟・地域包括ケア病棟・療養病棟・認知症治療病棟の 4 種の病棟があるケアミックス病院であるということです。地域密着型の病院として、心身の疾患の急性期からリハビリ・在宅医療に至るまで、総合的な医療サービスを展開しており、保健・医療・介護・福祉の多岐に渡るご要望にお応えできると思っております。

病院の基本理念は「心と体の健康を守る質の高い地域医療の提供」と掲げており職員一丸となって医療の質の向上とチーム医療で当院の機能を生かし地域に貢献出来るよう日々研鑽を行っております。

また、「抑制は原則禁止」とする抑制廃止にも取り組んでおり、「人としてのありよう」も考える医療を目標としております。

《メッセージ》

平成 29 年より認知症疾患医療センターの指定を受け事業を開始しており、認知症相談、鑑別診断はもとより合併症のある方の入院対応も積極的に行っております。令和 4 年には MRI を導入し画像検査及び各診療の強化を図っております。また、外科部門、リハビリテーション部門においても積極的に取り組んでおり今後も地域と社会のニーズに的確に応えるよう変革して参ります。

生田病院

院長
岡田　昇

名　　称：医療法人 新光会（社団）
　　生田病院
所 在 地：川崎市多摩区西生田5-24-1
電　　話：044-966-2151
U R L：http://www.shinkohkai.jp/ikuta/
創立年月：昭和35年9月21日
敷地面積：9, 321. 96㎡
総 床 数：300床
診療科目：精神科、心療内科、内科
会　　員：岡田 昇
理 事 長：櫻井 信行
院　　長：岡田 昇
事 務 長：内田 洋一
看護部長：松澤 洋明
薬剤部長：松野 美枝

《沿革》

昭和35年９月　生田病院開設（50床）
昭和37年11月　医療法人新光会（社団）設立
昭和38年１月　医療法人新光会（社団）生田病院となる（許可病床数180床）
昭和39年９月　鉄筋コンクリート地下１階地上３階建本館を増設（許可病床数252床）
昭和40年10月　歯科診療室開設
昭和47年７月　木造病棟を建替え鉄筋コンクリート４階建新館完成（許可病床数252床）
昭和48年４月　生田高等看護学院を開設
昭和50年６月　看護師寮を建設
昭和55年９月　看護師寮を病棟に改築（許可病床数380床）
昭和59年３月　生田高等看護学院を生田看護専門学校とする
平成12年３月　生田看護専門学校を廃止
平成16年11月　新棟第１期工事（地下１階地上３階建）完成240床
平成17年５月　精神科デイケア（大規模）開設
平成17年11月　新棟第２期工事（地上２階建）完成60床
平成17年11月　許可病床数300床となる
平成18年５月　作業療法開設
平成18年５月　精神科ショートケア（大規模）開設

《特色》

当院は精神疾患一般を対象とした精神科病院です。新規入院患者様の早期退院、早期リハビリテーションをはかる一方、長期入院患者様の退院援助に力を入れ、精神科デイケア・精神科訪問看護・地域社会資源の活用により退院後のケアの充実を心がけております。

また、患者様の個別性を重視し、多彩なニーズにきめ細かく対応できるよう専門スタッフが柔軟に連携し、連続性のある医療を目指し取り組んでおります。

江田記念病院

院長
伊澤 寛志

名　　称：医療法人社団 明芳会
江田記念病院
所 在 地：横浜市青葉区あざみ野南1丁目1番地
電　　話：045-912-0111
U R L：https://www.ims.gr.jp/edakinen/
創立年月：平成16年6月
敷地面積：3, 318. 53㎡
総 床 数：229床
診療科目：内科、精神科、心療内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、脳神経内科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、
会　　員：伊澤 寛志
理 事 長：中村 哲也
院　　長：伊澤 寛志
事 務 長：吉田 猛
看護部長：櫻井 信子
薬剤部長：松丸 美佳

《沿革》

平成16年6月	開設
平成20年10月	特殊疾患病棟（5階病棟）
平成23年12月	精神科デイ・ケア開始
平成24年11月	日本医療機能評価認定
平成27年9月	精神科急性期治療病棟（4階病棟）
平成29年4月	CT撮影装置（16列マルチスライス）導入
平成30年7月	回復期リハビリテーション病棟（6階病棟）
令和4年12月	障害者病棟（3階病棟）
令和5年6月	指定通院医療機関指定（医療観察法）

《特色》

当院は都市型精神科ならびに内科療養系の病院として開設しました。最寄りの田園都市線江田駅からの距離も近く、横浜市内の他に川崎市や都内からのアクセスも良い場所にあります。

横浜市青葉区で唯一の精神科病床（精神科急性期治療病棟）を有しており、薬物療法、精神療法に加え作業療法や集団精神療法も実施し、多職種で情報共有しながらチーム医療を実践しています。

外来は精神科、一般内科を中心に循環器内科、糖尿病内科、リハビリテーション科の診療を行っています。

その他、社会復帰を目指した精神科デイ・ケアや通所・訪問リハビリテーション部門を併設して広く地域の方々に利用していただいており、健診部門では利用者の希望に合わせた各種の検査で疾患の発見や予防に努めています。

《メッセージ》

当院では、地域社会から必要とされる医療や介護サービスを適切かつ迅速に提供して健康の回復を支援するため、地域の関連機関と幅広く連携し、十分な説明を尽くすよう心掛けつつ、安全な医療の実現を目指しています。

神奈川県精神科救急医療の輪番病院の受け皿となる精神科急性期治療病棟に加えて、回復期リハビリテーション病棟や障害者病棟にも精神科医を配置し、脳卒中・骨折後のせん妄や認知症のBPSD対応、パーキンソン病などの器質性精神障害にも対応しています。また内科医やPT・OTなどリハビリスタッフが多く勤務していることも大きな特徴です。

応急入院指定病院ではないため措置入院は対応していませんが、2023年には医療観察法指定通院医療機関の指定を受け、現在地域の自殺予防を目指したかかりつけ医とのこころの連携指導料を通しての地域連携の強化を検討しており、地域の自傷他害リスクの軽減に貢献していこうと考えています。

神奈川病院

院長
森　一和

名　　称：医療法人 誠心会 神奈川病院
所 在 地：神奈川県横浜市旭区川井本町 122-1
電　　話：045-951-9811
U R L：http://www.seisinkai.jp
創立年月：昭和 29 年 4 月
敷地面積：15, 880 ㎡
総 床 数：163 床
診療科目：精神科、神経科、内科
会　　員：佐伯 隆史
理 事 長：佐伯 隆史
院　　長：森 一和
事 務 長：小川 ひろみ
薬剤部長：小川 ひろみ

《沿革》

1954年　誠心会神奈川精神病院を創立
1964年　医療法人誠心会神奈川病院と名称変更
1993年　近隣に新病院開院、名称は「神奈川病院」を継承
163 床に増床
旧病院を神奈川第二病院として 2 院体制をスタート
老人性認知症治療病棟の承認
1994年　精神科デイケア（大規模）の承認
2018年　神奈川県依存症専門医療機関（アルコール依存症）として認定
2018年　電子カルテシステム導入
2021年　クロザピン治療開始

《メッセージ》

医療法人誠心会は、「誠心（まごころ）をつくして温もりのある医療を、そしてノーマライゼーションへ」をモットーに創立から70 年近く、地域精神医療福祉の実現を目指してまいりました。患者様は地域社会で生活する「生活者」であるという認識を常に念頭に置き、地域社会でより良く生活するために、大規模デイケア、訪問看護ステーション、グループホーム、生活訓練施設等中間施設をいち早く整備し、患者様のニーズに合った医療や福祉サービスの提供がスムーズに行えるよう努力してまいりました。アルコール依存症治療は、ハームリダクションの概念のもとに、解毒・離脱期の薬物治療から、当事者へのアルコール教育プログラムの提供、更にご家族に対しても心理教育の場を設け、当事者の断酒継続や減酒による生活の質の向上をサポートしています。認知症医療は介護、福祉との連携を重視し、ものわすれ外来と入院で治療していくと共に介護者支援も大事にしています。平成 30 年からは認知症初期集中支援事業を請け負い、行政や地域関係機関と連携し、地域での認知症が疑われる方や、継続的な医療サービスを受けていない方に対してのアウトリーチを行い、アセスメント・家族支援等初期の支援を包括的・集中的に行うことで自立生活のサポートを行っております。精神医療においては、クロザピン治療の導入を行い、難治例に対しても薬物療法及び心理教育、作業療法等チーム医療を行い、地域社会で安定した生活が送れるよう地域との連携を取りながら患者様主体の支援を心がけております。

今後は患者様や社会から求められる役割を見極めて、患者様ご家族から信頼され、地域に根差した病院であり続けられるよう一層の努力を重ねてまいります。

かわさき記念病院

院長
福井 俊哉

名　　称：医療法人三星会
　　かわさき記念病院
所 在 地：神奈川県川崎市宮
　　前区潮見台20-1
電　　話：044-977-8877
U R L：https://www.kkh.
　　ne.jp
創立年月：平成26年5月
敷地面積：8, 808㎡
総 床 数：300床
診療科目：精神科、脳神経内
　　科
会　　員：福井 俊哉
理 事 長：山本 登
院　　長：福井 俊哉
事 務 長：大平 潤
看護部長：梶山 倫子
薬剤部長：田村 英樹

《沿革》

平成26年5月1日　開設
平成30年4月1日　川崎市認知症訪問支援チーム（認知症初期集中支援チーム）に参加
令和元年7月1日　標榜科名称を神経内科から脳神経内科へ変更
令和2年5月1日　法人名称を医療法人花咲会から医療法人三星会へ変更
令和3年8月4日　川崎市より認知症疾患医療センターに指定

《特色》

当院は認知症専門病院であり、認知症だけを対象とした300床を有する精神科病院であることが大きな特徴です。一般精神疾患の診療は行っていません。脳神経内科の医師が5名、精神科の医師が5名、内科の医師が1名在籍しています。また、もう一つの特徴は、認知症に関する適切な治療やリハビリテーションを行うことにより、問題点を早期に解決し、できるだけ入院期間を短くして、在宅や施設など地域に早くお戻しすることを目標としていることです。診療面では、認知症診療にかかわってきた医師やスタッフの長年の経験を生かし、問診に重きを置いて、患者さんや家族の話を聞き取ることに時間をかけています。認知症の早期発見、早期治療にも力を入れており、神経心理検査のほか、CT撮影での画像検査を実施し、可能な限り初診日に診断を確定するようにしています。また、患者さんを尊重し身体拘束をなるべくしないこと、抗精神病薬を適切に使うことを心がけています。

《メッセージ》

神奈川県精神科病院協会の会員の方々には大変お世話になっております。当院も開院10年目を迎え認知度も上がってきており、これも皆様のご支援の賜物と厚く感謝申し上げる次第です。2021年8月には川崎市地域型認知症疾患医療センターを拝命し、その重責をひしひしと感じている今日この頃です。当院が総合病院ではないことから、一部の身体疾患（がん・透析中腎不全など）をお持ちの認知症患者さんには対応できない場合もありますが、職員一同ベストを尽くしたいと努力しておりますのでお声がけの程よろしくお願いいたします。

北小田原病院

院長
鈴木 孝治

名　　称：医療法人社団 明芳会
北小田原病院
所 在 地：神奈川県南足柄市矢倉沢
625番地
電　　話：0465-73-2191
U R L：http://www.ims.gr.jp/
kitaodawara/
創立年月：昭和59年6月
敷地面積：12, 703. 96㎡
総 床 数：345床
診療科目：精神科、老人精神科、内科、脳神経内科、皮膚科
会　　員：鈴木 孝治
理 事 長：中村 哲也
院　　長：鈴木 孝治
事 務 長：野田 誠康
看護部長：伊達 美香
薬剤部長：松井 宏之

《沿革》

昭和59年6月　北小田原病院開設
許可病床150床
昭和62年2月　新棟増築工事
許可病床333床（精神科278床・内科55床）
平成13年5月　精神デイケア開始
平成15年4月　改修工事
内科病棟55床→療養病床55床に変更
平成21年3月　新病棟増築・旧病棟改修・解体工事
許可病床345床（精神科290床・療養55床）
平成27年4月　脳血管疾患・運動器リハビリテーション施設基準取得

《特色》

高齢化社会に向け、精神科及び内科が連携し「心と身体をトータルに治療」という当院の特徴を活かし、平成21年により良い治療環境を求めて、旧病棟を解体し、新病棟を増築、療養環境の整備をするとともに、認知症治療病棟（2病棟100床）を新設しました。平成27年には、リハビリテーション施設基準を取得し、社会復帰を目指す精神科患者様及び高齢化する精神科患者様のケアーに力を入れております。

内科及び神経内科専門医が常勤として勤務しており、身体合併症にも対応した医療を提供しております。

清川遠寿病院

理事長
増田 直樹

名　　称：医療法人社団 増田厚生会
清川遠寿病院
所 在 地：神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷3414
電　　話：046-288-1511
U R L：http://kiyokawa-enjyu.com/
創立年月：昭和63（1998）年7月2日
敷地面積：9, 991. 14㎡
総 床 数：325床
診療科目：精神科、内科、心療内科
会　　員：増田 直樹
理 事 長：増田 直樹
院　　長：岩元 誠
事 務 長：丹羽 規之
看護部長：田口 祐子
薬剤部長：宇田 宏子

《沿革》

1998年7月	個人立病院として清川遠寿病院開設（138床）
1994年12月	医療法人社団増田厚生会として法人設立
1998年4月	精神療養病棟として88床増床
2001年5月	サテライトクリニック「厚木こころのクリニック」開設
2003年7月	東館病棟として160床増床（総病床358床）
2007年10月	サテライトクリニック「橋本こころのクリニック」開設
2008年1月	病棟の編制により総病床346床とする
2009年9月	病棟の編制により総病床325床とする

《特色》

基本理念

1. 患者様の人権を尊重し、質の高い医療を行う
2. 職場の和と大切にする。職員同士が信頼し合い、職務にのぞむことが患者様およびご家族の皆様の満足につながる
3. 地域から信頼される病院に成長し続ける

《メッセージ》

「清川遠寿病院」は静かで緑豊かな丹沢山麓に1988年初夏に開設されました。

自然の恵みとあたたかな心で理想の精神科医療を目指しています

栗田病院

理事長
栗田 正

名　　称：医療法人社団 正慶会
　　栗田病院
所 在 地：川崎市幸区小倉 2-30-13
電　　話：044-599-2441
U R L：http://www.kurita-hp.com
創立年月：昭和 26 年 10 月
敷地面積：3, 305. 7 ㎡
総 床 数：200 床
診療科目：精神科
会　　員：栗田 正
理 事 長：栗田 正
院　　長：竹林 裕直
事 務 長：田角 敬之
看護部長：大森 葉子
薬剤部長：谷屋 清子

《沿革》

当院の歴史は永く、宝暦年間に始まり、昭和 26 年に 7 代に亘った「栗田医院」を「栗田病院」に改称、昭和 53 年に医療法人となり現在に至っております。当院は、住宅街や商店街に囲まれた環境で、患者さんを地域から分け隔てることなく精神科医療を提供してきました。平成 25 年 4 月に施行された障害者総合支援法において、「すべての障害者が可能な限り、その身近な場所において必要な日常生活または社会生活を営むための支援を受けられること」、「社会参加の機会が確保されること」が定められています。川崎南部には精神科病院は当院しかありません。地域に暮らす精神疾患をもつ患者さんに対して責任を持ち、入院医療から地域医療まで繋がりのある医療を提供することで、共生社会の実現を目指しています。一方で、高齢化社会の到来を迎え、高齢者対策にも積極的に取り組み、平成 3 年 4 月、川崎市で初の病院併設型介護老人保健施設「幸正の苑」を開設し、医療と福祉の両面からその役割を果たしております。又、平成 11 年 4 月には栗田病院併設施設、精神科デイケア「コミュニティー栗田」を開設し、在宅の精神障害者の方々へ社会復帰の機会を提供しております。

《特色》

病院を主体とし、介護老人保健施設、精神科デイケアを併設しており、医療・福祉の両面において地域社会との共生を目指しながら、多様なニーズに応えるべく周辺医療機関とも連携を密にし、安心できる医療の提供を行っています。

けやきの森病院

理事長・院長
伊吹 龍

名　　称：医療法人社団 朋友会
　　けやきの森病院
所 在 地：神奈川県高座郡寒川町宮山
　　3505
電　　話：0467-74-5331
U R L：https://www.
　　keyakinomori.jp/
創立年月：昭和57年2月
敷地面積：10,057.4㎡
総 床 数：184床
診療科目：精神科・心療内科・内科
会　　員：伊吹 龍
理 事 長：伊吹 龍
院　　長：伊吹 龍
事務部長：星 亮太
看護部長：鈴木 美紀
薬剤課長：川島 昌美

《沿革》

明治43年11月	皆川医院開設
大正2年	皆川病院開設
昭和38年	指定精神病院（187床）
昭和56年	205床に増床
昭和57年	医療法人社団朋友会に経営主体変更 病院名　皆川記念病院
平成9年	病院名　けやきの森病院に変更
平成24年	新病棟竣工（184床）
令和5年10月	理事長交代

《特色》

けやきの木に囲まれた自然環境を生かした良質の療養環境にて、精神科医療を行っております。その中で従来の入院医療に留まらず新時代の精神医療に応えるために、リワークや気分障害圏のデイケア、精神科訪問看護も充実し、地域移行も見据えた精神科病院として取り組んでおります。

また、湘南東部地域の認知症を抱える開業医の皆様やそのご家族に向けて、BPSD改善に向けた薬物調整入院なども行い、地域医療計画に積極的に参画する体制にも視野を向けております。

《メッセージ》

けやきの森病院では今までは地域に存在していながら精神科専門病院として地域に溶け込むような存在ではなかったように思えます。今後はこの地域で数少ない精神科病院として必要不可欠な病院になっていくよう、スタッフ一同不断の努力を続けていきます。

元気会 横浜病院

理事長・院長
北島 明佳

名　　称：医療法人社団 元気会 横浜病院
所 在 地：神奈川県横浜市緑区寺山町729
電　　話：045-933-1011
U R L：http://genkikaiyokohama.jp
創立年月：昭和56年12月
敷地面積：2, 116. 02坪
総 床 数：326床
診療科目：内科、精神科、リハビリテーション科
会　　員：北島 明佳
理事長・院長：北島 明佳
事業部長：大久保 秀行
看護部長：川合 義惠
薬剤課長：江口 英孝

《沿革》

「こわくなく、くるしくなく、さびしくなく」という初代理事長の理念の基、病気による体の苦痛を減らすことだけでなく、「こわさ、くるしさ、さびしさ」をなくすという心のケアにも力を注いでいます。1981年に創設し、1991年には医療法人元気会を開設。その後、特例許可老人病院や介護力強化病院を経て、現在は326床の医療療養病床、認知症治療病棟、介護医療院を有する病院となりました。

《特色》

当法人は「心を元気にする、医療介護を通じてみんながしあわせになる社会を作ります」を理念として掲げています。当院が有する療養病床は一般病院の役割とは異なり、急性期を脱したものの在宅や介護施設では療養が困難な患者様の医療と介護を提供することが私たちの使命です。人生の集大成の時を身体的・精神的苦痛を感じずに過ごすことが重要だと考えています。

また「地域で共に活きる」という2028年ビジョンを掲げ、地域の医療・介護・福祉の要となれるよう、身体拘束ゼロ活動、ユマニチュードの導入など、さまざまな取り組みを行っています。さらに近年では訪問診療のクリニック、訪問看護ステーションを開設し、これからも地域に貢献できるよう、患者様を主体としたより良い医療と介護を提供してまいります。

《メッセージ》

当院は高齢者医療に特化し、高齢者の心身両面から診療を可能にするために内科と精神科を標榜し、横浜で40年間診療を行ってまいりました。現在は地域のニーズに合わせて入院機能のみならず、在宅医療にも注力しております。これからもより地域に貢献できるように尽力をしてまいります。

国府津病院

名　　称：特定医療法人 清輝会
　　国府津病院
所 在 地：神奈川県小田原市田島125
　　番地
電　　話：0465-47-2225
U R L：www.seikikai.or.jp
創立年月：昭和8年3月
敷地面積：6, 962. 14㎡
総 床 数：250床
診療科目：精神科、心療内科
会　　員：山田 聡敦
理 事 長：野地 春美
院　　長：山田 聡敦
事 務 長：中島 喜義
看護部長：多田 久美子
薬剤部長：勝呂 一也

《メッセージ》

20世紀後半のわが国の精神医療は、国の方針や制度的歪み、精神障害者への差別・偏見などのために、世界的な精神医学の進歩、医療技術の向上、患者様を巡る処遇の改善（人権の擁護・ノーマライゼーション）など新しい流れを吸収する柔軟性を欠き、患者・家族の皆様に数々の苦痛・苦難を強いてきました。今、私たちに求められているのことは、23万人が入院している精神科病院を治療能力の高い、地域に開かれた利用しやすい施設に変えていくことです。精神障害者が病院で一生過ごさずに、社会の中で生活できる道を最大限追求し、救急や生活支援などのサービスの質を向上させることです。

1990年代後半から、副作用の比較的少ない薬効の優れた非定型抗精神病薬が次々に登場し、急性期症状のみならず、意欲減退などの陰性症状にも効果が期待できるようになりました。経過の長い病気でも短期の入院で急性期症状が経過すれば社会生活が可能になりました。当院においてもこれらの新しい薬を積極的に治療に導入しています。しかし、精神疾患は「薬だけで治す」ものではありません。精神療法（心理療法・カウンセリング・集団療法）精神科リハビリテーション（作業療法・SST）、ケースワーク（相談・援助）、看護など総合的なアプローチが求められます。令和を迎えて以降、病棟の建替を行い患者様に快適な療養空間を提供するとともに、リハビリ施設の拡充、訪問看護ステーションの設立といった地域社会への復帰のサポートにも力を入れています。

小田原は小田原城を有する日本でも有数の旧城下町の一つで、街の随所に歴史がちりばめられています。また、各種鉄道をはじめ、3つの高速道路が行きかう交通の要衝であり、箱根・伊豆など日本を代表する観光地の玄関口になっています。山や海に囲まれ、温暖な気候で春には梅花・桜花が咲き乱れ、四季折々の草花もみられる自然環境に恵まれた病院です。このような土地柄から住民の気質もおおらかで、他人への思いやりややさしさに満ち溢れています。私たちはこのような自然や風土をも治療に取込み、新しい精神医療にチャレンジしてまいります。

港北病院

理事長・院長
山口 哲顕

名　　称：医療法人 正永会
　　港北病院
所 在 地：横浜市保土ヶ谷区
　　新井町 486 番地
電　　話：045-381-0180
U R L：www.fnet.jp/
　　kouhoku-hospital/
創立年月：昭和 36 年 7 月
敷地面積：9, 948 ㎡
病 床 数：210 床
診療科目：精神科、歯科
会　　員：山口 哲顕
理 事 長：山口 哲顕
院　　長：山口 哲顕
事 務 長：奈良 孝一
看護部長：松本 浩子
薬 局 長：飯田 淳

《沿革》

わが院は港の子方起伏多き丘の上より富士ケ嶺を見る。

当院は昭和 36 年 7 月、横浜市内北部の風光明媚な丘陵地帯に木造平屋建病棟 64 床の個人病院（院長山口哲衛）として開院した。港北病院の名称は地理的に横浜港の北にあたること、及び開院当時は現住所が横浜市港北区であったことから、併せて命名した。

昭和 37 年 4 月に改組して医療法人正永会港北病院（理事長山口哲蔵、院長山口哲衛）となっている。

平成 13 年 6 月に病棟、14 年 7 月に外来棟を新築し、16 年 4 月にデイケアセンターを開設、21 年 6 月より訪問看護を開始している。

最近 10 年間は内部体制の充実、強化に努め、ハード面では令和元年に駐車場用地として隣接地約 500 坪を購入した程度であるが、新たに医療安全対策加算 2、感染対策向上加算 2、看護補助体制充実加算等の施設基準を取得している。

《特色》

当院は快適な医療環境のもとで、適切な医療サービスを提供することを理念として、

1. 患者さまのための医療、福祉並びに保護を行い、社会復帰の促進に努める。
2. 患者さまの個々の権利を擁護し、患者さま並びにそのご家族とは優しい心で接するとともに、その守秘義務は厳守する。
3. 質の高い医療を提供できるよう、研鑽に励む。
4. 地域のニーズに対応した精神医療、並びに精神保健福祉活動を積極的に行い、社会に貢献する。

を基本方針としています。

そのために、社会復帰の促進に向けては地域移行推進会議、退院支援会議、多職種連携調整会議等を通しての支援、デイケア、訪問看護、関係機関の要請による往診等を行うとともに、横浜市立大学、北里大学、昭和大学、東邦大学等の大学病院、精神科だけではなく地域の内科、外科等の病院、診療所、福祉保健事務所等の公的機関とも連携し、個々の患者さまそれぞれに適切な医療を提供するべく努めています。

また、聖隷横浜病院、日本医科大学武蔵小杉病院、大船中央病院の卒後臨床研修協力病院として、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、北里大学病院、東邦大学医療センター大森病院、済生会横浜市東部病院の精神科専門医研修連携施設として、研修医、精神科医の教育、指導にも力を入れています。

《メッセージ》

精神科医療は年々進歩をしていますが、一般科における内視鏡手術やロボット手術のように、誰にでもわかる画期的な治療技術の進歩はまだまだと感じています。また、一般科では将来の人口動態の変化に対応するべく、地域医療構想により病床の調整を開始しています。

精神科医療の将来像を考えながら、引き続き地域に根ざした病院として職員一同一丸となって努力を続け、前進して行きたいと思っています。

栄聖仁会病院

院長
岩永 明峰

名　　称：医療法人社団 聖仁会
　　栄聖仁会病院
所 在 地：神奈川県横浜市栄区公田町
　　337-1
電　　話：045-895-0088
U R L：https://seijinkai-sakae.jp/
創立年月：平成９年７月
敷地面積：3, 724㎡
総 床 数：106床
診療科目：精神科、心療内科、内科
会　　員：岩永 明峰
理 事 長：杉山 雅英
院　　長：岩永 明峰
事 務 長：澤田 輝夫
看護部長：藤田 美代子

《特色》

栄聖仁会病院では、高齢者人口の増加による認知症の増加に対して社会的役割の一翼を担うため、精神科入院治療を行っております。「精神科」と申しましても当院は一般的な精神病院とは異なり、精神症状のため在宅や一般施設・病棟での療養継続が困難となったご高齢の患者様のための最後の砦のような病院です。わかりやすく言えば「精神科対応が必要な患者様を積極的に受け入れる療養型病院」といったところです。職員が一丸となって地域医療に貢献させていただけるような病院づくりを目指し日々奮闘しております。

《メッセージ》

世界保健機関（WHO）憲章前文では健康について「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義されています。当院の治療方針も単純に認知症という病気を根治する事よりも、個々の患者様の状態に即した医学的・心理的・社会的アプローチをバランスよく実施することによりご高齢の患者様ひとりひとりの「いまの状況」を少しでも良いものにしていく事を目指しています。

相模病院

院長
切明 義孝

名　　称：医療法人 寿康会 相模病院
所 在 地：神奈川県相模原市南区若松1-12-25
電　　話：042-743-0311
U R L：http://www.sagami-hp.com
創立年月：昭和33年
敷地面積：9,101㎡
総 床 数：173床
診療科目：精神科・神経科、心療内科、内科
会　　員：武藤 由記子
理 事 長：武藤 由記子
院　　長：切明 義孝
事 務 長：外園 恵美
看護部長：佐藤 育子
薬剤部長：長嶋 佳介

《沿革》

昭和33年１月　相模病院開設　許可病床84床
昭和35年１月　医療法人寿康会　相模病院　125床
昭和55年１月　建て替えにより病床363床
平成９年10月　建て替えにより病床173床となる

《特色》

新患が予約なしで受診できる精神科病院です。主に睡眠障害、出社困難、感情障害、統合失調症、認知症等で受診される方が多いです。より良い治療方法はないかとお悩みの方の受診も多く、当院では薬物治療以外にも、生活習慣の改善、環境調整、精神療法、行動療法、心理療法など様々な治療の選択肢をご提案しています。また入院患者様には質の高い社会復帰が目指せるように作業療法、運動療法、音楽やダンス、レクレーションなど様々なプログラムを用意しており参加は自由です。併設するデイケアのみの利用も可能です。

《メッセージ》

４人に１人が何らかの精神疾患で悩む現代。既に治療中の方でも、自分に合った治療方法はないかとお悩みの方が多いのも事実です。治療方法は薬だけではありません。例えば生活習慣の改善や環境調整で睡眠障害が改善することもありますし、考え方の個性に気付いて思考を最適化すれば、不安や抑うつ、妄想、幻聴なども気にならなくなることがあります。また音楽が認知症の方々の記憶を呼び起こし、うつ病の患者様の笑顔を取り戻すこともあります。薬物治療のみでは症状が改善しない方もぜひご相談ください。

閑静な環境に恵まれた当院は相模大野駅から徒歩20分。最寄りの相模病院前バス停からは徒歩５分です。広い駐車場もございますので車での来院も便利です。

相模ケ丘病院

院長
澤山　透

名　　称：医療法人社団 博奉会
　　相模ケ丘病院
所 在 地：神奈川県相模原市南区下溝
　　4378番地
電　　話：042-778-0200
U R L：http://hakuhou-kai.or.jp
創立年月：昭和42年12月
敷地面積：19,092.04㎡
総 床 数：200床
診療科目：精神科、心療内科
会　　員：澤山 透
理 事 長：山田 修
院　　長：澤山 透
事 務 長：鈴木 友明
看護部長：小林 一裕
薬剤部長：椎 美紀

《沿革》

昭和42年12月、相模ケ丘病院を開設。昭和47年12月法人認可。医療法人社団博奉会　相模ケ丘病院となる。平成12年グループホーム「丘の上」開設。平成14年グループホーム「ふれあいの丘」開設。平成15年10月厚生労働省の協力型臨床研修病院に認定。平成18年4月公益社団法人日本精神神経学会の精神科専門医制度研修施設に認定。平成19年1月病棟140床、管理棟、デイケア棟を新築移転。平成29年5月就労継続支援B型事業所「クロプファ」を開設。

《特色》

当院は丹沢山系の美しい風景をのぞみ、近隣には緑豊かな道保川公園や麻溝公園があり、四季折々の変化を楽しむことのできる素晴らしい自然環境に恵まれております。当院の基本理念である「博愛の心で奉仕する」の精神で、地域医療における精神科医療供給体制に積極的に参加しております。また、入院生活中の身体機能の維持増強に病棟内にアスレチックルームを用意して健康のサポートも行っております。敷地内に設置しているデイケア棟では通院治療の一環として、リハビリテーションの様々な支援プログラムを用意しており、いろいろな活動に参加し規則性のある生活リズムを作りながら社会復帰の促進を図っています。

《メッセージ》

当院は恵まれた自然環境の中で、家庭的な温かさとゆっくりした生活空間を取り入れ、治療や療養生活をより効果的に図れるよう日々努めております。また精神科の通院・入院患者様に配慮し、平成18年9月に一般財団法人日本情報経済社会推進協会のプライバシーマークを取得して認定事業所となり、平成21年11月には神奈川県の個人情報取扱業務登録済事業所として、個人情報保護体制を推進し確立してまいりました。今後とも更なる医療体制の充実に取り組み、地域医療の重要な役割の一旦を担うに相応しい医療機関として成長してまいります。

相模湖病院

名　　称：医療法人社団
　　早雲会
　　相模湖病院
所 在 地：神奈川県相模原市
　　緑区寸沢嵐 2891
電　　話：042-685-0021
U R L：https://sounkai.
　　com/sagamiko_
　　hp/
創立年月：昭和 42 年 1 月
敷地面積：6, 859. 9 ㎡
総 床 数：205 床
診療科目：精神科、心療内科
会　　員：原 孝
理 事 長：原 孝
院　　長：酒井 智弘
事 務 長：野首 信弘
看護部長：松山 一樹
薬剤部長：井上 拓磨

《沿革》

昭和42年 1 月　神奈川県津久井郡（現相模原市）相模湖町寸沢嵐に「相模湖病院」（精神科・神経科 106 床）を開設
昭和43年 5 月　相模湖病院　135 床へ増床
昭和44年10月　相模湖病院　155 床へ増床
昭和58年 1 月　相模湖病院　203 床へ増床
平成 5 年12月　相模湖病院　220 床へ増床
平成 8 年 5 月　医療法人社団東華会を設立
平成 8 年 7 月　医療法人社団東華会「相模湖病院」を開設
平成25年 2 月　神奈川県相模原市緑区下九沢に「橋本南ファミリークリニック」（小児科、内科、心療内科、精神科）を開設
平成27年 7 月　神奈川県相模原市南区相模大野に「北条メンタルクリニック」（心療内科・内科・精神科）を開設
平成28年 4 月　「橋本南ファミリークリニック」を「北条クリニックはしもと」に名称変更。
　「北条メンタルクリニック」を「北条クリニックおおの」に名称変更。
平成29年 8 月　神奈川県川崎市高津区に「北条クリニックみぞのくち」（心療内科・内科・精神科）を開設
平成30年 7 月　法人名を「早雲会」に変更
令和元年12月　東京都品川区に「北条クリニックはたのだい」（心療内科・内科・精神科）を開設

《特色》

神奈川県の北部に位置する相模湖病院は、神奈川県の水瓶である相模湖と豊かな緑に囲まれた環境の中にあります。そうした環境の中で、アルコール依存症や薬物依存症といったアディクション関連の患者様、あるいは統合失調症やうつ病といった様々な心の病に苦しむ患者様に対し、医師をはじめとする病院スタッフが一丸となって、社会復帰のための援助やサービスに取り組んでいます。

《メッセージ》

当院ではアルコールや薬物といったアディクション関連の疾患について特に力を入れており、広域にわたる医療機関や関係機関から入院の依頼を受けております。また、統合失調症や認知症をはじめとする精神疾患に対しても質の高い医療提供に努めております。

引き続き地域の方々との繋がりを大切にし、地域のための医療提供を心がけてまいります。

相模台病院

院長
井原　厚

名　　称：医療法人 興生会
　　相模台病院
所 在 地：神奈川県座間市相模が丘
　　6-24-28
電　　話：046-256-0011
U R L：https://i-koseikai.com/hp/
創立年月：昭和39年12月
総 床 数：306床
診療科目：内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、腎臓内科、糖尿病内科、内分泌内科、小児科、外科、肛門外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、麻酔科、精神神経科、放射線科、リハビリテーション科、人工透析内科
会　　員：丸 香奈恵
理 事 長：山上 達也
院　　長：井原 厚
事 務 長：持丸 幸一
看護部長：田中 敬子
薬剤部長代理：八城 学

《沿革》

昭和39年12月	医療法人興生会　相模台病院（一般10床、精神70床）を開設
昭和49年 4月	人工透析を開始
昭和59年 4月	増床（一般126床、精神174床）結石破砕装置を導入
平成 6年10月	救急指定病院に告示
平成15年 6月	新館竣工／旧館改築
平成15年10月	臨床研修病院に指定
平成16年 1月	小児病棟（20床）を開設し、増床（一般173床、精神208床）
平成22年 2月	病床数（一般151床、精神155床）306床に変更
平成26年 2月	MRI（1.5T）の導入
平成26年 2月	地下水膜ろ過システムの導入（緊急時のライフラインの確保）

《特色》

相模台病院は神奈川県県央部に位置し、総診療科は20科（精神科を含む）、総病床数306床のうち、精神科病床は155床で、一般病床は151床の一般病院である。精神科病床は閉鎖病棟117床、認知症治療病棟38床である。同一病院内において、精神科病棟と一般病棟を有していることもあり、精神疾患と身体疾患を合併した患者の依頼も多い。精神科病棟における精神疾患者の入院加療とともに、一般病棟におけるリエゾンコンサルテーションもおこなっている。平成25年度に閉鎖病棟の病床の割合を増やし、精神科急性期患者の対応にも重点を置くことを目指している。研修医の研修病院、医学生・看護学生の実習の受け入れなど教育病院としての役割にも力を入れている。また、地域の身体疾患の二次救急対応病院であることも当院の特徴といえる。

《メッセージ》

当院はまもなく創立60周年を迎えます。当院の特徴である精神科病棟と一般科病棟を有し、心も身体も診ることができ、かつ腎センターを有する神奈川県においても数少ない病院です。今後益々高齢化する患者さんには認知症を有する患者さんも多く、心身のケアーの重要性が問われています。今後当院では地域に根ざした病院として神奈川県の精神科疾患を有する患者さんが高齢化社会の中で少しでも多く在宅復帰できるよう“ひとりひとりの患者さん”に適した身体のケアーができる社会ニーズに合った病院づくりを心がけていく所存です。

紫雲会横浜病院

名　　称：公益財団法人
紫雲会 横浜病院
所 在 地：神奈川県横浜市
神奈川区神大寺
3-1-12
電　　話：045-491-2661
U R L：https://www.
shiunkai.or.jp/
創立年月：昭和32年7月
総 床 数：252床
会　　員：筒井 啓太
会　　長：須藤 文彦
院　　長：筒井 啓太
事 務 長：古稲 俊博
看護部長：小林 美穂子
薬剤部長：村田 知穂
（薬剤科主任）

《沿革》

1909年（明治42年）10月、初代院長須藤鑛作によって、「横浜神脳院」が神奈川区青木町に設立されました。これが神奈川県内最初の精神科病院となります。その後、1912年（明治45年）に「横浜脳病院」と改称されました。横浜脳病院は1931年（昭和6年）、その分院として現在の神大寺に「神奈川病院」を設立し、さらに1937年（昭和12年）に横浜脳病院と神奈川病院が合併し神大寺に移転となりました。1957年（昭和32年）に財団法人紫雲会が設立となり、初代理事長に須藤英雄が就きました。名称も「紫雲会横浜病院」と改称となり、2009年（平成21年）に新病棟が完成し病床数が252床となり、現在に至ります。

《特色》

当院は、神奈川区内唯一の精神科単科病院です。横浜駅からバスで15分程度と、精神科病院としては交通の便の良いところに位置しています。外来部門として、精神科外来、歯科外来、精神科訪問看護、デイケア、外来作業療法、一般レントゲンとＣＴ撮影、などの機能を有しており、病棟部門としては、精神科急性期治療病棟、精神科地域移行機能強化病棟、精神科療養病棟を有しています。その他、法人の関連施設として、自立訓練施設、生活支援センター、グループホームなども有しており、結果、精神疾患の初発・再燃再発に対する速やかな初期対応から、外来・入院治療を経てその後の地域移行・社会復帰に至るまで、一貫して対応できるよう体制を整えています。また、難治性統合失調症の治療薬であるクロザピンの処方、修正型電気けいれん療法を実施できる体制も整備しており、軽症から重症の患者さんまで対応できるよう配慮しています。近年では、身体疾患を併存している精神疾患や認知症性疾患の患者さんに対するニーズが高まってきておりますので、内科常勤医や老年精神医学会専門医を確保するなどして、そういったニーズにも対応できるよう体制を整えつつあります。

《メッセージ》

地域のニーズにこたえられるよう病院・法人全体として努力してまいりますので、精神疾患や認知症性疾患にまつわることであれば、気軽に声を掛けて頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

十愛病院

理事長・院長
野崎 伸次

名　　称：公益財団法人 十愛会 十愛病院
所 在 地：横浜市戸塚区品濃町1140
電　　話：045-822-0321
U R L：http://www.jyuai.com
創立年月：昭和43年11月
敷地面積：4, 468. 1㎡
総 床 数：94床
診療科目：精神科、内科、麻酔科
会　　員：野崎 伸次
理 事 長：野崎 伸次
院　　長：野崎 伸次
事 務 長：鈴木 保雄
看護部長：大西 裕康（看護師長）
薬剤部長：小林 美佳（薬局長）

《沿革》

昭和43年11月　財団法人十愛会設立
昭和44年３月　現在地に野崎病院開設〔精神科１病棟82床〕
昭和45年１月　野崎病院を十愛病院に名称変更
昭和45年５月　十愛病院増床〔精神科１病棟94床〕
平成14年８月　十愛病院新病棟および診療棟完成、２病棟に増設〔精神一般48床、精神療養46床、計94床〕
平成24年６月　公益財団法人十愛会に改称
令和３年10月　精神一般病棟65床
令和４年５月　麻酔科開設
令和４年６月　訪問看護開始
令和４年７月　精神科ショートケア「小規模なもの」算定開始
令和５年２月　精神科作業療法算定開始

《特色》

当院では、重度の知的障害に精神疾患やてんかん等の様々な併存症を持ち、障害者施設での支援が困難な方々を主な対象として、当事者や家族、支援者の期待に応えるべく、医療福祉相談から外来・入院治療まで一貫した医療的アプローチを行うことにより、地域生活を健やかに遅れるように日々活動しております。

《メッセージ》

この度は、神奈川県精神科病院協会の創立60周年を迎えられたことに心よりお慶び申し上げます。

皆様がご存知の通り、貴協会の発足当時は、精神医療の黎明期であり、1956年、国内で統合失調症の治療にクロルプロマジンによる薬物療法が導入され、その後の精神科リハビリテーションの発展や精神障碍者の社会復帰の取り組みへとつながって参りますが、精神科病院は、様々な批判を受けながらも、精神医療の中核施設として、今日に至るまで地域社会に貢献しております。

近年、新型感染症の流行により、これまで以上に身体科との連携の重要性が強調されましたが、貴協会が行政機関と連携したシステムの構築にリーダーシップを発揮され、ご尽力していただいたことにも、感謝を申し上げます。

今後、精神科病院を取り巻く状況は、厳しさを増していくものと考えられますが、貴協会と密接に情報交換しながら、引き続き、地域精神医療の一端を担って参ります。

末筆ながら、貴協会の一層のご発展を祈念しまして、お祝いの言葉をさせていただきます。

湘南病院

院長
大滝 紀宏

名　　称：社会福祉法人 湘南福祉協会 総合病院 湘南病院
所 在 地：神奈川県横須賀市鷹取1丁目1番1号
電　　話：046-865-4105
U R L：http://www.shonanhp.or.jp
創立年月：昭和21年4月
敷地面積：10, 035. 72㎡
総 床 数：287床
診療科目：13科（内科、神経内科、呼吸器科、循環器科、精神科、外科、皮膚科、泌尿器科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科）
会　　員：大滝 紀宏
理 事 長：松藤 静明
院　　長：大滝 紀宏
事 務 長：山下 洋一
看護部長：貝崎 さつき
薬剤部長：藤本 直弘

《沿革》

昭和21年３月	医療社会事業団体湘南国際病院設立（70床）
昭和30年４月	財団法人湘南福祉協会に改組「湘南病院」に改称
昭和34年３月	精神病棟（74床）設置
昭和39年９月	薬物中毒治療施設（69床）設置
昭和39年12月	社会福祉法人に組織変更
昭和46年５月	病棟増床（全310床）
昭和49年８月	総合病院承認
昭和58年４月	神奈川県立精薄児者更生施設「三浦しらとり園」の診療所 受託
平成17年４月	鷹取病棟 増築（病棟再編 全287床）
平成31年１月	西病棟（60床）を地域包括ケア病棟に変更

《特色》

総合病院として、精神病棟（一般精神科60床・療養精神科60床）と一般科（一般急性期57床・地域包括ケア病棟60床・療養50床）を持ち、精神疾患のみならず身体合併症のある患者さんの治療・リハビリ・退院支援を多職種が協働しておこなっています。

《メッセージ》

当院では、病気や障害で苦しむ患者さんが、病気や障害に負けずに、自分自身の夢を実現できるように支援することを目的に、多職種が対等かつ自由に議論し最後は医師が責任をもってチームを動かす“チーム湘南病院”で日々の治療にあたっております。

湘南敬愛病院

院長
菊地 秀明

名　　称：医療法人社団 いしずえ
湘南敬愛病院
所 在 地：〒252-0805
藤沢市円行1丁目
13番地の7
電　　話：0466-44-5955
F A X：0466-46-3196
U R L：https://shounankeiai-hp.jp/index.html
創立年月：昭和42年12月
敷地面積：3, 658. 73㎡
総 床 数：精神 109床
診療科目：精神科、心療内科
会　　員：菊地 秀明
理 事 長：筒井 雅人
院　　長：菊地 秀明
事 務 長：藤木 靖子

《沿革》

昭和42年12月に、神奈川県藤沢市湘南台駅を間近にする場所において個人病院として開設され、以来、地域に根差した精神科医療に取り組んでまいりました。平成26年には病院を新築し、平成29年には50周年を迎えました。令和2年には、法人理事長が交代となりました。

医療法人社団の名称である「いしずえ」の由来は、「物事の基礎となる大切なもの」を意味し、医療に携わる者としての基礎（原点）を見据えてと組むことを問う病院の基本方針としているため、命名しております。

《特色》

当院は、精神科一般病棟60床（保護室6床）、精神科療養病棟49床を有しています。精神科一般病棟では、統合失調症、双極性障害、うつ病などの急性期治療の入院、適応障害や神経症、不安障害の方の休息目的の入院、せん妄、認知症の方の周辺症状（BPSD）のコントロールのための短期入院、アルコール依存症の離脱症状を治療する目的の入院などを行っております。精神科療養病棟では、主に統合失調症の慢性期の方の療養目的の入院を行っております。

また、精神科デイケアも有しており、統合失調症やうつ病、神経症、長期ひきこもりの方などのリハビリテーションを行っております。

《メッセージ》

地域の精神科医療のニーズに応えるべく、入院や受診などのご要望がありましたら、極力早くお引き受けできるよう努力しております。お気軽にご連絡いただければ幸いです。

湘南さくら病院

院長
宗 敏鎬

名　　称：医療法人社団 康心会
　　湘南さくら病院
所 在 地：茅ケ崎市下寺尾1833
電　　話：0467-54-2255
U R L：http://www.fureai-g.or.jp/sakura/
E-mail：sakura@fureai-g.or.jp
創立年月：平成9年5月
敷地面積：1,908.7㎡
総 床 数：156床
診療科目：精神科、内科
会　　員：宗 敏鎬
理 事 長：大屋敷 芙志枝
院　　長：宗 敏鎬
事 務 長：内田 直輝
看護部長：福山 美智子

《沿革》

平成09年05月　開院
平成24年10月　4階病棟を認知症治療病棟へ病棟変換

《特色》

湘南さくら病院は茅ヶ崎市の北部に位置し、周囲に豊かな自然に育まれたのどかな田園風景が広がっています。当病院は、精神科・認知症の専門病院として、精神保健指定医の精神科専門医師をはじめ、臨床心理士、作業療法士、看護師、介護福祉士、精神保健福祉士などの専門スタッフがチームとして、治療、看護、介護、リハビリテーションにあたります。

《メッセージ》

湘南地区における認知症専門の精神科病院としての地位を確立し、約26年間にわたり発展を続けて参りました。「できないことを鍛えるのではなくできることを育てよう」「素敵なムードで、おおらかなお年寄りに」「シンプルな刺激で安らかな日々を」が我々の目指す患者様の在り方でございます。病院の玄関前には病院の名前の通り樹齢24歳になる桜の木が2本あり、今年も見事な花を咲かせております。桜の木が成長し大樹になるように、今後も引き続き当院は、立ち止まることなく、より一層の進化を求めていきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

湘南東部総合病院

名　　称：医療法人社団 康心会
　　湘南東部総合病院
所 在 地：茅ヶ崎市西久保500番地
電　　話：0467-83-9111
U R L：https://www.fureai-g.or.jp/toubu/
創立年月：平成12年4月1日
敷地面積：21,588.01㎡
総 床 数：327床（内）精神科　44床
会　　員：野口 佳那
理 事 長：大屋敷 芙志枝
院　　長：大川 伸一
事務部長：西田 耕治
看護部長：大瀧 美穂子
薬剤部長：大谷 享央

《沿革》

医療法人社団康心会 湘南東部総合病院は湘南東部医療圏の救急医療を含め地域医療の中核病院として平成12年4月1日に開設されました。

医療（診療）内容の充実に伴い、平成29年6月より認知症疾患医療センターの開設（神奈川県より事業運営の受託）、令和2年10月にはRI（Radio Isotope）装置を設置し、脳Dat-scan（ダットスキャン）検査で、アルツハイマー病、パーキンソン病、レビー小体型認知症等の診断が可能となり、患者様への最適な治療環境を整えました。

《特徴》

精神神経科における医療は、ご本人の治療のみならず患者様を抱えるご家族の悩みなども含まれていると考えております。広く心に悩みを持つ患者様に対応しつつ、ご家族も視野に入れた治療も実施しております。

また、総合病院内の精神科ということもあり、合併症患者様の対応の期待に応えると同時に、精神科救急を含む精神科一般及びうつ病、発達、適応等の障害から高齢者の精神医療まで関連病院・施設等と連携し、幅広く対応しております。

《メッセージ》

当院では、心の健康に広く対応するために思春期から中高齢期まで、うつ病疾患や身体合併症のある方、認知症疾患に関する相談にも対応させていただいております。

貴協会の60周年を祝するとともに、会員として神奈川県の精神科医療の向上に協力させていただきます。

相州病院

理事長
黒岩　隆

名　　称：医療法人社団
　　青木末次郎記念会
　　相州病院
所 在 地：厚木市上荻野 1682-3
電　　話：046-241-3351
U R L：http://www.soushu.jp/
創立年月：昭和 45 年 4 月
敷地面積：4, 969. 84 ㎡
総 床 数：263 床
診療科目：精神科、内科、放射線科
会　　員：黒岩 隆
理 事 長：黒岩 隆
名誉院長：若田部 博文
院　　長：小坂 淳
事務局長：小池 ひかる
事務部長：川口 英樹
看護部長：福岡 透
薬剤課長：川口 智也

《沿革》

当院は、昭和 45 年 4 月に誕生し、今年で 53 歳になります。人間ならバリバリの壮年期にあたります。当院は、治療構造やアメニティの向上のため、幾多の増設や改修を重ねて、現在に至っています。また、地域医療、福祉については、メンタルクリニック 6 施設（相州メンタルクリニック、あつぎ心療クリニック、相州ビナシティメンタルクリニック、相州メンタルクリニック茅ヶ崎、相州メンタルクリニック相模大野、あいかわ心療クリニック）と、ヴァルトハイム厚木（共同生活援助、短期入所、就労継続支援）、サポートセンターびーな’S：海老名市（相談支援事業所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所）を設置し、アウトリーチの推進に努め、職員一丸となって発展してきました。

《特色》

地域のニーズに対応し、神奈川県県央地域の精神医療、特に、急性期救急精神医療、認知症の治療、療養、児童思春期領域の治療に重点を置き、修正型電気けいれん療法にも習熟し、関連のクリニックや施設と連携を図り、地域精神医療の中核病院を目指しています。そのために各施設間で電子カルテによるネットワークを構築し、患者さまに日時を問わずサービスを提供できるように情報の共有化を推進しています。

《メッセージ》

医療法人社団青木末次郎記念会の理念

1，公平無私
2，隣人愛
3，進取の気風

当法人は、故青木末次郎が、昭和 45 年 4 月、当時 82 床の精神病院の新たな経営者となった日から始まりました。太平洋戦争の末期、中国での過酷な戦争体験と帰国した敗戦祖国での貧窮に対し、弱者と共に戦った中で生まれた3つの理念は、その後の当法人発展の基盤となり、今日の原動力となっています。私達は、この理念のもとで、医療に対して真摯であり、誠実であり、常に熱い志で満ちています。

曽我病院

院長
長谷川　剛

名　　称：公益財団法人
　　積善会
　　曽我病院
所 在 地：小田原市曽我岸148
電　　話：0465-42-1630
U R L：https://www.soga-hp.com/
創立年月：昭和7年4月
敷地面積：41, 181. 75㎡
総 床 数：327床
診療科目：精神科、歯科
会　　員：長谷川 剛
理 事 長：長谷川 隆三
院　　長：長谷川 剛
事 務 長：加藤 裕
看護部長：早瀬 和彦
薬剤部長：草柳 光男

《沿革》

昭和7年4月　初代理事長長谷川経介が、現在地に開設（病床数30床）
昭和25年1月　精神衛生法施行に伴い県指定病院となる
昭和30年10月　財団法人積善会曽我病院と改組
平成1年4月　積善会看護専門学校開校（全日制3年課程、1学年定員35名）
平成12年3月　介護老人保健施設リバーイースト、積善会訪問看護ステーション開設
平成24年4月　あしがらクリニック開設（松田町）
平成24年10月　公益法人制度改革に基づき「公益財団法人積善会」へ移行
平成26年7月　認知症疾患医療センター事業開始（県指定事業）
平成28年12月　精神障害者グループホーム　プラムハウス開設
令和2年12月　ミナカこころクリニック開設（小田原駅前）
令和5年2月　介護医療院こもれび開設

《特色》

当院は小田原市の北東、曽我丘陵の麓に位置し、温かな人と風土に包まれた治療環境で「質の良い、心温かい、信頼される福祉医療の提供」に努めています。

病棟は精神科救急病棟、地域移行機能強化病棟、認知症治療病棟、精神療養病棟と機能分化した構成となっております。また精神障害者グループホーム、訪問看護ステーション、デイケアといった退院後も精神障害者が安心して生活できる地域生活支援事業にも取り組んでいます。

高齢者対応としましては、同一敷地内に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設を設置し、本年2月に介護医療院を開設しました。

その他、知的障害児者更生施設、看護専門学校といった施設、学校も運営しております。

医療・保健・福祉の統合そして人材育成に力をいれています。

《メッセージ》

当院も昨年4月創立90周年を迎えました。本年2月に小田原市では初の介護医療院を開設しました。今後も公益財団法人設立理念に基づき、地域の多様なニーズに応じられるように「新しい医療・福祉サービスの創造」にチャレンジしてまいります。

武田病院

理事長・院長
武田 龍太郎

名　　称：医療法人社団慶神会 武田病院
所 在 地：川崎市多摩区登戸3193
電　　話：044-911-4050
U R L：http://www.takeda-hp.jp
創立年月：昭和38年5月
敷地面積：2,930.84㎡
総 床 数：140床
診療科目：精神科、心療内科、内科
会　　員：武田 龍太郎
理 事 長：武田 龍太郎
院　　長：武田 龍太郎
事 務 長：髙田 照代
看護部長：小堀内 浩子
薬剤部長：山田 清樹

《沿革》

昭和35年12月	武田診療所（19床）開設
昭和38年5月	病床を60床に増床し武田病院へ組織変更
昭和56年	医療法人社団慶神会　武田病院となる
平成5年	本館改築し、ストレスケア病棟、精神科デイケア（大規模）開始。
平成13年	本館増築し、デイケア・病棟拡充。
平成17年7月	新館竣工し、病棟別に機能分化（精神療養病棟×2、急性期病棟）し、計140床となる。
平成19年10月	精神科急性期治療病棟（開放28床、閉鎖32床）承認
平成19年	気分障害復職支援デイケア「リワークらくだ」開始
平成20年	精神科指定病院となり、神奈川県精神科救急輪番病院となる
平成24年4月	創設者　武田専　理事長退任、武田龍太郎　理事長就任
平成25年8月	認知療法／認知行動療法算定開始
平成25年	精神科訪問看護開始
平成29年	精神科急性期治療病棟Ⅰ　急性期医師配置加算　届け出

《特色》

昭和35年重症神経症、気分障害圏、人格障害圏など治療抵抗性の方を主な対象に、精神分析理論をとりいれた入院治療を実践する目的で開設された。以後、治療共同体的な病棟運営、集団・個人精神療法、作業療法、家族心理教育など心理社会療法を積極的に実践し、多職種の連携を強化し、「一人一人を大切に、人と人とのつながりを大切に」を基本理念とし、地域の方々の心身の健康回復・増進に寄与し、明日の希望がもてるような地域・社会づくりに貢献することを目指している。

平成5年からは勤労者のメンタル不調や青年期疾患に対応したストレスケア病棟を開設し、現在精神科救急及びストレスケア対応の急性期治療病棟（閉鎖32床、開放28床）と機能回復を重視した精神療養病棟（42床、38床）で病床を構成している。入院ではマインドフルネスや認知行動療法、集団精神療法、作業療法、疾患教育をとりいれ個人と集団両場面での心理社会療法に力を入れ、多職種医療チームを展開している。現在急性期入院期間は約45日と短縮化し、長期在院者の地域移行も進めている。また外来治療においても、デイケア、訪問看護を含めて生活支援をするなど地域に根ざしたケアを重点化し、地域関係機関との連携を重視している。

また、外来での特色としては、産業医資格をもつ常勤医が現在6名在籍し、勤労者の診療にも力を入れ、認知行動療法、マインドフルネス、集団精神療法を中心としたリワーク（気分障害復職支援）デイケアを実践し、休職者の復職支援にも力を入れている。

外来部門では、従来からの精神科デイケア、ナイトケアに加えて、うつ復職支援デイケアなど産業精神保健領域の治療対応にも力を入れ、保健所や地域の精神保健福祉関連機関との連携も積極的に行い、地域住民に対する啓発活動なども推進している。

以上、急性期入院治療および、地域移行やリハビリテーションを治療主体とした小規模都市型の地域に根ざした病院として運営している。

《メッセージ》

今後も地域に密着した小規模都市型の精神科病院として、精神科急性期、リハビリテーション、地域ケア、復職支援などを実践し、地域の皆様と共に地域全体のメンタルヘルスの向上に貢献していきたいと思います。

丹沢病院

理事長・院長
関口　剛

名　　称：医療法人　丹沢病院
所 在 地：神奈川県秦野市堀山下 557
電　　話：0463-88-2455
U R L：https://www.tanzawahp.or.jp/
創立年月：昭和 35 年 3 月
敷地面積：15, 419 ㎡
総 床 数：312 床
診療科目：精神科、心療内科、内科
会　　員：関口 剛
理事長・院　　長：関口 剛
副院長・診療部長：土井 麻依
副院長・看護部長：今野 延枝
事 務 長：植木 信也
薬剤部長：市川 伸一

《沿革》

1960年 3 月	個人病院として開設（精神科単科病院）
同　年10月	「医療法人丹沢病院」に法人化
同　年11月	保健医療機関指定
1961年 9 月	県指定病院指定
1990年 9 月	大規模デイケア開設
1999年 4 月	精神科作業療法承認
2000年 6 月	薬剤管理指導業務承認
2008年12月	施設内・敷地内全面禁煙化実施
2012年 8 月	神奈川県子ども子育て推進事業者認証
2014年 4 月	特定医療法人の認可取得
2016年11月	居宅介護支援事業所「陽だまり」開設
2022年 7 月	関口剛理事長就任

《特色》

患者様の多様化する精神科治療ニーズに応えるべく、精神医学の技術とチーム医療の充実を図りながら、当院の理念『寛 是 宝（かん これ たから）』を胸に職員全員が優しさと寛いこころで患者様に向き合ってゆく姿勢を実践しています。

《メッセージ》

常勤医を中心に若い先生が多く活気があり、臨床試験、認知症領域、産業医領域といった当院にとって新しい分野への取り組みを積極的に行なっています。また、内科の常勤医が２名在籍しており、精神科の医師が身体合併症の診療に時間を割くこともなく、精神疾患の診療に注力できることが特筆すべき当院の特徴のひとつです。他にも非常勤の放射線科専門医、循環器専門医が画像や心電図を診ることで、より正確な診断ができるよう万全を期しています。

一方、多職種連携についても、いわゆる職種間のヒエラルキーはなく、自然な連携が取れていると考えています。病病連携、病診連携も周囲の医療機関のご理解もあり、内科医の充実と相まって身体合併症対応に迷いや不安を感じることは少ないです。

今後も引き続き若いパワーを育みながら、病院理念に則った診療体制、曳いては病院づくりを進めていきます。

鶴見西井病院

理事長
西井 華子

名　　称：医療法人社団養心会 鶴見西井病院
所 在 地：横浜市鶴見区北寺尾3-3-1
電　　話：045-581-3055
U R L：http://www.t-nishii-hp.or.jp/
創立年月：昭和9年10月（医療法人社団設立昭和45年6月23日）
敷地面積：9,841㎡
総 床 数：139床
診療科目：精神科、神経科、児童思春期精神科、内科
会　　員：西井 華子
理 事 長：西井 華子
院　　長：西井 ヘルベルト
事務部長：近藤 実
看護師長：高椋 典子
薬剤部長：平賀 俊幸

《沿革》

昭和9年10月、鶴見区の三ツ池の丘陵に鶴見西井能病院として開院いたしました。翌年4月の葉書には電話が開通（鶴見3055現在の代表も同じ番号）したお知らせと、「付近の叢で、蕨・ぜんまい土筆がつまれます。餅草は至る所茂って居ります。春陽うららかな日は空高くひばりの囀りを聴きます……」との情景（春風景）が記されています。最初は50床からのスタートでした。その後、太平洋戦争での戦火や戦後の混乱期を乗り越え、昭和43年には軽量発泡コンクリートの外来・入院棟を、53年には木造の病棟を鉄筋コンクリート3建ての病棟に作り変えました。その間、昭和44年、医療法人社団養心会鶴見西井病院として法人化をいたしました。

時代と共に精神科の担う範囲が変化し、拡大される中、平成3年6月に我が国の民間病院としては第一号となる病院付属型大規模デイケア・センター（40名定員）を開設しました。

平成22年5月に、耐震を含め、充実した精神科医療体制の整備を図るために全面改装し、鉄筋地下1階、地上2階建、延べ床面積4,389㎡の広さを有する病院として生まれ変わりました。

《特色》

採光の良い南を向いた病院と最新の基準による広い廊下とデイルーム、最新設備を備えた環境で、常に質の高い医療の提供に努めています。

新たに児童思春期外来をはじめ小児精神科として学童や青年層の治療に取り組んでいます。

附属するデイケアセンターと共に精神医療から作業療法、日常生活の取戻しと外来治療を合わせ、社会復帰までの一貫した流れで精神科治療をおこなっています。

また栄養科は独自の人材を育て、季節と変化のあるメニューを提供し治療の一助としています。

《メッセージ》

開設以来緑豊かな環境の中で患者様の目線に立ち、気持ちに寄添いながら治療を行ってまいりました。精神科治療の在り方は時代とともに変化しますが、看護者の協力のもと患者さまが自立した生活を過ごせるよう心がけていくことが常に重要なことと考えています。合わせて地域の方々にも精神障害への理解を深めていただけるよう啓蒙活動を継続していきます。今後も幅広く地域医療に貢献できるよう一層の努力を重ねてまいります。

東横恵愛病院

院長
小山 雄史

名　　称：一般財団法人
聖マリアンナ会
東横恵愛病院
所 在 地：神奈川県川崎市宮前区有馬4-17-23
電　　話：044-852-2373
U R L：http://www.st-marianna.com
創立年月：昭和27年10月13日
敷地面積：8,910㎡
総 床 数：297床
診療科目：精神科、児童・思春期精神科
会　　員：小山 雄史
理 事 長：赤尾 保志
院　　長：小山 雄史
事 務 長：松崎 有造
看護部長：釜 英介

《沿革》

昭和16年10月	川崎市中原区に東横医院開設（開設者 明石嘉門）
昭和22年6月	宗教法人聖マリアンナ会創設
昭和22年10月	宗教法人聖マリアンナ会 東横病院開設（院長 明石嘉門 許可41床） 聖マリアンナ会医学研究所設立
昭和27年10月	宗教法人から財団法人聖マリアンナ会に変更
昭和28年9月	財団法人聖マリアンナ会東横第二病院開設（精神 許可68床）
昭和32年3月	財団法人聖マリアンナ会東横第三病院開設（精神 許可121床）
昭和46年11月	財団法人聖マリアンナ会東横第三病院移転（精神 許可93床） 中原区新丸子東より現在地（宮前区有馬）へ移転
昭和64年3月	181床へ増床
平成10年3月	新館（A館）完成
平成10年7月	旧館をB棟へ名称変更
平成11年3月	C館完成
平成11年4月	財団法人聖マリアンナ会東横恵愛病院に名称変更
平成12年8月	305床へ増床
平成19年8月	精神科デイケア開設
平成19年10月	297床へ減床
平成20年4月	精神科訪問看護開始
平成22年4月	精神科訪問診療開始
平成25年10月	児童・思春期精神科治療病棟開設（23床）
平成27年7月	児童・児童・思春期精神科治療病棟を38床へ増床
令和5年4月	医療相談室を拡大し医療相談センターの設置

《特色》

当院は精神一般病棟、精神療養病棟、児童・思春期病棟を有しており、幅広い年齢層と幅広い症例の患者さまの治療をおこなっております。また、精神科デイケア、精神科訪問看護、精神科訪問診療など在宅医療にも力を入れています。

同じ病名であっても、症状が違えば、治療方法や患者さまへのアプローチを変える必要があります。これは一般外来や専門外来にも共通することですが、特に児童・思春期の患者さまや老年期認知症の患者さまの場合、ご家族さまと十分コミュニケーションを取って、個別に最善の治療方法を考えております。当院の基本にあるのは、お困りになられている患者様を、積極的に受け入れていく姿勢です。どんなに難しい症状の患者さまであっても、必ず診察と治療を行い、いつでも安心して治療を受けられる病院になることを目指しています。

また、鑑定入院を受け入れたり、指定通院医療機関として対応したり、全国でも数少ない専門性の高い医療機関として経験と実績を積み重ねています。

《メッセージ》

私たちは、患者さまが最終的に社会復帰することを願っています。仕事に就いたり日々の家事を行ったり、安定した生活を送っていただきたいのです。そのために、医師・看護師・薬剤師・精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士などが参加する心理教育プログラムにも力を入れています。今後も、デイケアとの連携を深めたり、働く人を対象としたプログラムを充実させたり、患者さまとご家族さまの心を支えるよう努力していきます。まずは病院の扉を開けていただくこと。それが治療の第一歩だと考えています。

常盤台病院

院長
大淵 敬太

名　　称：医療法人社団静心会　常盤台病院
所 在 地：横浜市保土ヶ谷区常盤台70番26号
電　　話：045-341-7700
U R L：https://www.tokiwadai.or.jp/
創立年月：昭和52年7月
敷地面積：7, 379. 16㎡
総 床 数：180床
診療科目：精神科
会　　員：大淵　敬太
理 事 長：鮎川　勝彦
院　　長：大淵　敬太
事 務 長：嶋村　寿
看護部長：田中　君枝
薬剤部長：嶋村　寿

《沿革》

1953年（昭和28年）、初代院長の塩崎淑男が横浜市港北区に前身の武相台診療所を開設し、1959年（昭和34年）に現在の地に常盤台病院として開院される。1977年（昭和52年）7月に医療法人化され、2013年（平成25年）8月に現院長が就任される。2017年（平成29年）には建て替えが行われ、再開発が著しい羽沢横浜国大駅周辺に立地する地域密着型の精神医療機関である。

《特色》

精神科単科病院ではあるが、近隣の他科医療機関とも連携をとり、医療の充実を期している。また、精神科急性期治療病棟を有しており、治療抵抗性統合失調症治療に対応する等、時代に求められる精神医療を展開している。外来・デイケアにも力を入れており、2020年（令和2年）には「ときわだい訪問看護ステーション」を開設し、精神科訪問看護を充実させ、入院から地域医療までシームレスな医療を提供している。さらに、当院最寄り駅である羽沢横浜国大駅は2023年3月に「相鉄・東急新横浜線」が開通し、アクセス環境が良好であることも特色のひとつである。

《メッセージ》

当院は、新横浜駅隣の羽沢横浜国大駅から徒歩7分、横浜駅からは車で20分程度のなだらかな丘の上に位置し、遠景には富士山やみなとみらい地区のビル群を望むことができる閑静な場所に位置しております。精神科らしからぬモダンな造りの外観に、明るく清潔感のある院内環境、さらに広大な芝生の院庭も有しており、こころ安らぐ場を提供することができます。患者様の社会生活全体を支援し、お一人おひとりの状況に合わせた最善の医療を、まごころを込めて提供いたします。

ハートフル川崎病院

院長
大坪 明子

名　　称：医療法人社団
　　ハートフル川崎病院
所 在 地：川崎市高津区下野毛2-1-3
電　　話：044-833-7151
U R L：https://www.hkh.or.jp
創立年月：平成8年1月
敷地面積：5, 126. 31㎡
病 床 数：320床
診療科目：精神科、心療内科、内科
会　　員：大坪 明子
理 事 長：横川 秀男
院　　長：大坪 明子
事 務 長：須田 忠一
看護部長：藤城 久嗣

《沿革》

平成8年1月　医療法人社団 多摩川病院となる
平成14年10月　横川秀男理事長 就任
平成17年12月　医療法人社団ハートフル川崎病院に改称
　　西棟工事完成
平成19年8月　精神科急性期治療病棟入院料1 承認
平成22年12月　東棟竣工
平成23年1月　臨床研修指定病院（協力型）承認
令和3年4月　大坪明子院長 就任
令和4年4月　精神科救急急性期医療入院料 承認

《特徴》

当院では、精神科救急急性期医療から精神科慢性期医療、そして老年期精神科医療を担うべく、4つの基準・目的を備えた病棟配置を致しております。

「精神科救急急性期医療病棟」～精神科急性期への取り組み～

「精神科療養病棟」～現代社会病への取り組み・長期入院解消への取り組み～

「特殊疾患病棟」～長期療養が必要な患者様への取り組み～

「認知症治療病棟」　～高齢化社会への取り組み～

《メッセージ》

当院は、「こころとからだの全人的医療を通して愛し愛される病院をめざします」という理念に基づき、患者様、ご家族様、地域の皆様から愛され、信頼をいただけますよう、専門性の高いスタッフによるチーム医療を、日々心を込めて行っております。また、取組の一つとして精神疾患を抱えた方への看護やケアについて、日ごろの悩みや思いを地域の皆様と共有できる場として「ハートフルサロン」（オンライン形式Zoom）を提供しております。当院の看護師・訪問看護師・医療相談室等の職員とざっくばらんに話をすることで、より親しみのある連携ができればと考えております。今後とも全職員が、患者様、ご家族様一人一人に寄り添い、心温まる環境で安心し療養していただける病院をめざしております。

秦野病院

院長
笠原 友幸

名　　称：医療法人社団 秦和会
　　秦野病院
所 在 地：秦野市三屋 131 番地
電　　話：0463-75-0032
U R L：www.hatanohp.or.jp
創立年月：昭和 41 年 2 月
敷地面積：6, 920 ㎡
総 床 数：151 床
診療科目：精神科、内科
会　　員：笠原 友幸
理 事 長：髙橋 明比古
院　　長：笠原 友幸
事 務 長：瀬戸 雅彦
看護部長：長田 祐子
薬剤課長：美濃川 幸子

《沿革》

昭和41年 2 月　前理事長髙橋幸枝が、現地に「秦野病院」を開設（病床 68 床）
昭和45年11月　医療法人社団秦和会を設立。「医療法人社団秦和会秦野病院」へ。
平成 6 年 5 月　精神科デイケアを開始。
平成10年 7 月　精神科訪問看護を開始。
平成11年 1 月　大和市中央林間に「はたの林間クリニック」を開設。
平成12年11月　新病棟建設（病床数 151 床）
平成17年 4 月　大和市中央林間に「子どもメンタルクリニック」を開設。
平成17年 9 月　秦野市内に「はたの渋沢クリニック」を開設。
平成27年 1 月　「就労移行支援事業所りんく」「通所介護デイサービスくつろぎ」を開設。
令和 3 年11月　「生活介護事業所はみんぐ」開設。
令和 5 年 4 月　一部病棟を精神科急性期治療病棟 1（31 床）へ変更。

《特色》

当院は、病院での「治療」場面でだけでなく、患者様の生活面や社会復帰をサポートするために、様々なサービスを提供しています。

精神科デイケア、訪問看護にはじまり、就労移行支援事業、リワークプログラム（復職支援）、生活介護事業など、幅広いニーズに応えられるように、サービスを展開してきました。同時に高齢者のサポートをするための通所介護デイサービスの運営も行い、「物忘れ外来（認知症外来）」を実施しています。

また、医療法人社団秦和会と社会福祉法人成和会の 2 法人を中心に「はたのグループ」として、医療、福祉、介護一体となって患者様のサポートを行っております。

社会福祉法人成和会では障害のある方に「働く場」を提供する就労継続支援 B 型事業所や、障害者グループホームも複数運営しております。

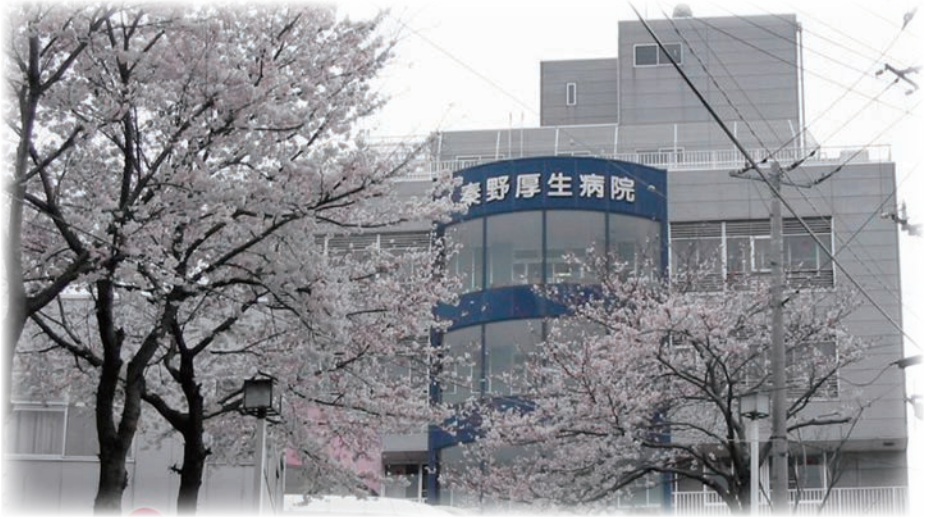
「はたのグループ」では、今後も患者様、地域の関係機関のニーズに応えられるようにスタッフ一同取り組んでいきます。

《メッセージ》

当院は、今年で創設 58 年目を迎えました。長い間、秦野病院を中心とした「はたのグループ」が存続できたのも、地域の皆様、関係機関の皆様のおかげだと感じています。これからも、皆様の期待に応えていけるように精進してまいります。

秦野厚生病院

理事長・院長
坂井 喜郎



名　　称：医療法人社団 厚仁会
　　秦野厚生病院
所 在 地：秦野市南矢名2-12-1
電　　話：0463-77-1108
U R L：https://hatanokousei.jp
創立年月：昭和41年2月
敷地面積：5, 647㎡
総 床 数：160床
診療科目：精神科、心療内科
会　　員：坂井 喜郎
理 事 長：坂井 喜郎
院　　長：坂井 喜郎
事 務 長：山口 敬一
看護部長：西 典子
薬剤部長：大庭 秀樹

《沿革》

昭和22年に現在の場所で安藤医院として開院、その後、村立診療所を経て昭和41年に法人化『医療法人厚仁会』となる。増改築を繰り返すなかで病床数の増減があり、その後長期入院患者の退院促進と急性期治療にシフトしていく過程の中、平成21年4月に160床となり現在に至る。令和4年2月より訪問看護ステーションを開設する。

《特色》

小田急線東海大学前駅から徒歩5分というアクセスの良さに加え、東海大学湘南校舎への通学路に位置しているため、病院周辺に学生が多く、非常に活気溢れる環境にある。

「皆が安心して地域で暮らせるような精神科医療サービスを提供する」ことを理念に掲げ、病院は「患者様が健康的な生活を維持するための一つの手段」と位置づけ、外来通院や訪問看護・デイケア・或いは一時的な入院治療も地域生活の一環であり、軸足は常に病院外に置くことで病院を中心にさせない「急性期治療」と「地域生活支援」を2本柱としている。

《メッセージ》

患者様と主治医の関係は、アスリートとトレーナーの関係に似ていると思います。アスリートとトレーナーは、まず目標を共有し、固い信頼関係で結ばれていなくてはうまくいきません。その目標を、いつまでに、どういうプロセスを経て達成するかはアスリートの持っている能力と、いかに有効・適切なトレーニングを実施していくかによって左右されます。

トレーナーの役割は、選手の長所や欠点、その時々の体調や意欲、さらには潜在的能力までも冷静に見極め、『目標を達成するためには、今、何が一番重要なのか?』を判断し、提案し、合意してトレーニングを進めていくことです。くじけそうになるアスリートを、厳しく叱咤することもあるでしょう。

私たちは、信頼と相互の責任を認めあった医療《パートナーシップ医療》を治療の前提におき、スタッフ全員がパワフルなチャレンジ精神を持って、持続的に進歩し続けられる病院を目指していきます。

日向台病院

院長
長谷川 吉生

名　　称：公益財団法人 積善会
　　日向台病院
所 在 地：横浜市旭区市沢町 1081
電　　話：045-373-4114
U R L：http://www.hinatadai.com
創立年月：昭和 35 年 6 月
敷地面積：21, 780 ㎡
総 床 数：299 床
診療科目：精神科、内科
会　　員：長谷川 吉生
理 事 長：長谷川 隆三
院　　長：長谷川 吉生
事 務 長：三重野 美恵子
看護部長：斉藤 悦子
薬 局 長：梁川 剛生

《沿革》

1960 年に 93 床で開設され、1962 年に財団法人積善会の開設する病院となり、曽我病院・積善会看護専門学校と連携し運営してきました。1968 年には、314 床に増床しましたが、1981 年に 299 床に減少させ、療養環境の改善に努めました。1987 年から 6 回の増改築を実施し、さらなる療養環境の充実に努めました。現在、精神科救急急性期病棟・精神療養病棟 3 病棟・精神一般病棟の 5 病棟で運営しております。精神科作業療法、精神科デイ・ケア、精神科ナイト・ケア実施施設として承認されています。

グループホームを 5 施設（定員 24 名）併設しており、2023 年 8 月には精神科に特化した訪問看護ステーションを院内に開設いたしました。

《特色》

当院は市沢町字日向（ひなた）にあり、地名のとおり南向き斜面の日当たりの良いところにあります。病室は広い芝生の庭を囲み配置されています。この中庭は、病棟のデイルームの延長として利用され、憩いの場となっています。自然に恵まれた広い敷地を利用し、作業療法・レクリエーション療法等を活発に行い、患者様の社会復帰を目指しています。

会社勤めをされている患者様が受診しやすいように、土曜日も外来診療を行っています。

また、看護学校等の実習病院として、医療従事者の人材育成にも努めています。

《メッセージ》

これからの精神医療はこれまでの入院中心医療から、通院治療に重きを置く方針に変更がなされ、地域で生活する患者様に対して、多職種のチームが支援を行うことにより地域の生活が維持できるような体制をめざしています。

当院は神奈川県精神科救急医療体制に協力し、地域のニーズに応えた安全・安心な適切な医療を提供し、デイケア・グループホーム・訪問看護等の充実にも力を注ぎ、退院後の生活も支えられるよう努めております。

周辺環境と調和しつつ、地域に開かれ、親しまれる病院であることをめざします。

平塚病院

院長
大野 史郎

名　　称：医療法人 研水会
　　平塚病院
所 在 地：神奈川県平塚市出縄476番地
電　　話：0463-32-0380
U R L：http://www.kensuikai.or.jp/
創立年月：昭和36年10月
総 床 数：298床
診療科目：精神科、心療内科
会　　員：大野 史郎
理 事 長：田邉 享史
院　　長：大野 史郎
事 務 長：鈴木 博之
看護部長：木佐木 みな子
薬剤部長：野部 祥子

《沿革》

当院は、昭和36年10月に創立された298床の単科精神科病院です。明るく開かれた精神科病院を目指し、患者さんの人格を尊重した心身両面からの全人的ケアによって温もりのある精神医療を実践してまいりました。

平成14年5月　グループホーム「メゾン公所」開設
平成16年4月　「サテライトクリニック明石」開設
平成17年6月　生活訓練施設「援護寮ポラリス」開設」
平成19年2月　「サテライトクリニック伊勢原」開設
平成22年　「ポラリス・ワークサポート（就労継続支援B型）」開設
平成23年1月　精神科急性期治療病棟40床移行
平成27年8月　認知症治療病棟56床移行

《特色》

当院を中心として関連施設である介護療養型医療施設「高根台病院236床」、介護老人福祉施設「高根台ホーム120名」、介護老人保健施設「あさひの郷入所100名・通所30名」とともに、地域の医療、保健、福祉を担う活動を幅広く展開し、地域での役割を果たしています。

《メッセージ》

複雑な人間関係やストレスによって心を病む方も高齢化により認知症を患う方も増えている中で精神科病院に課せられた使命はますます高まっています。

これからも湘南の穏やかで爽やかな環境のもと、精神科病院に求められる使命を全うし、地域から信頼される精神科医療機関として貢献してまいります。

福井記念病院

理事長・院長
高屋 淳彦

名　　称：医療法人財団青山会 福井記念病院
所 在 地：神奈川県三浦市初声町高円坊1040番2
電　　話：046-888-2145
U R L：http://www.bmk.or.jp/fukui/
創立年月：昭和38年7月
敷地面積：12, 548. 7㎡
総 床 数：357床
診療科目：精神科、神経科、心療内科、脳神経外科、歯科
会　　員：高屋 淳彦
理 事 長：高屋 淳彦
院　　長：高屋 淳彦
事 務 長：清水 都麿
看護部長：遠藤 学

《沿革》

当院は、故福井東一先生が昭和34年葉山町に開設した9床の有床診療所「葉山診療所」を起源とし、昭和38年「初声荘病院」（82床）として開設されました。その後、昭和52年に「医療法人財団青山会」が設立され、平成元年4月「福井記念病院」に名称変更しました。平成4年に県下初の認知症治療病棟を開始。平成7年には併設の介護老人保健施設を開設しました。平成17年には506床に増床を行いましたが、現在はダウンサイジングを進め、357床で運営をしております。平成29年にはサテライトクリニック「青山会津久井浜クリニック」を開設。平成30年からは精神科救急入院料病棟（48床）を運営しています。障がい者の地域生活支援にも力を入れ、三浦横須賀地域においてグループホーム1か所と訪問看護ステーション2か所、相談支援事業所2か所、居宅介護支援事業所1か所、地域活動支援センター1か所を運営しています。平成23年には社会福祉法人クオレの理事長に高屋淳彦が就任し、横須賀市内で3つのグループホームの運営と就労継続支援を行っています。

《特色》

創設者の故福井東一先生は、我が国における開放的精神医療の先駆者であり、今年は福井先生が生誕して100年という節目の年になります。福井先生の崇高な理念は、現在の福井記念病院にも引き継がれ、修正電気けいれん療法（m-ECT）や反復経頭蓋磁気刺激療法（r-TMS）、持効性注射剤（LAI）、クロザピン治療、訪問診療、訪問看護、認知機能リハビリテーション、ミールラウンド等、各専門職の専門性を活かしたチームワークで治療を行っています。医療観察法の通院医療や鑑定入院といった分野における役割も担って参ります。

《メッセージ》

当院では、新専門医制度の基幹病院として、みくるべ病院等と連携し、精神科専門医、精神科指定医を目指す若い医師の育成にも取り組んでいます。また、かながわ地域精神科医会の事務局として、県内で活動する精神科医師を対象とした講演会等を行い、若手医師の研究・リサーチマインドの涵養を図っています。当院スタッフ一同、皆様との連携を図りながら、地域の精神科医療の向上に寄与して参りたいと存じます。

藤沢病院

名　　称：特定医療法人社団清心会 藤沢病院
所 在 地：藤沢市小塚383番地
電　　話：0466-23-2343
U R L：http://www.fhp.or.jp
創立月日：昭和6年7月1日
敷地面積：15,000㎡
総 床 数：420床
診療項目：精神科、神経科
会　　員：石井 紀夫
理事長・院長：石井 紀夫
常務理事：石井 千恵
法人本部長：中峯 博志
事 務 長：高橋 明彦
看護部長：石山 映子

《沿革》

昭和6年に鎌倉脳病院として開設、昭和12年には病床数153床、昭和34年には367床、また昭和25年には基準看護3類・基準給食実施、昭和35年基準寝具を取得、昭和37年に藤沢病院と改名、昭和42年管理棟完成、昭和43年運営母体として医療法人社団清心会を設立、昭和55年精神科デイケアを開始した。同時に511床に増床、昭和62年基準看護2類を取得、その後は平成2年認知症治療病棟の増設に始まり時代のニーズに応じて病床数と機能を変更し現在に至っている。

病棟機能は、精神科急性期治療病棟1、精神療養病棟（6病棟）、認知症治療病棟1である。外来は、大規模デイケア（ショートケア・デイケア）もの忘れ外来の他、うつ病者等への復職支援（リワーク）を実施している。関連施設として、老人保健施設「清流苑」100床（平成7年開設：通所リハビリテーション、短期入所、訪問リハビリテーション）、精神障害者生活ホーム「たんぽぽ1, 2」、特定指定相談支援事業所「なでしこ」、自立訓練施設「みずき」（宿泊及び短期入所、通所）サービス付き高齢者向け住宅「スミレの花」、訪問看護ステーション「レンゲの花」も立ち上げ、入院病床数は420床へ削減した。また藤沢市から村岡包括支援センターを受託し、令和5年4月には神奈川県から認知症疾患医療センター（連携型）を受託した。さらにはそれらのネットワーク構築のために、法人独自に地域医療・介護・福祉のコミュニティー会議として「地域協働会議」を立ち上げ、行政および地域支援者、医療・介護・福祉関係者など多職種連嶺を進めている。また、法人関連会社「ウィズダム」による住宅提供サービスや就労支援サービス、健康づくりをテーマとしたNPO法人「健康医科学協会」による健康づくり運動指導者の養成なども手がけ、地域包括ケアシステムへの貢献を念頭に、精神障害者から高齢者まで地域において切れ目のない支援体制の構築に努めている。

《メッセージ》

当院は、地域における精神科医療の中核病院として、患者さんの人権擁護に十分な配慮を行いつつ、適正な医療および保護と社会復帰の促進、さらには、こころの健康づくりに取り組み、これからも地域に開かれた精神科医療に貢献してまいります。

法人の理念である“やさしさと思いやりに包まれて”をモットーにし、職員が一丸となって患者さん・家族・そして支援者目線で、期待される精神科医療の提供ができるように、日々研鑽を積んでいます。これからの精神科病院は、地域包括ケアシステムを念頭に、地域医療・福祉においても中心的な役割を期待されています。その期待に応えられるように前進して参る所存です。

ふじの温泉病院

副院長
諫山 博之

名　　称：医療法人社団清伸会 ふじの温泉病院
所 在 地：神奈川県相模原市緑区牧野8147-2
電　　話：042-689-2321
F A X：042-689-2325
U R L：http://www.fujino-hp.or.jp/
総 床 数：472床
創立年月：昭和54年9月
敷地面積：39,739㎡
敷地構造：鉄筋コンクリート造、地上7階
診療科目：内科、精神科、神経科
会　　員：諫山 博之
理 事 長：加藤 隆司
院　　長：岩渕 純男
副 院 長：清川 浩路
副 院 長：諫山 博之
事 務 長：野崎 栄作
看護部長：不動田 あけみ
薬 局 長：相田 周

《沿革》

昭和54年9月　相模湖小津久病院（一般病棟96床）
昭和56年6月　一般病床180床に変更　精神科病床30床新設（計210床）
昭和58年4月　真愛病院に名称変更
昭和63年12月　医療法人社団清伸会の設立
昭和64年1月　医療法人社団清伸会真愛病院に名称変更
平成4年10月　医療法人社団清伸会ふじの温泉病院に名称変更
平成4年12月　増改築　老人病棟208床　精神病棟72床（280床）
平成5年4月　老人保健施設なごみの里開設（入所80床〈うち認知症専門棟40人〉・通所10人）
平成10年4月　増改築 療養病床216床 精神病棟180床（計396床）
平成15年11月　増改築 療養病床216床 精神病棟202床（計418床）
平成16年8月　増床変更 療養病床216床 精神病棟256床（計472床）
平成19年8月　介護保険法に基づく訪問介護事業を運営する「なごみの里ケアセンター」を開設
平成24年4月　老人保健施設なごみの里を移転増設（入所120人〈うち認知症専門棟40人〉・通所30人）

《施設概要》

療養病棟入院基本料2	4病棟	合計216床	総床数472床
精神療養病棟入院料	5病棟	合計256床	

《特色》

当院は、相模原市北西部の豊かな自然環境に恵まれ、広大な敷地の中に、快適な医療環境のもとで、地域医療・介護の中核を担う病院を目標にしています。主に慢性的な疾患を抱え長期の療養を必要とする患者さんに対して、医療・看護・介護・リハビリなどの適切な医療サービスを提供し、患者さんの早期回復、社会復帰が図れるようにすることを目指すための支援を行っております。

病棟は、療養病床、精神療養病棟の構成で、専門知識や経験をもつ医師やスタッフが多彩なニーズにきめ細かく対応できるように連携し、連続性のある医療提供することに努めております。

《メッセージ》

当院は、昭和54年9月に開設し、今年で44年目を迎えます。「患者さん第一の医療・看護・介護・リハビリの実践と地域医療に貢献」を基本理念においた医療サービスを提供することをモットーにしております。

患者さん並びにご家族が安心し、満足して療養生活を過ごして頂けるように患者さんの視点に立った真心のこもったより良いサービスを提供するため様々な取り組みを行っております。そのために患者さんの権利、尊厳を守り、何時も患者さんの意見を尊重する姿勢を大事にしています。患者さんの診療にあたる専門医師及び専門職スタッフが心を籠めて安全・安心な最良の医療サービスの提供に努めることを目指しております。

富士見台病院

理事長・院長
遠藤 詩郎

名　　称：医療法人社団清風会 富士見台病院
所 在 地：神奈川県平塚市土屋1645
電　　話：0463-58-0186
U R L：http://www.fujimidai-hospital.jp/
創立年月：昭和41年10月
敷地面積：20, 271㎡
総 床 数：305床
診療科目：精神科・内科
会　　員：遠藤 詩郎
理 事 長：遠藤 詩郎
院　　長：遠藤 詩郎
事 務 長：山田 謙太郎
看護部長：半田 悦子

《沿革》

昭和42年12月14日	開院
昭和56年７月	中央棟新設
昭和62年２月	南棟新設
平成２年２月	サービス棟新設
平成５年３月	デイケア施設承認
平成５年９月	作業療法承認
平成12年12月	グループホームメゾン金目設置
平成30年10月	西棟新設

《特色》

1. 地域のための病院

当院では、患者さんの“その人らしく自立した生活”を目標に患者さんが家庭や地域社会で安心して暮らせるように支援しています。急性期病棟や認知症病棟、慢性期病棟のように様々な患者さんの受入ができる環境を整えております。

2. 多彩な患者支援システム

外来治療、入院治療はもとより、デイケア、作業療法、訪問看護、グループホームなど多彩な支援システムで患者さんの生活をサポートしています。

3. 優れた治療環境

山、海、川、水と緑に囲まれた湘南の地で治療と療養を実践しています。混雑した都市部は精神科の療養環境として望ましくありません。風光明媚なこの環境が、治療効果をもたらします。

4. 治療に対する知識のアップデート

個々人の体験に頼るのではなく、年齢やキャリアに関係なく情報を共有して常に知識のアップデートを行っています。eラーニングの導入、研修会への参加、新規薬剤の積極的な導入、クロザピン治療の導入、各治験や臨床研究への参加など、精神医療の進歩に乗り遅れないように日々研鑽を積み、少しでも地域医療に貢献できるように努力しております。

《特色》

当院の基本理念は「私たちは、患者様に「良質」「公正」な医療サービスを提供し、常に人に優しく、広く地域に信頼される病院」です。

当院で治療を受けられる患者さんが当院であってよかった。また行政や他院からも当院と連携がとれて本当に良かったと思える病院を作って参りたいと思います。

保土ヶ谷病院

理事長
草場 亮輔

名　　称：医療法人 芳生会
　　保土ヶ谷病院
所 在 地：横浜市旭区白根7-11-1
電　　話：045-951-1113
U R L：https://www.hodogaya-hp.jp/
創立年月：昭和35年11月
敷地面積：10, 692㎡
総 床 数：393床
診療科目：精神科、内科
会　　員：草場 亮輔
理 事 長：草場 亮輔
院　　長：佐々木 道夫
事 務 長：中村 稔
看護部長：宮内 仁美
薬剤部長：田中 芽衣

《沿革》

昭和35年に、横浜市西部の小高い丘の上に精神科単科病院として設立し、60余年の歴史を刻んで参りました。丹沢山塊越しに富士山を望み、ランドマークタワーも眺めることのできる素晴らしい環境の地です。時代と地域の要請にこたえる形で規模を大きくし、時には結核合併病棟も運営するなどして、発展して参りました。現在も内科対応をしております。

歴代病院長の「困っている方の役に立とう」を合言葉にしながら、「患者様の権利を尊重したよりよい医療サービスを提供し、地域社会に奉仕する」を基本理念として、医療と福祉活動を行って参りました。

令和2年の4月からは、今まで経験のなかった児童思春期の患者様の入院、外来診察を始めています。

《特色》

児童思春期から高齢者まで幅広く、患者様を受け入れています。

《メッセージ》

今後も社会のニーズに応えるべく、心身双方のケアを心がけ、患者様、ご家族様、地域の皆様の健康と安全な生活に資するため、職員一同新たな気持ちで励んで参ります。

みくるべ病院

院長
岡﨑 有恆

名　　称：医療法人財団
　　青山会
　　みくるべ病院
所　　在：神奈川県秦野市
　　三廻部948番地
電　　話：0463-88-0266
ＵＲＬ：http//www.bmk.
　　or.jp/mikurube/
創立年月：平成7年1月1日
敷地面積：11,552.8㎡
総 床 数：276床
診療科目：精神科、神経科、
　　内科、歯科
会　　員：岡﨑 有恆
理 事 長：高屋 淳彦
院　　長：岡﨑 有恆
事 務 長：工藤 智晃
看護部長：中田 弘美
薬剤部長：山田 俊帥

《沿革》

平成7年1月	神奈川県秦野市にみくるべ病院を開設（許可病床数120床）
平成12年4月	第1期工事竣工、精神科作業療法施設及び精神科デイケア（小規模）併設
平成13年4月	第2期工事竣工（許可病床数280床に）
平成29年8月	4病棟改修工事（許可病床数276床へ）
平成30年7月	高屋 淳彦（現理事長）が理事長に就任
平成30年10月	神奈川県より依存症（アルコール健康障害・薬物依存）医療機関に選定
令和3年4月	岡﨑 有恆（現病院長）が院長に就任
令和4年1月	精神科往診開始
令和4年2月	心神喪失者等医療観察保護法指定通院医療機関に認定

《特色》

当院は「困っている人を助ける、親切な精神科医療機関であること」を信条とし、精神科医療を通じた社会貢献のあり方を考え続けています。当院の最大の特徴は平成30年に神奈川県から依存症専門医療機関として選定頂いたことですが、これも県域で依存症治療を提供する医療機関がほとんどない状況で、10年間努力を続けた結果です。また、当院は精神科専門医制度研修施設として若いエネルギーにあふれており、物質使用障害に限らず、統合失調症、気分障害、認知症など幅広い疾患に対し、迅速で適切な医療を提供できる急性期治療病棟を有しております。また重症、処遇困難な慢性期症例にも粘り強く、親切に寄り添い続ける精神科一般病棟も格別と自負しております。今後は疾病により身動きがとれなくなっている地域の方々を救うべく、往診や訪問診療・看護の部門を拡充し、更なる地域貢献を実現していきたいと考えています。

《メッセージ》

皆様から「みくるべ病院があってよかった」と言ってもらえるよう、迅速な受け入れと丁寧な治療・ケースワーク、地域連携を心掛け、当院の特色を活かした貢献をさせて頂きます。職員一丸となった暖かい雰囲気の当院に一度足を運んで頂ければ幸いです。

メンタルホスピタル かまくら山

院長
鈴木 雄壱

名　　称：医療法人 福慈会 メンタルホスピタル かまくら山
所 在 地：神奈川県鎌倉市鎌倉山1-23-1
電　　話：0467-32-2550
U R L：http://mh-kamakura.com/
創立年月：令和3年10月
敷地面積：4, 199. 47㎡
総 床 数：90床
診療科目：精神科
会　　員：鈴木 雄壱
理 事 長：坂本 長逸
院　　長：鈴木 雄壱
事 務 長：阿部 生行（代理）
看護部長：阿部 生行
薬剤部長：中邨 麻衣

《沿革》

鎌倉・逗子・葉山地区唯一の精神科病院として、半世紀以上にわたり地域医療の一端を担って参りました。

前身は、昭和7年開設の結核療養所「林間病院」。同30年、名称はそのままに、精神科病院に転換しました。開設者の代替わりに伴い、平成21年、「医療法人森と海　林間病院」と、個人病院から法人に組織変更しました。また、同25年12月には、老朽化した施設を全面的に建て替え、それに先立つ同年8月、「医療法人森と海　メンタルホスピタルかまくら山」と、名称を新たにしました。

令和3年10月、運営母体・開設者の変更と共に、医療法人名を「福慈会」としました。同4年4月には、県から委託され、連携型認知症疾患医療センターを開設し、現在に至っています。

《特色》

相模湾を遠景に、緑深い鎌倉山の稜線の最奥に位置し、療養には絶好です。大船駅や鎌倉駅からほど近く至便で、当院に近づくにつれ、市街から旧別荘地、更に、うっそうとした樹林へと一変する有り様は圧巻です。

精神一般病棟（15：1）のみの90床の小規模病院ながら、急性期治療、認知症治療、ストレスケア、精神科リハビリテーションと、病棟をエリアごとに機能分化し、特色づけしています。殊に、ストレスケア・エリアは、全国的にも稀有な、入院による森田療法・内観療法を展開しています。また、患者様の希望実現を志向し、“ストレングス・モデル”に立脚した社会復帰支援、及び、認知症“パーソン・センタード・ケア”に努めています。精神病理学に基づく古典的診断も重視し、器質、発達、心因にも目配せし、多次元診断を実践しています。

鎌倉・逗子・葉山地区の方々の精神保健のニーズに、総合的にお応えすることを中心に据えつつ、古都・鎌倉で、わが国伝統の森田療法・内観療法を、全国の方々にご提供できれば――。小規模だからこそ柔らかく人手をかけて、また、地の利を生かし、独自の在り方を探究しています。

《メッセージ》

小さな病院です。医療機器も限られています。できないことが多々あります。日頃の地域医療連繋があってこそ、当院は成り立っております。県精神病院協会各位におかれましては、これまで以上にご指導賜ればと存じます。

大和病院

理事長・院長
石井 一彦

名　　称：医療法人 正史会 大和病院
所 在 地：神奈川県大和市深見西 3-2-37
電　　話：046-261-0161
U R L：http://www.yamato-hospital.or.jp/
創立年月：昭和27年5月
敷地面積：10,726㎡
総 床 数：250床
診療科目：精神科
会　　員：石井 一彦
理 事 長：石井 一彦
院　　長：石井 一彦
事 務 長：石井 秀明
看護部長：志村 智子
薬剤部長：阪田 文恵

《沿革》

昭和29年5月　大和病院開設　51床　初代院長　石井正明
昭和34年4月　神奈川県知事より指定精神病院の指定を受ける
昭和45年11月　経営主体変更『医療法人社団正史会』となる 初代理事長　石井正明
昭和50年11月　石井都多史理事長就任
昭和54年5月　病棟増築により278床
平成元年3月　石井一彦院長　就任
平成4年7月　作業療法センター開設
平成6年6月　大規模デイケアセンター開設
平成10年12月　医療施設近代化整備事業による新病棟開設　250床
平成11年3月　グループホーム　森の家・森の家B　開設
平成25年4月　綾瀬市に訪問看護ステーション　開設
平成27年7月　綾瀬市に地域活動支援センター・トライアングル　開設
令和2年7月　大和市に地域活動支援センター・ポピー　開設

《特色》

大和病院は昭和29年の開院以来、大和市で唯一の精神科病院として、常に地域に根ざした「心」の医療を心掛け、明るく開放的な病院づくりを目指してまいりました。

外来と病棟は明るく、広々としたスペースを確保し、作業療法センターと大規模デイケアでは専用のグラウンドなども使用し個性あふれる活動を行っております。

《メッセージ》

これからも、外来から社会復帰まで、一貫した流れの中で、患者様、ご家族から信頼される病院づくりを常に心掛けて精神医療に取り組んでいく所存です。

横浜相原病院

院長
藤渡 辰馬

名　　称：医療法人社団 哺育会
横浜相原病院
所 在 地：神奈川県横浜市瀬谷区阿久和南2-3-12
電　　話：045-362-7111
U R L：http://www.yokohama-aihara.jp
創立年月：平成5年7月
敷地面積：8,627.90㎡
総 床 数：343床
診療科目：精神科、心療内科、内科、リハビリテーション科
会　　員：藤渡 辰馬
理 事 長：浪川 浩明
院　　長：藤渡 辰馬
事 務 長：坂本 賢一
看護部長：牛膓 好美
薬剤部長：西川 幸輝

《沿革》

平成5年7月1日	病院開設（精神科304床）
平成13年10月1日	精神科デイケア開設
平成18年11月1日	通所リハビリテーション開設
平成22年10月1日	医療法人社団哺育会 横浜相原病院（法人化）
平成27年11月	日本医療機能評価機構認定病院
令和2年3月1日	障害者グループホーム あいちゃんの家 開設
令和2年12月1日	横浜市より認知症疾患医療センター事業受託
令和3年6月1日	医療療養病棟（36床）開設
令和3年6月1日	精神科病床307床
令和3年10月1日	障害者グループホーム ハイツみやび壱番館 開設
令和5年4月1日	日本精神神経学会 精神科専門医制度研修施設認可 横浜市大精神医学教室専門研修協力施設となる

《特色》

理　　念：「名病院よりも良病院を！」
基本方針：患者さま、働く仲間にやさしい医療
地域社会のニーズに応えられる医療
何人にも平等な医療
全人的医療

《メッセージ》

「“名病院”というよりは、愛し愛される心を持った“良病院”と呼ばれるよう、地域医療に貢献していきます」との開院からの理念を受け継ぎつつ、地域に寄り添い、時代のニーズに応えられるよう、全職種で協力し取り組んでまいります。

横浜丘の上病院

理事長・院長
畑　俊彰

名　　称：医療法人社団
緑水会
横浜丘の上病院
所 在 地：横浜市戸塚区平戸
1-20-28
電　　話：045-822-0751
U R L：http://
okanouehospital.
com/
創立年月：昭和33年1月
敷地面積：5, 013. 40㎡
総 床 数：218床
診療科目：精神科
会　　員：畑 俊治
理 事 長：畑 俊彰
院　　長：畑 俊彰
事 務 長：定光 野草美
看護部長：石黒 芳子
薬剤部長：鈴木 康子

《沿革》

昭和33年1月	個人病院として戸塚山谷病院を開設。
昭和50年から	各病棟の患者ミーティングと職員ミーティングを開始。 患者主治医制度と病棟主治医制度を併用し、各病棟の準開放化を徐々に実行。
昭和54年	患者代表と職員代表による「作業・レク・生活委員会」を発足し、「外勤作業」の開始。 戸塚周辺3区に小規模地域作業所を保健所職員、地域の有志と協力して3か所設立した。アパート退院の促進。
昭和59年	「開放予定患者の合同ミーティング」（108名）。
昭和61年	西病棟、給食棟、医局増改築（定床245床）。 看護課三交代制度の実施。
平成6年	南棟、本館棟の改築。
平成9年	小規模デイケア開始、訪問看護の開始。
平成11年	東病棟改築（精神療養病棟）とOTの開始。
平成14年	医療法人社団緑水会設立、横浜丘の上病院と改名。
平成20年	急性期治療病棟の発足（定床218床。）
平成27年	訪問看護室の発足
令和5年	経営企画室の発足

《特色》

患者さんとよく話して信頼関係が構築できてから、本当の治療が始められると思っています。そして疾患にもよりますが、疾病教育が重要と考えています。疾病教育により、例えば「幻聴が聞こえるのは病気のせいだ」と患者さん本人が理解する「病感」を持てるようにするのです。病感があると治療が進みやすく、退院後も症状が落ち着き、再入院が少なくなることが期待できます。精神科疾患の場合、退院がゴールではなく、日常生活が送れるようになり社会復帰することがゴールと考えていますので、退院後の訪問看護やデイケアサービスも重視しています。

《メッセージ》

外来診療（AMのみ）に関しては、予約なしで来院されてもその日のうちに診察を行うのが当院の特徴です。事前に電話連絡をしていただいた方がスムーズですが、思い立った時にぜひ受診してください。眠れない、気持ちが落ち込む、ストレスを感じる、イライラしてしまうといった些細な症状でも、気軽に受診していただきたいと思います。また公認心理師による心理カウンセリングや心理検査も行っていますのでご相談ください。

横浜カメリアホスピタル

院長
齋藤 尚大

名　　称：医療法人 カメリア
横浜カメリアホスピタル
所 在 地：横浜市旭区白根町920
電　　話：045-958-0205
U R L：http://www.camellia-yokohama.jp/
創立年月：平成20年11月
総 床 数：120床
診療科目：精神科、児童思春期精神科
会　　員：齋藤 尚大
理 事 長：医療法人カメリア 理事長
長岡 和
院　　長：齋藤 尚大
事 務 長：有川 照規
看護部長：坂本 多美子

《沿革》

昭和41年２月21日	大村共立病院開院（初代院長　長岡守栄）
平成10年９月８日	医療法人カメリア設立（理事長　長岡和）
平成20年11月１日	横浜カメリアホスピタル開院 使用許可病床１病棟44床
平成21年４月	使用許可病床２病棟100床
平成22年４月	使用許可病床２病棟120床
平成26年９月	児童思春期精神科入院医療管理料27床　届出
平成27年７月	精神科急性期治療病棟入院料２　60床　届出
平成27年11月	精神科急性期治療病棟入院料１　60床　届出
平成28年５月	精神科急性期医師配置加算　届出
令和３年８月	児童思春期精神科入院医療管理料29床（２床増床）届出

《特色》

急性期からストレスケアまで幅広い診療を行っておりますが、特に児童思春期の治療に力を注いでおります。児童思春期専用病床のみならず急性期病棟でも治療しており、入院患者様の40～50%が児童思春期の方で、年齢層は小学校中学年から大学生まで、疾患も多岐に渡ります。児童相談所や学校と連携を図り、社会とのつながりも重視しております。年齢で区切ることなく、成人後も治療は継続でき、ライフコースをサポートできるよう関係諸機関と協力しております。

《メッセージ》

今後も児童思春期精神科医療を中心に、地域および日本の精神科医療に貢献して参りたいと思います。

横浜日野病院

院長
馬場 淳臣

名　　称：医療法人 徳洲会
横浜日野病院
所 在 地：神奈川県横浜市港南区日野3-9-3
電　　話：045-843-8511
U R L：http://www.hino-hospital.com/
創立年月：昭和36年8月
総 床 数：257床
診療科目：精神科
会　　員：馬場 淳臣
理 事 長：東上 震一
院　　長：馬場 淳臣
事 務 長：髙梨 久
看護部長：荻野 智美
薬剤部長：飛田 俊介

《沿革》

昭和34年12月12日	正和会日野病院として横浜市港南区に183床で開院
平成5年	病棟新築、388床に増床
平成14年8月	徳洲会グループ参加
平成30年12月	医療法人沖縄徳洲会日野病院に改組
令和3年10月	医療法人徳洲会日野病院に改組
令和5年2月	敷地内に257床の新病棟を新築・開棟、横浜日野病院と改名

《特徴》

本院は開院以来地域に根ざした精神医療を目指し、実践してきました。

徳洲会グループに参加してからはグループ唯一の精神科単科病院として、全国の徳洲会病院と連携を取っています。湘南鎌倉総合病院からは初期研修医研修の、湘南鎌倉医療大学からは、看護学生実習の受け入れを行っています。徳洲会未来医療研究センターから治験コーディネーターの派遣を受け、精神科領域の臨床治験も積極的に行っています。クロザリル適正使用委員会への登録を行い、治療抵抗性統合失調症に対するクロザリル治療を平成28年から実施しています。

《メッセージ》

現院長が入職してから一貫して職員に伝えて来たことは、「自分が入院したくなる病院にしよう」と言うことでした。心の病は低くはない確率で我が身降りかかって来ます。どんなに目を背けようとしても、これは厳然とした疫学的事実です。

自分が、自分の身内が病んだ時に入院したいと思えない病院にどうして他人様を入院させられようか。「僕だったら嫌ですけど、あなた入院して下さいね」などと、どの口が言えようか。

さはさりながら、徳洲会グループに参加した平成14年の時点で、病棟はすでに老朽化し、環境はお世辞にも良好とは言えない状態、というか最悪の状態でした。すぐに新築移転を目指しましたが、さまざまな計画がうたかたのようにかつ消えかつ結び、実現するまでに20年の歳月を要しました。就任時の「若手院長」が今やすっかり「爺医」です。

それでも令和5年2月に新病棟がオープン、病院名を「横浜日野病院」に改め、再スタートいたしました。かつてのオンボロ病棟を知る身としては、夢のような「箱」が出来ました。あとはそこにどのような「実」を詰めていくか。

これからがまた大変ですが、認知症の自分が入院している姿を思い浮かべながら、日々努力して参ります。

横浜ほうゆう病院

院長
日野 博昭

名　　称：医療法人社団鵬友会 横浜ほうゆう病院
所 在 地：神奈川県横浜市旭区金が谷644-1
電　　話：045-360-8787
U R L：http://www.hoyukai.org/yokohama-hoyu/
創立年月：平成13年4月
敷地面積：8,092㎡
総 床 数：215床
診療科目：精神科、内科
会　　員：日野 博昭
理 事 長：池島 秀明
院　　長：日野 博昭
事 務 長：相澤 裕
看護部長：原科 美津枝
薬 局 長：岩田 美千代

《沿革》

2001年4月　横浜市旭区に認知症に特化した精神科病院「ほうゆう病院」として開設。
2008年4月　「横浜ほうゆう病院」に名称変更。
2011年7月　207床から215床へ増床。重度認知症デイケア「サンアリス」完成。
2013年3月　日本医療機能評価機構の認定取得。2018年、2023年更新。
2017年9月　横浜市泉区の認知症初期集中支援推進事業受託。
2021年12月　横浜市保土ヶ谷区、旭区の横浜市認知症疾患医療センター受託。
2022年6月　横浜市若年性認知症支援コーディネーター事業受託。

《特色》

横浜ほうゆう病院は保土ヶ谷バイパス・中原街道が交差する下川井インターに近く、横浜市内外からのアクセスも良い、閑静な住宅街の近くに位置しております。　周囲には緑豊かな公園も多く、療養に適した環境です。　当院では各種学会が認定する認知症専門医が認知症の鑑別診断、行動・心理症状（BPSD）の治療など認知症に特化した最新の医療を提供しています。　看護・ケアについても認知症を専門とするスタッフがチームとなり、外来・入院医療の他認知症デイケアにも力を入れ、患者さんとご家族が再び穏やかに安心した生活を送れるように支援しています。

《メッセージ》

我が国の高齢化率は年々上昇を続けており、2022年10月の段階で29％に達しております。団塊の世代が75歳以上となる2025年ももう目前となっており、それによる認知症有病率も大幅に増加し、高齢者の5人に1人が認知症になると推計され、誰にとっても身近な問題となっております。

当院は認知症疾患医療センター等受託した3事業を基に、地域包括ケアシステムを担う病院として、患者さんにとって穏やかな日々を過ごしていただけるよう、ご家族には介護の重荷を少しでも軽減できるようにお力添えをいたします。

病院理念に「みなさまに喜ばれ愛される認知症に特化した医療を提供します」と掲げ、認知症医療・介護を通じて、地域社会・地域住民の方から支援される老年精神医療への貢献をより充実したものとしてまいります。

横浜舞岡病院

院長
加瀬 昭彦

名　　称：医療法人 積愛会 横浜舞岡病院
所 在 地：横浜市戸塚区舞岡町 3482
電　　話：045-822-2125
U R L：http://www.y-maiokahp.or.jp/
創立年月：昭和 32 年 4 月
敷地面積：25, 536. 9㎡
総 床 数：600 床
診療科目：精神科、神経科、内科
会　　員：加瀬 昭彦
理 事 長：小池 健
院　　長：加瀬 昭彦
事 務 長：原 雄二
看護部長：安田 みえ子
薬剤部長：守本 雅恵

【沿革】

昭和31年　医療法人積愛会　設立認可
昭和32年　横浜舞岡病院　開設　許可病床数50床
　　病棟増築　許可病床数100床
昭和37年　病棟増築　許可病床数156床
昭和46年　病棟増築　許可病床数378床
平成元年　病棟増築　許可病床数504床
平成 5 年　施設基準　精神科作業療法　開設
平成 7 年　新看護基準移行のため減床　許可病床数451床
　　老人性痴呆疾患療養病棟開設　許可病床数501床
平成 8 年　老人性痴呆疾患治療病棟開設　許可病床数551床
平成 9 年　施設基準　精神科デイケア（小規模）開設
平成10年　病棟改築　許可病床数595床
平成12年　施設基準　精神療養病棟Ⅰ（51床）開設
平成13年　施設基準　精神療養病棟Ⅰ（51床）増設
平成14年　施設基準　精神科デイケア（大規模）開設
平成16年　健仁会医療グループに加わる
平成18年　施設基準　認知症療養病棟を認知症治療病棟に転換
平成20年　介護老人保健施設「千の星・よこはま」（入所定員120名）開設
平成23年　2A病棟開設　許可病床数600床
平成24年　施設基準　精神科急性期治療病棟Ⅰ（2A病棟35床）
平成26年　横浜市認知症疾患医療センター事業（地域型）受託

【特色】

開設時（昭和 32 年当時）は 50 床だった病床数も現在では 600 床となり、精神科単科病院としては県下でも最大規模の病床数を有しています。平成 16 年に健仁会医療グループ（理事長：小池　健）に加わり、現在では、横浜、川崎、千葉、茨城を中心に、精神科病院・診療所、精神障害者生活訓練施設、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム等 18 事業所に及ぶ精神保健福祉、高齢者医療・介護のネットワークの一翼を担っています。

平成 26 年より受託している横浜市認知症疾患医療センター事業では、認知症鑑別診断にとどまらず医療・介護連携、家族支援、当事者の居場所作り支援、情報発信、普及啓発等に取り組み、高齢化社会の只中にある市内・近隣コミュニティ、近隣事業所、支援者等のネットワークへの支援・連携を深めるなど積極的な地域貢献に取り組んでいます。

【メッセージ】

神奈川県精神科病院協会設立 60 周年、誠におめでとうございます。現在当院では、統合失調症や気分障害、認知症、依存症等、幅広い年代の精神疾患の外来、急性期・療養等の入院ニーズにお応えしています。早期発見、早期回復を目指す積極的な医療の提供に加え、精神科作業療法や精神科デイケア、精神科訪問看護等の幅広い精神科リハビリテーションを多くの患者様に提供し、ご家族等への支援にも取り組んでいます。昨今の精神科医療、精神保健福祉の変遷が目覚ましい中、協会の一員として、あらゆる手だてを持って、患者さんの権利擁護・ご家族への支援、コミュニティとの連携に取り組んで参ります。

ワシン坂病院

院長
夏田　悟

名　　称：医療法人社団 山手正恵会
ワシン坂病院
所 在 地：神奈川県横浜市中区山手町
169番地
電　　話：045-623-7688
U R L：http://www.washinzaka-hospital.or.jp/
創立年月：昭和32年6月
敷地面積：2,670㎡
総 床 数：167床
診療科目：精神科、心療内科、内科
会　　員：夏田 悟
理 事 長：ミクレラン 後藤 時子
院　　長：夏田 悟
事務課長：本坊 晋也
副看護部長：武藤 勝寿

《沿革》

1941年	荒井病院（内科）開設
1957年6月	現在地に精神科、神経科病床195床としてワシン坂病院開設
1972年6月	内科、外科34床を併設し病床数229床に増床
1996年8月	精神科、神経科病床に一本化し病床数216床に変更
2003年9月	精神科デイケアを開始
2005年6月	医療法人社団山手正恵会　設立
2005年12月	精神科訪問看護を開始（2016年12月末をもって休止）
2006年10月	精神科作業療法室開設に伴い病床数197床に変更
2007年6月	個室増設に伴い病床数195床に変更
2008年9月	病床数196床に変更
2014年4月	個室増設に伴い病床数192床に変更
2017年12月	1-3病棟閉鎖に伴い病床数167床に変更

《特色》

どのような状況の方でも当院での入院が必要な方は断らないことをモットーに地域のニーズに応えて参ります。

北里大学病院

北里大学病院精神神経科 科長
北里大学医学部精神科学 教授
稲田　健

名　　称：学校法人北里研究所 北里大学病院
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里1-15-1
電　　話：042-778-8111
U R L：https://www.kitasato-u.ac.jp/khp/
創立年月：昭和46年4月
敷地面積：126, 098㎡
総 床 数：1,135床
診療科目：内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、血液内科、リウマチ科、感染症内科、アレルギー科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、精神科、心療内科、皮膚科、放射線診断科、放射線治療科、外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、心臓外科、血管外科、小児心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、眼科、小児科、産科、婦人科、麻酔科、救急科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科、歯科
会　　員：稲田 健
理 事 長：小林 弘祐
病 院 長：髙相 晶士
事務部長：永田 義裕
看護部長：別府 千恵
薬剤部長：尾鳥 勝也

《沿革》

1971（昭和46）年7月	北里大学病院 開院 （標榜科13科、許可病床数1,051床）
1986（昭和61）年4月	北里大学東病院 開院 （標榜科15科、許可病床数507床） 精神神経科病床は東病院に設置。
2020（令和2）年4月	北里大学東病院閉院。精神神経科は大学病院本院に統合した。 許可病床数1,135床（一般1,093、精神42）

《特色》

当院は「患者中心の医療」「共に創りだす医療」を理念として掲げ、患者さんの人権を尊重し、信頼される安全で高度な医療の実践をめざしています。この理念の実現に向けて、「患者の権利尊重」、「高度医療の提供」、「地域医療社会への貢献」、「教育・研究活動の推進」、「国際学術交流の推進」、「安定した経営基盤と安全な職場環境の確立」という6つの基本方針に基づき、患者・病院・地域が理想とする医療を「実現する病院」となれるよう活動してまいります。2020年4月からは精神神経科、神経耳科、リハビリテーション部門、心臓二次予防センター、小児在宅支援部門の診療機能が加わり展開しています。

《メッセージ》

北里大学病院精神神経科は、2020年4月に東病院から本院に移転統合しました。42床の閉鎖病棟と外来診察室、作業療法室、訪問診療部門を持ち、児童から高齢者まで幅広い患者さんへの対応が可能となる体制を整えております。微力ながら神奈川県の精神医療に貢献して参ります。

昭和大学横浜市北部病院

病院長
門倉 光隆

名　　称：学校法人
昭和大学横浜市北部病院
所 在 地：横浜市都筑区茅ケ崎中央35-1
電　　話：045-949-7000
U R L：https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/
創立年月：平成13年4月
敷地面積：9,585.40㎡
総 床 数：689床
診療科目：呼吸器センター、消化器センター、循環器センター、こどもセンター、脳血管センター、メンタルケアセンター、緩和ケアセンター、救急センター(ER)、内科、皮膚科、放射線科、リハビリテーション科、臨床病理診断科、外科、形成外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、歯科麻酔科、甲状腺センター、女性骨盤底センター、病院歯科、臨床遺伝・ゲノム医療センター
会　　員：稲本 淳子
理 事 長：小口 勝司
病 院 長：門倉 光隆
事務部長：小川 秀樹
看護部長：小笠原 京子
薬剤部長：縄田 修一

《沿革》

神奈川県精神科病院協会創立60周年おめでとうございます。昭和大学横浜市北部病院は、平成13年4月に横浜市都筑区に開院しました。現在、689床の急性期を担う大学附属の総合病院で、そのうち92床が精神科病床として登録されています。平成26年からは精神科救急病棟42床を稼働し、高齢者・認知症病棟50床とともに入院患者さんの受け入れ、神奈川県精神科救急医療システムの基幹病院でもあります。

《特色》

当科の特色は、総合病院の中にある精神科という点です。当院では、各診療科との連携による包括的な対応が可能なため、麻酔科の協力を得て修正型電気けいれん療法を実施可能であり、また内科と薬剤部の協力を得てクロザピンによる治療も可能です。

さらに、救急センターに搬送された自殺企図後や身体疾患を合併する患者さんにも対応しており、また緩和医療科とともに緩和医療チームでの活動も行っております。産婦人科と協働して周産期メンタルヘルスケアのためのスクリーニング・相談外来も充実させています。

病院全体の精神疾患併存患者さんの診療サポートのため、リエゾンチームを中心に若手医師が活躍しています。

現在当院で実施していないカウンセリング、認知行動療法プログラム、精神科リハビリ、依存症専門治療プログラム、神経発達症候群リハビリプログラムなどについては、近隣の専門病院での治療をお願いしています。

また症状が安定した患者さんについては、ご自宅の近隣の病院やクリニックと連携した治療を行っています。

《メッセージ》

当院に入院をご希望の患者さんは、原則予約制の初診外来に受診をお願いしております。施設入所中などで外来受診が難しい方は、ご家族に医療相談として受診をしていただき、医師が直接入院に関して説明をいたします。

また当日の入院受入が難しいこともある為、緊急性が高い患者さんの入院や、神奈川県精神科病院協会の会員病院で、当院の精神科医と直接、入院・受診相談をご希望の場合については、当該医療機関より、当院の地域医療連携室へお電話でご連絡下さい。

聖マリアンナ医科大学病院

聖マリアンナ医科大学
神経精神科学教室 主任教授
古茶 大樹

名　　称：学校法人
聖マリアンナ医科大学病院
所 在 地：神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
電　　話：044-977-8111（代表）
U R L：http://www.marianna-u.ac.jp/hospital/
創立年月：昭和46年4月
敷地面積：310,883㎡
総 床 数：955床
診療科目：総合診療内科、呼吸器・感染症内科、循環器内科、消化器・肝臓内科、腎臓・高血圧内科、代謝・内分泌内科、脳神経内科、血液内科、リウマチ・膠原病・アレルギー内科、腫瘍内科、神経精神科、小児科・新生児科、消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、腎泌尿器外科、産科・婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科
会　　員：古茶 大樹
理 事 長：明石 勝也
院　　長：大坪 毅人
事 務 長：安藤 あゆ
看護部長：本舘 教子
薬剤部長：田中 恒明

《沿革》

1971年4月、東洋医科大学の校名で開学、1973年4月に「聖マリアンナ医科大学」に改称し、1974年2月に聖マリアンナ医科大学病院を開院しました。1987年に聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院が開院、2006年に川崎市から指定管理者として指定を受け川崎市立多摩病院が開院しました。2009年3月に聖マリアンナ医科大学ブレスト＆イメージング先端医療センター付属クリニックが開院しました。創立50周年を迎え、菅生キャンパスリニューアル計画として2023年1月に新入院棟が開院しました。2024年には東横病院が閉院しますが、同年10月に新外来棟、2026年8月に新キャンパスがグランドオープン予定で建設が進んでいます。

《特色》

神経精神科は、①統合失調症治療センター、②精神療法・ストレスケアセンター、③認知症（老年精神疾患）治療研究センター、④こどものこころセンターという4つの治療センターを有し、児童思春期から老年期まで、あらゆる精神疾患に対応できる体制になっています。新入院棟では、32床（うち隔離室3床）の閉鎖病棟で、児童思春期ユニットを有しており、特定機能病院における精神科病棟として、急性期の治療や難度の高い病態の診断や治療、精神障害に合併した身体疾患の治療を身体診療各科と協力して行っています。認知症精査のための1日検査入院、うつ病に対する電気けいれん療法や経頭蓋磁気刺激療法、治療抵抗性統合失調症へのクロザピン導入などの専門治療も実施しています。

《メッセージ》

地域の皆様からの幅広い医療ニーズに答えられるよう連携し、地域医療への貢献を続けます。ご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

東海大学医学部付属病院

東海大学医学部
総合診療学系精神科学
領域主任教授
山本 賢司

名　　称：東海大学医学部付属病院
所 在 地：神奈川県伊勢原市下糟屋143
電　　話：0463-93-1121㈹
U R L：https://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp
創立年月：昭和50年2月
敷地面積：104, 068. 8㎡
総 床 数：804床（精神病床はなし）
診療科目：精神科
会　　員：山本 賢司
理 事 長：松前 義昭
院　　長：渡辺 雅彦
事務部長：原 義徳
看護部長：横田 弘子
薬剤部長：鈴木 優司

《沿革》

東海大学医学部付属病院は1975年2月17日に開院し、開院当初は力動的精神医学の考えに基づいた開放病棟での入院加療、外来診療を行っていましたが、2005年9月30日に5号館へ診療機能が移行する際に精神病床を閉鎖し、現在はコンサルテーション・リエゾン精神医学、児童青年期精神医学を中心とした診療に力を入れています。

《特色》

東海大学医学部総合診療学系精神科学は、開学当初から成人と児童の精神科臨床・研究を両輪として今日に至っています。現在、成人の精神科臨床として力を入れているのは、身体科病棟や救命センターにおけるコンサルテーション・リエゾン精神医学であり、看護師や心理師、ソーシャルワーカーなどとともにチーム医療を実践しています。精神科内には、自殺企図患者やICU入室患者の精神的な問題を扱う「救命救急チーム」、緩和ケアチームと連携しがん患者の精神科的な問題を扱う「サイコオンコロジーチーム」、がん以外の疾患や救命救急センターを除いた身体科病棟に入院している患者の精神医学的な問題を扱う「一般精神科リエゾンチーム」が構成され、診療を行っています。外来では統合失調症や気分障害、不安障害などを対象とした成人の一般精神科臨床だけでなく、児童青年期症例も数が多く、児童相談所や学校、養護施設などとも連携しています。また、精神科専門医研修では伊勢原の大学病院を基幹施設とし、研修連携施設である東海大学医学部付属八王子病院、近隣の10精神科病院、神奈川県精神保健福祉センターと連携しながら研修を進める体制を構築しています。研修連携施設とは臨床面でも交流が深く、認知症疾患医療センターや産業精神医学のネットワーク、発達障害児地域支援者のネットワークをそれぞれ構築し、地域との連携強化を図っています。

《メッセージ》

特定機能病院として、充実した精神科リエゾン体制を構築し、身体疾患と精神疾患を合併する患者さんに質の高い診療を行っていきたいと思っています。また、教育機関として、一般精神科臨床に精通した精神科医の育成、看護師、心理師、ソーシャルワーカーなど多職種の教育にも協力をしていきたいと考えています。

横浜市立大学附属病院

横浜市立大学附属病院

市民総合医療センター

名　　称：公立大学法人
横浜市立大学附属病院
所 在 地：神奈川県横浜市金沢区福浦3-9
電　　話：045-787-2800
U R L：https://www.yokohama-cu.ac.jp/fukuhp/
創立年月：平成3年7月1日
敷地面積：27,296㎡
総 床 数：674床（精神26床）
診療科目：精神科・児童精神科
会　　員：浅見 剛
理 事 長：小山内 いづ美
院　　長：後藤 隆久
事 務 長：羽田 政直
（医学・病院統括部長）
看護部長：鈴木 久美子
薬剤部長：佐橋 幸子

《沿革》

横浜市立大学附属病院は、明治7（1874）年に開設された十全病院を起源とし、昭和19年横浜市立医学専門学校開校とともに附属十全病院となりました。令和6年に横浜市立大学医学部は創立80周年を迎えます。現在の附属病院は平成3年7月1日、横浜市南区浦舟町から金沢区福浦に移設し開院しました。また、市民総合医療センター（センター病院）は平成12年1月1日、浦舟町に新設されました。精神医学教室（精神科）は昭和22年6月に初代竹内一教授によって開講され、令和4年で開講75年となりました。これまでに神奈川県病院協会会員病院の医師をはじめ多くの精神科医を地域に輩出しています。令和5年3月まで菱本明豊が第7代主任教授として主宰していました。

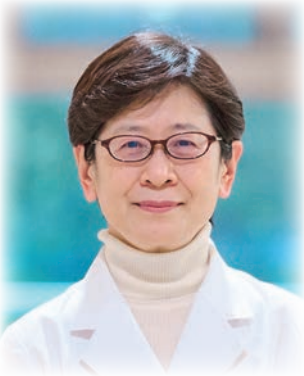
《特色》

附属病院の精神科病棟は26床（個室6床、保護室2床）の開放病棟です。身体合併症への対応、ADLの低い高齢者、器質性・症状性精神障害、クロザピンの適応となる治療抵抗性統合失調症などの診療を積極的に行っています。平成25年1月に横浜市からの委託を受け、横浜市初の認知症疾患医療センターを開設しました。センター病院精神医療センターは四県市の精神科救急医療事業における精神科救急基幹病院として、措置入院をはじめとした精神科救急症例を応需しています。平成23年4月より病棟を全閉鎖化し、同年5月から精神科救急入院料病棟として緊急性の高い非自発的入院に対応してきました。現在は精神科救急・合併症入院料病棟として役割を拡げ、身体合併症症例への対応にも力を入れています。また、2病院とも充実したリエゾンチームを持ち、一般精神科とは独立した児童精神科の外来を設置しています。

《メッセージ》

横浜市立大学附属2病院の精神科は、診療・医学教育・臨床研究など、医学部と一体となって活動しています。

神奈川県立精神医療センター



所長
田口 寿子

名　　称：地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター
所 在 地：神奈川県横浜市港南区芹が谷2-5-1
電　　話：045-822-0241
U R L：http://seishin.kanagawa-pho.jp/
創立年月：平成22年4月
敷地面積：69, 757. 63㎡
総 床 数：323床
診療科目：精神科、歯科、放射線科
会　　員：田口 寿子
理 事 長：吉川 伸治
所　　長：田口 寿子
事務局長：遠藤 昇
副院長兼看護局長：佐藤 裕季子
薬剤科長：菊地 正孝

《沿革》

当センターは、精神病院法に基づくわが国3番目の府県立精神病院である。昭和4年3月から診療を開始した「芹香院」、昭和38年4月に全国に先がけて麻薬中毒患者専門医療施設として収容治療を開始し、その後神経症、アルコール依存症、薬物中毒等の患者を対象に治療を行ってきた「せりがや園」を統合して、平成2年4月に神奈川県立精神医療センターに組織改正した。その際に名称も「神奈川県立精神医療センター芹香病院」、「同せりがや病院」に改称した。平成22年4月には地方独立行政法人神奈川県立病院機構に移管され、平成26年12月には新築移転と同時に両病院が統合され、「神奈川県立精神医療センター」となった。

《特色》

当センターには2つの救急病棟（計70床）、4つの専門病棟（思春期病棟（30床）、ストレスケア病棟（30床）、依存症病棟（45床）、医療観察法病棟（33床））のほか、身体介護を要する患者のための身体ケア病棟（35床：うち2床は結核患者用の陰圧室で、令和2年5月から約3年間、この病棟で新型コロナウィルス感染症に罹患した精神科患者約180名を受け入れた）、社会復帰をめざす患者のための地域移行支援病棟（40床）、難治性の患者のための高度ケア病棟（40床）がある。

当センターは、県の精神科救急医療システムの基幹病院として全システム用病床33床のうち16床を運用しており、年間250～300例の救急患者を受け入れている。県の依存症治療拠点機関であるため、外来・入院ともに依存症患者の比率が高く（約25％）、認知症患者の入院病棟がない（入院依頼があった場合は県内の認知症専門病院、専門病床のある精神科病院に紹介している）ため70歳以上の高齢者が少ない（約6％）点が特徴である。また、他院からの転院例を含め難治例が多く、修正型電気けいれん療法や治療抵抗性統合失調症患者に対するクロザピン導入を積極的に行っている。

《メッセージ》

紹介、逆紹介により病病連携・病診連携をさらに進め、幅広い地域のニーズに応えることができる病院をめざしていきたいと考え、院内での体制整備に努めております。よろしくお願い申し上げます。

久里浜医療センター

院長
松下 幸生

名　　称：独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター
所 在 地：横須賀市野比5-3-1
電　　話：046-848-1550
U R L：https://kurihama.hosp.go.jp
創立年月：昭和16年6月 横須賀海軍野比分院として創立
敷地面積：総面積 143,807.07㎡（病院142,159.51㎡、宿舎1,647.56㎡）
総 床 数：277床（精神232床、一般45床）
診療科目：内科、精神科、消化器科、リハビリテーション科、放射線科、歯科
会　　員：松下 幸生
理 事 長：独立行政法人国立病院機構 理事長：楠岡 英雄
院　　長：松下 幸生
事務部長：木村 寛
看護部長：高山 早苗
薬剤部長：長谷川 貴子

《沿革》

昭和20年12月	厚生省に移管　国立久里浜病院として発足
昭和38年7月	国立医療機関として初めてのアルコール専門病棟を設置
昭和64年1月	WHOアルコール関連問題研究・研修協力センターとして指定
平成16年4月	独立行政法人へ組織変更
平成18年4月	医療観察法に基づく指定入院医療機関として指定（暫定17床）
平成20年3月	医療観察法病棟（しおさい病棟34床）を新築
平成20年10月	医療観察法病棟（なぎさ病棟18床）を新築
令和3年10月	新病棟（4階建 一般病床45床、精神病床180床）・作業療法棟を新築 現在に至る

《特色》

昭和64年にWHO（世界保健機関）から日本で唯一の物質使用・嗜癖行動研究研修協力センター施設として指定されている。

また、若年、女性、成人、老人など、それぞれのアルコール依存症に適した独自の治療プログラムを作成し、治療を行っており、平成29年4月から日本初の試みとして減酒外来を設置し診察を開始している。

このほか、ギャンブル、ネット、ゲーム依存症などの専門診療も行っており、平成29年4月には依存症対策全国拠点機関に指定されている。

さらに、うつ病、統合失調症、認知症、アルコール内科や内視鏡検診センターにおけるIBS（過敏性腸症候群）外来、認知症・もの忘れなどの治療も行っており、平成24年1月には神奈川県から認知症疾患医療センターとして指定されている。

教育研修活動としては、アルコール医療に携わる方を対象に、5職種5コースの研修会（アルコール依存症臨床医等研修）やネット依存研修（医療関係者向け、教育関係者向け）、ギャンブル等依存症研修を開催し、嗜癖の知識及び対策の向上を図っている。

《メッセージ》

当センターは精神・神経系疾患に起因する疾病の治療における国内の中心的な医療機関です。アルコール依存症はもとよりギャンブル、ネット、ゲーム依存治療なども近年では注目が集まっており、治療のみならず研究、専門家の育成、外部へのコンサルテーション、情報発信などを含んだ包括的な活動が求められており、その役割を果たしてきております。

今後も治療や研究を行いながら更に良い医療を提供するべく職員一同、努力していきますのでどうぞご期待下さい。

川崎市立川崎病院

院長
野﨑 博之

名　　称：川崎市立川崎病院
所 在 地：神奈川県川崎市川崎区新川通12-1
電　　話：044-233-5521
U R L：http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/index.html
創立年月：昭和20年6月
敷地面積：19,813㎡
総 床 数：713床
診療科目：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、感染症内科、新生児内科、肝臓内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、血管外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科
病 院 長：野﨑 博之（会員）
事務局長：渡辺 貴彦
副 院 長：上田 誠司
副 院 長：澤藤 誠
副 院 長：齋藤 寿昭
副 院 長：藤原 実香（看護部長兼務）

《沿革》

昭和20年6月　総合病院となり「川崎市立川崎病院」と改称
平成14年4月　精神科救急24時間体制の開始
平成17年4月　病院局の設置
　　地方公営企業法の全部適用
平成18年4月　救命救急センター開設

《特色》

当院は数少ない川崎市内の精神科病棟を有する総合病院として、精神症状に対する身体的要因を含む鑑別診断、精神科身体合併症の治療、治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン治療、難治の精神疾患（統合失調症、うつ病など）の患者さんに対する修正型電気けいれん療法などが優先される役割と考えております。

また当院は神奈川県の基幹病院の1つとして、4県市（川崎市、横浜市、相模原市、神奈川県）による精神科救急医療事業に参画しています。

《メッセージ》

比較的急な入院が必要な場合には電話にて連絡（代表にて精神科　精神保健福祉士呼出し）をください。病室などの状況もございますが、できる限り迅速に対応するよう努めております。

済生会横浜市東部病院

院長
三角 隆彦

名　　称：社会福祉法人恩賜財団済生会
済生会横浜市東部病院
所 在 地：神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1
電　　話：045-576-3000
U R L：https://www.tobu.saiseikai.or.jp/
創立年月：平成19年3月
敷地面積：約27,500㎡
総 床 数：562床
診療科目：内科、循環器科、消化器科、消化器外科、神経内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、精神科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科
会　　員：三角 隆彦
支 部 長：赤星 透
院　　長：三角 隆彦
事務部長：折登 剛
看護部長：渡邊 輝子
薬剤部長：菅野 浩

《沿革》

平成14年3月4日　東部地域中核病院の事業主体候補に神奈川県済生会を選定（横浜市）
9月17日　東部地域中核病院の整備に関する基本協定書を締結（横浜市・神奈川県済生会）
平成15年7月1日　東部方面重症心身障害児施設の整備に関する基本協定書を締結（横浜市・神奈川県済生会）
9月24日　病院開設許可を得る（一般病床504床、精神病床50床）
平成19年3月30日　済生会横浜市東部病院開院
4月1日　重症心身障害児（者）施設サルビア開所
9月1日　救命救急センターの指定を受ける
平成20年6月1日　神奈川県周産期母子医療センターの認定を受ける
9月24日　地域医療支援病院の指定を受ける
平成21年4月1日　DPC対象病院となる
平成22年5月19日　一般病床2床（GCU）増床（一般病床506床、精神病床50床）
平成23年3月23日　神奈川DMAT指定病院の指定を受ける
11月1日　一般病床4床（救命救急センター病棟）を増床（一般病床510床、精神病床50床）
平成24年3月2日　日本医療機能評価機構認定（ver.6.0）
平成25年2月6日　神奈川DMAT-L指定病院の指定を受ける
4月1日　神奈川がん診療連携指定病院の指定を受ける
平成25年8月1日　卒後臨床研修評価機構JCEPの認定を受ける
平成26年1月1日　横浜市認知症疾患医療センターの指定を受ける
8月6日　地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける
10月1日　横浜市重症外傷センターの指定を受ける
平成29年8月2日　看護師の特定行為研修を行う研修機関の指定を受ける
平成30年7月11日　外国人患者受入医療機関（JMIP）認証
平成31年4月1日　神奈川県難病医療支援病院の指定を受ける
令和元年11月28日　一般病床2床（小児病棟）を増床
令和2年11月11日　認定看護分野　小児プライマリケアにおける研修を行う研修機関の認定を受ける
令和3年7月11日　外国人患者受入医療機関（JMIP）認証更新
8月1日　卒後臨床研修評価機構JCEP認定更新
令和4年3月2日　日本医療機能評価機構認定更新（3rdG：ver.2.0）

《特色》

医療と福祉の連携を目指す済生会の理念のもと、社会福祉法人として患者中心の良質な医療の提供を目指すほか、障害児・者などのあらゆる社会的支援を要する人への対応を行い、医療を通じて何よりも大切な生命を守りたいと考えています。また、福祉を含めた幅広い連携を進め、地域全体の医療の質の向上を目指します。

診療機能の特徴としては、がん、心疾患等に関する高度で専門的な医療の提供、疾患別センターによる職種や診療科の枠を超えたチーム医療の提供を進めるほか、救命救急（三次救急）、小児救急、精神科救急等の政策的医療を担います。当院は「精神科救急・合併症入院料」を算定し、合併症のある患者さまも受け入れができる体制を整えております。

一方、重症心身障害児（者）施設を院内に併設（44床）し、重度重複した障害を持ち、医療処置を必要としながら生活している子供たちの診療にあたるとともに、在宅医療を支援する後方支援としての役割も担います。

《メッセージ》

創立60周年を迎えられまして、心よりお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、社会福祉ならびに精神医学の更なる発展に寄与されることをご期待申し上げます。今後の貴協会のますますの発展と会員の皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

みなと赤十字病院

精神科部長
京野 穂集

名　　称：横浜市立みなと赤十字病院
所 在 地：横浜市中区新山下 3-12-1
電　　話：045-628-6100
U R L：http://www.yokohama.jrc.or.jp/
創立年月：平成 17 年 4 月
敷地面積：28, 613. 95 ㎡
総 床 数：634 床
診療科目：内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、脳神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科（36 科）
会　　員：京野 穂集
理 事 長：横浜市長　山中 竹春
院　　長：大川 淳
事 務 長：柳田 幸夫
看護部長：間瀬 照美
薬剤部長：井口 恵美子

《沿革》

当院は、病院の開設者を横浜市長、指定管理者を日本赤十字社として 2005 年 4 月に精神科を 584 床で開院しました。その後 2 年間の準備期間を経て 2007 年 5 月に精神科病床 50 床を開床し全 634 床となりました。精神科はその後同年 6 月から横浜市身体合併症システム受け入れを開始し、同年 10 月からは精神科 3 次救急システムに参画しました。2010 年 1 月からは精神科救急・合併症入院料を算定しています。2021 年 4 月からは新専門医制度の精神科基幹施設に認定されました。

《特色》

当院精神科の特徴は政策的医療である精神科救急と、身体合併症を扱っている点にあります。身体合併症については神奈川県の身体合併症システムで扱う症例のおよそ 8 割を当院で受け持っています。精神科救急医療としては主に単科精神科病院では対応が難しい身体合併症のある救急患者さんを多く受け入れているのが特徴です。麻酔科との連携のもとで修正型電気けいれん療法（ECT）を行っており、近隣の精神科単科病院からの ECT 目的の転院依頼も多く年間のべ 300 件ほど施行しております。当院は救急車受け入れ台数が多い病院ですので、自殺関連行動による受診患者さんも多くみられます。このため自殺予防や再企図防止のための介入にも力を入れております。他科に入院中の患者さんのせん妄や精神医学的問題に対する併診も積極的に行っております。また地域のニーズに応え、強迫症専門外来を開設し、認知行動療法を主体とした外来治療を行っています。2020 年からは当院が横浜市認知症疾患医療センターに認定されましたので、認知症に関連した精神症状への対応件数も増えております。

《メッセージ》

精神疾患の有無にかかわらず平等で適切な医療が受けられるように尽力してまいります。総合病院という機能を十分に生かし、丁寧な診断、十分な鑑別診断、患者中心の血の通った治療を心掛けております。身体合併症や複雑困難例など、総合病院精神科でなければ対応が難しいケースを積極的に受け入れ、地域医療に貢献していきたいと考えておりますので今後ともよろしくお願いいたします。

あとがき

神奈川県精神科病院協会副会長　大滝 紀宏

日頃より一般社団法人神奈川県精神科病院協会の事業運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、当協会も創立60周年を迎えることができました。令和5年11月15日には横浜ベイホテル東急で創立60周年記念式典を開催することができ、多くの関係者にご参加いただいたこと、心より御礼申し上げます。

記念誌発行にあたり、ご御多忙中ご祝辞をいただいた黒岩神奈川県知事、山中横浜市長、福田川崎市長、本村相模原市長、菊岡神奈川県医師会会長、吉田神奈川県病院協会会長、斎藤神奈川県精神神経科診療所協会会長、山崎日本精神科病院協会会長、県内各大学医学部精神科教室責任者の皆様方に深く感謝いたします。また当協会に多年にわたりご尽力いただいた、各分野の先生方にもご執筆いただき御礼申し上げます。

この10年を振り返ってみても、医療をめぐって様々な問題が起きました。特にコロナ禍は、医療面のみならず、人々の生活に心理的・経済的に様々な問題を惹起いたしました。精神科病院としては、感染症に強い医療体制を整えると同時に、市民のこころや生活に配慮した支援を行う努力をいたしました。

今後は精神医療においても地域包括ケアの視点が入ってきますし、精神保健福祉法の改正により、一層人権感覚を持って患者さんの治療をしていく必要があります。

本記念誌の冒頭、会長挨拶でも触れましたが、当会の会長は19年間けん引して下さった竹内知夫先生が退任いたしました。竹内前会長の下で、神奈川県の精神科救急医療体制を充実させ、県内の精神保健の改善に寄与できたことは、協会会員にとっても誇らしいことでした。また令和3年には、第10回日本精神科医学会学術大会を開催することができ、五木寛之氏の講演を聞くことができたのも良い思い出です。

令和5年5月30日からは、山口哲顕会長による新体制が発足しました。新体制は未だ運営に不慣れな点もありますが、県民の健康を願い、誠心誠意業務に邁進する所存です。引き続き神奈川県精神科病院の事業運営にご支援のほどよろしくお願いいたします。

編集委員　大滝紀宏
武田龍太郎
馬場淳臣
藤渡辰馬
長谷川吉生

神奈川県精神科病院協会
創立60周年記念誌

令和６年１月吉日　発行

編集・発行　一般社団法人 神奈川県精神科病院協会

〒221-0834 横浜市神奈川区台町8-14
ベイシティ滝川307号
電話 045（316）0349

発 行 人　山 口 哲 顕

印　　刷　株式会社　横濱大氣堂